

4.【ハード的な資産の活用（境内・伽藍の活用）】①

ナンバーをクリック！

【境内・伽藍の開放系】

- ★ ラジオ体操⇒[NO.45](#), [NO.50](#), [NO.171](#)
- ★ スポーツ練習所⇒[NO.125](#)
- ★ ペットの遊び場⇒[NO.189](#)
- ★ 学童保育／自習室・図書室／子供の遊び場⇒[NO.4](#), [NO.23](#), [NO.45](#), [NO.49](#), [NO.50](#), [NO.62](#), [NO.64](#), [NO.89](#), [NO.90](#), [NO.101](#), [NO.102](#), [NO.104](#), [NO.106](#), [NO.112](#), [NO.117](#), [NO.125](#), [NO.143](#), [NO.162](#), [NO.165](#), [NO.168](#), [NO.171](#), [NO.185](#), [NO.188](#), [NO.189](#)
- ★ お笑い芸人、大道芸人に舞台を貸す⇒[NO.71](#), [NO.184](#)
- ★ 公衆便所⇒[NO.125](#)
- ★ 路線バスの停留所⇒[NO.125](#)
- ★ ランチを食べる場所⇒[NO.7](#), [NO.110](#)
- ★ 休憩する場所⇒[NO.15](#), [NO.125](#), [NO.155](#)
- ★ 本堂で昼寝⇒[NO.201](#)
- ★ 鬼ごっこ⇒[NO.31](#), [NO.92](#)
- ★ 雑談寄り合い所⇒[NO.30](#), [NO.88](#), [NO.91](#), [NO.108](#), [NO.111](#), [NO.199](#), [NO.214](#), [NO.220](#), [NO.222](#)
- ★ いつでも朝参り出来る⇒[NO.133](#), [NO.220](#)
- ★ 太鼓を教えて貰える⇒[NO.92](#), [NO.133](#), [NO.189](#)
- ★ 予約なしに本堂に上がれる⇒[NO.25](#), [NO.76](#), [NO.133](#)

【会場提供系】

- ★ ライブハウス⇒[NO.26](#)
- ★ コスプレ大会会場⇒[NO.59](#), [NO.172](#)
- ★ 選挙の投票所⇒[NO.99](#)
- ★ 災害時に避難所として開放する⇒[NO.4](#), [NO.9](#), [NO.47](#), [NO.50](#), [NO.66](#), [NO.178](#)
- ★ 女子会の会場⇒[NO.154](#)
- ★ 地域の役員会⇒[NO.66](#)

4.【ハード的な資産の活用（境内・伽藍の活用）】②

ナンバーをクリック！

【置場提供系】

- ★ リサイクルの拠点⇒[NO.42](#), [NO.172](#)
- ★ 防災物資の管理⇒[NO.111](#)
- ★ お祭り（山車や神輿の保管場所、祭りの発着、踊り練習所、町内会の打ち合わせ）⇒[NO.77](#), [NO.92](#), [NO.173](#)

【土地を貸す系】

- ★ アパート経営⇒[NO.125](#)
- ★ 寺院の一部を店舗として貸す⇒[NO.218](#)
- ★ 駐車場⇒[NO.125](#)
- ★ 駐輪所（レンタルサイクル）⇒[NO.180](#)
- ★ 敷地の一部を提供して身体障害者施設や老人ホームに⇒[NO.83](#), [NO.125](#), [NO.205](#)
- ★ フリマスタイルで出品、寺院は出店者の管理⇒[NO.26](#), [NO.45](#), [NO.71](#), [NO.103](#), [NO.104](#), [NO.113](#), [NO.155](#), [NO.172](#), [NO.177](#), [NO.189](#), [NO.201](#), [NO.212](#), [NO.221](#)
- ★ 農具の貸出⇒[NO.146](#), [NO.189](#), [NO.191](#)
- ★ 大道芸人・お笑い芸人（吉本興業）に発表の場を与える⇒[NO.15](#)
- ★ 掲示板の貸出⇒[NO.180](#)

【公園化系】

- ★ 空いている敷地に水田や畑を作る（子供と老人）⇒[NO.187](#)
- ★ 花見の時に人を呼ぶ（本堂、境内を開放する等）⇒[NO.47](#), [NO.169](#), [NO.184](#), [NO.201](#)
- ★ 小さな庭と小さな建物⇒[NO.125](#)
- ★ 砂場・ベンチ・歩道・花壇⇒[NO.169](#), [NO.174](#)
- ★ 入ろうかどうかを考えさせない寺（塀が高すぎるのはダメ等）⇒[NO.125](#)
- ★ 地の利を生かした個性的な広場を寺ごとに作る⇒[NO.27](#), [NO.32](#)
- ★ 壁や建具を開放し、自由に出入りしてもらう⇒[NO.179](#)

4.【ハード的な資産の活用（境内・伽藍の活用）】③

ナンバーをクリック！

【展示会系】

- ★ 作品展・美術展⇒[NO.58](#), [NO.164](#), [NO.182](#), [NO.204](#)
- ★ アロマ・書道・詩・水墨画⇒[NO.189](#)
- ★ 絵手紙・絵画・パッチワーク・写真・陶芸・俳句⇒[NO.26](#)
- ★ シアター・年中行事に関するもの⇒[NO.4](#), [NO.26](#), [NO.45](#), [NO.47](#), [NO.207](#), [NO.211](#)
- ★ お化け絵画コンクール⇒[NO.120](#)

【相談窓口系】

- ★ 専門家を相談窓口（カウンセラー、医者、行政相談委員）⇒[NO.19](#)
- ★ 相談ポスト／ご意見箱（掲示板に回答を掲示する、ネットで公表）⇒[NO.126](#), [NO.190](#)
- ★ 法律相談・消費者相談・家事相談・悩み相談⇒[NO.4](#), [NO.13](#), [NO.90](#), [NO.82](#), [NO.96](#), [NO.125](#), [NO.154](#), [NO.183](#), [NO.192](#), [NO.212](#), [NO.219](#)
- ★ いつでも相談出来る会場⇒[NO.4](#), [NO.19](#), [NO.96](#), [NO.154](#), [NO.206](#), [NO.212](#)
- ★ メールやスカイプで悩み相談⇒[NO.104](#)

【販売コーナー系】

- ★ 訳あり商品（曲がっている野菜など）⇒[NO.79](#)
- ★ 地域の特産品⇒[NO.172](#)
- ★ 和菓子⇒[NO.172](#)
- ★ お好み焼き・たこ焼き・かき氷等⇒[NO.26](#)
- ★ 大手メーカーのPR会⇒[NO.15](#)

寺コミュニティアラルト		60才	女性
NO.4	P1	修行／会場提供／展示会／相談窓口／本格経営／境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

N01

① 名称 寺コミュニティー アラルト
お寺を舞台にした ア行イ

・地域の老若男女が集い
明るく元気を 所にたれるように。

1. 寺古屋 (子供館)
2. 早稲が出来る (大人の精神修業)
座禅
3. 図書館 (寺とはほど理解できる本や
地域から本を集めておける
音読したり、借りしめたりする)
4. レストラン 精進料理を格安で集める
5. ショップ (早稲はいてる商売をやる
その地域の特産品)
6. シアター (地域の祭り
郷土芸能など
がやられる
地域の人が発案する時も利用する)

N02

7. 宿 坊 (格安で宿泊できる)

8. 悩み相談 (悩みの解消のため
主観から聞かせる)

9. 料理教室 (ヘルシーな精進料理
を作る)

10. お寺のボランティア
施のせいで、お寺を維持する
のに必要は作業の負担を軽減。

11. 柴屋時、お寺に集まる場所
寺の格式を壊さず、地域に
開かれた場所。古くから、寺
がねは、竹きき出来る
開放的な いたる所
にしたいと思う。

ランチ	お茶会	お泊り	瞑想	お香	38才	女性
NO.7	P1	勉強会／交流が目的の会／境内・伽藍の開放				⇒ジャンルへ

morning - ☀ -

瞑想で頭すっきり！

出勤前に瞑想してから会社に行く。

フランスの会社でも取り入れている所もあるとか！..

目を閉じて心を落ち着かせることで集中力が高まり仕事の効率もUP
すると思います。

お茶・お香 講座

夜は仕事等、何かと時間が読めないのよ" 朝、自分のために
時間を使うのはどうかna と思いました。

after noon ☸

お寺でLunch

自然食や玄米菜食でお弁当のようにする。主婦や子どもも入るよとか"
できる感じにして和の時間のすばらしさを体感できたらし！！！！と思いました。
(おにぎり、おみそしる、おつけもの のような簡単なもので..)

Holiday ☸

お茶会で婚活

先生に お茶を習いながら合コンまで"気合いを入れず" 出会いの場には
する。ただお茶を飲みながら堅くしつない話ができる時間を
楽しめると！！！！と思いました。

お寺で お泊り

幼稚園～小学校低学年くらい

自分でふとんを敷いたし、朝はそうじをしてお経を詠む

1. 寺子屋の復活.

今年の3月11日に発生した、東日本大震災により、学校、学習塾等、多く被災している。

その為近隣の学校を利用し、合同学習が行われている。学習塾に対しても同様で、失業を余儀なくされている現状である。進学の為の学習が思う様に進まず、苦悶していると報道されている。今後、地震大国日本においては、いつ、どこで発生するか、予想が出来ません。

77,000寺も有るのであれば、十分なスペースが確保される訳です。から、有効活用出来ませんか？

(御法事の時以外は、全くと言って良いほど、無縁のヒートアップです。)

夏休み、冬休み、春休み、等の活用。

仏事の重なる日程等を提示して、空いている時間を活用する。

又、任職に別法^話会や、困っている人々を相談等。

身近なお寺のバリエーションを。

お寺は NPO の元祖である		62 才	男性
NO.11	P1	地域ネットワーク／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

「お寺は NPO (非営利組織) の元祖である」

1. 一般社会では、仕事はいい人の所に集まる傾向があります。
2. お寺の住職さんは、地域の郵便局、農協、福祉関係の各種施設等を時々訪問しよう。
3. 必要を感じたら、介護の資格をとろう。
4. 「お寺と TPP」について考えてみよう。
5. 要するに住職(行者)が変われば、寺をとりまき環境も変わると思っています。

ところから、身近な手取のような被りの場
 とするが、正當な明くの人取被りであると
 して取り去らん。また身体的、心身的に鑑み
 苦しみばかり下致く、今日、日本人に抱え
 問題、例えは、保育園のようになすのや、経済
 的に否、一人の五めの、金銭に乏しく、物
 的、精神的に被り、下取の場の場とされる
 以上、と思ひます。さうすると書いたら、ま
 け、結論から言えは、学生時代、歴史を
 下り、各派、宗教の間の祖の心とく、よ
 り身近な、より教員に近く、さうして何より、
 了められ、すすみの心とく、さうすすの心、
 に高く問われ、いる時、さうすすの心、
 せん。文脈をふす、さうすすの心、文脈を宗教人
 として、一服め、さうすすの心、さうすすの心、
 ため、今の日本は、さうすすの心、さうすすの心、
 ん。

お寺と地域のこれあい はとても大切で長くつづくような
イベント的な人があつたことが望ましい。
早めのお知らせ 計画(報告・連絡・相談) 安全管理
得意面 きちりと一定のルールをつくり お寺におとづれる人々に
「知らなかった」と言われることのないように気をつける
いつかしてコミニケーション 人々とのあつたと書いて人々に
と読めか 本音にむかふか 失敗をおそれず積極的にアイデアを
必ず全部 拾う。決して否定はしない。一ツカバイン様の説きと
受けとめ 以外なところからヒントをつかみ 大きな楽しい展開へと
導くことがでさる。その時の場の状態に応じて ことさし
展開がでる。

- 1 地産招集 私の田舎でお長のアジアで地域の地場産品
限定品 等の名店をつくり かなり うるおたらしい。
- 2 フリーマーケット いなくなつた 衣服 食器 バッグ 花かん
絵画 楽器 大工道具 等おもに楽しい。
- 3 大軒カーのPR会 宣伝も悪くないと思う。相対決の如く 人々に試験
等おもしろくあげるサービス付きも楽しい。空間づくり
- 4 ライブ・コンサート 若者連れのあつまりの場として ときめかた
もりあがるのも 世代交代としては良いもの
- 5 シミ絵、R.H. 展覧 古々長きものの発表会、雨天決行という条件を
望ましい。
- 6 お笑い大会 売れない漫才師連による お笑い大会。
あるいは吉本工業に 無料で場所をお貸した
という ことで 未来のスターが生まれることを祈る。
- 7 お食事会 真夏のやわらか流し 真冬のおでん ランチ
地元農家の人々の食材の持ち寄りでもと一流の板前
フックさん連による ボランティアで 場をもちあげる
- 8 カラオケ大会 月に1〜2回 野外で思いっきり 年輩者中心に
おあつまり パーティ気分での のりのり。
- 9 ガーデニングクラブ 花の好きな人々がグループをつくり お寺内の花づくり
なるべくお金を使わず 梅わけ さし木 種 等 持ち
お寺を好きな花で キレイにする。

ウォーキングコース 年輩の方々、中高年者によくお見かけするのわ
公園等でのウォーキング、お寺でも安全なバリアフリー
をつくり、途中で休けいできるベンチ、木陰、足湯
等を つくって おさいせん箱も必ず設置する
ちょっと変えれ おもしろい アイデアではウォーキング
の安全な道が できるのなら スタンプ台、スタンプ
をつくり、何日一回上なら、〇〇賞とかお寺様
からの ごほうび なんていうのも、おばちゃん
達の 楽しみ の ひとつ になる かもしれない

1/ 地元でのダイカサービス 私の親も高期高齢者で認知、足腰の悪くなるのを
への お声かけ おくらせるわのり/ビツに かはわせて...るわ
お寺で 車いす用のトイレ が おて 花とか外観の
美しい所が あるのなら ダイカサービス等の
所へも どんどん おまかけ下さい の お声も
かけてほしい。戦争を知っている人達、ものが
なかな悪条件のなかを生きぬいた我々の人生の
大先輩達を、ウェルカム精神で おもてなしを
してあげてほしい。高齢者の親を持つ娘として切なる
願いである。

2 園児達の園庭 葉っぱの落ちる頃、落ち葉を園児に拾って
もらって、その葉っぱで、焼きたもづくりをする。
子供達の 手づくりの おもいでづくりができる。

老若男女 向いず 沢山が気持ちよく お寺でつくる おもいでづくり
人と人のおいれ を つなぐ 人間らしい心を育てるための
これからの場として お寺さんも 仏教用語で 悟るための
教室も 必要性は十分 あるわ 庶民のみんなが 楽しく
あつまる努力、一セカが仏様の縁によって あつまる
どんな様も おなちよ下さ... という 手づくりのぬくもりは
まず最初に お寺さんの仏心から スタート してほしいと思う。

日本酒	相談	学習塾	料理教室	相撲	不明	男性
NO.19	P1	相談窓口／まつり型イベント／勉強会				⇒ジャンルへ

地域社会の為に寺院を活用していくアイデアが、いくつか浮かびましたので投稿させていただきます。

① 寺院を解放して日本酒祭りとか如何でしょうか？

酒屋さんとコラボして各地の日本酒の販売。利き酒コーナー等
行い、優秀者には清酒一本プレゼント等。年1～2回位

② うつ病等、精神疾患の当事者、家族の為に相談窓口開設

最近、増加の傾向にあると思うので、精神科医、心理カウンセ
ラーを招いて、精神科医は医学の立場から、カウンセラーは心
理学の立場から、僧侶は宗教的見地からアドバイスする、その
ようなコーナーを月1回位のペースで行うと、衆生救済につな
がると思うのですが・・・

③ 上と重なるのですが、内科医等の健康相談窓口

④ 本堂を解放して学習塾等も如何でしょうか？

独立を目指す塾講師等に場所を提供する等。

⑤ 料理の専門家を招いて、料理教室の開設

健康で低カロリー、簡単レシピの教室等は、主婦等にうけると思
います。

⑥ ちびっこ相撲教室なんてどうでしょう？

各寺院、近場の相撲部屋から、若手力士等を招き相撲を指導して
頂き、最後にちゃんこ鍋をみんなで食べる。年1～2回位か。

以上6点投稿させていただきますが、宣伝費、各講師の招聘費
用等、コストが少々、気になるところです。文章的に稚拙な点多
々ありますが、ご了承ください。

百歳現役：大人の寺子屋		69 才	男性
NO.22	P1	勉強会／仏教年中行事	
			⇒ジャンルへ

<時代背景>

東日本大震災で日本中が判ったこと。それは「親子の絆・地域の絆の大切さ」です。昔、地域の人々の集合場所はお寺だったと言われています。今、お寺は「葬式をする処」になってしまったと思われます。近くのお寺も何となく敷居が高くて入れません。お寺はもっと地域に溶け込んだ方がいいのではと私は考えます。それともう一つの現状は、団塊の世代が60歳を過ぎ、シニア層が大量に増えている少子高齢化の日本社会になっている事。

<地域に溶け込む方法>

- ① まずお寺の敷居を低くして、誰でも入れるようにすべきです。それには、お寺の敷地や境内を開放するところから始めるべきだと思います。
- ② 東日本大震災で人の絆が大切だという事が本当によくわかりました。このチャンスにお寺から「人々の絆・地域の絆」を広げるべきだと考えます
- ③ お寺を利用して「人々の絆・地域の絆」を創り出すには、先ず人々の共感を得る事です。それには、時間があり、子供の頃、地域の絆に触れていたシニア層を引き込むことが大事だと考えます。

※シニア層を終結させるキーワードは「家族の絆」「地域密着」「飽きさせない・楽しい」「気分が若くなる」「孤独を癒し共に楽しむ」

<具体的提案>

「百歳現役：大人の寺子屋」

- ① 先ず、シニア層が興味を持ち、集まりやすい様に「お酒付の懇談会」などを開設
 - ② 百歳まで現役で、足腰丈夫で皆で元気に生きましょう！と旗を掲げる
 - ③ 時間のあるシニア層の全面協力（ボランティア）で様々な催しを決める
 - ④ 懇談会の中で、その地域に何が役に立つか、取り込みやすいかを定める
 - ⑤ 催しの候補
 - ・「俳句の会」「川柳の会」・・・黛まどか等有名人を安く招聘
 - ・「地域の歴史を語る会」・・・皆で研究
 - ・「除夜の鐘つき」・・・地域の人達に任せる
 - ・「お寺で餅つき大会」地域の大人と子供たちを総動員
 - ・「論語を語る夕べ」・・・専門家を安く招聘
- ※定期的に子供たちを集めて「論語を読む会」にまで持って行けると理想的

① 子供たちの笑顔があふれるお寺。

昨年末、地下鉄の駅で「地域社会のためのお寺活用アイデア募集」の広告を見ました。その中で全国には、7万7千もの数のお寺があるという事実にとっても驚きました。私たちは、子供の頃から、お葬式などで幾度もお寺に行く機会があり、お坊さんゆも生活の中、とても近い存在でした。しかし、時代とともに足を運ぶことが少なくなり、現在では縁遠くになってしまいました。我が家の小学生になる子供たちにとっても遠い存在のようです。昔のように現代、子供たちにもお寺を身近に感じて欲しいと思いました。まず、一番に思いついたのは、まわりにたくさんいる仕事をしているお母さんたちのことです。小学校の低学年の頃は、学校が終わった後、大人のいない家で留守番をするのは、まだ不安があります。小学校でボランティアから時頃まで見てくれる子供ルームがあるので、なかなか空きがなく、

②

学区外で探したり、それでもなければ、不安ながらもカギを渡して留守番させるお母さんも少なくありません。このような現状を改善するのには、「お寺」を活用させていたければと思います。学校終了後、子供たちは、まずすぐ近くの「お寺」に集まって宿題後にみんな遊びたりお坊さんのお話を聞いたり家へ帰るまでの時間を楽しく過ごせればと考えました。保護者も安心して毎日仕事をする事ができ、学校関係者も「お寺」であれば、安全性や事故、犯罪防止などの面で大賛成だと思っています。全国に7万以上もある「お寺」の協力があれば、どれだけの多くの家庭が笑顔になるでしょう。明るい地域やコミュニティを活性化するため、未来を担う子供たちのため「お寺」にその役割をお願いできればと思います。

檀徒文化祭

- ① 祖家には色々な趣味を持って居られる方がいますので
御会式とかお盆の時、絵手紙、絵画、パッチワーク
写真、陶芸など本堂等へ飾ったら良いと思います。
- ② 俳句や絵手紙教室を月1回づつ座敷で
勉強に使う。
- ③ 荒行のテークとか、年中行事の映画試写会
- ④ 地元の有志とか趣味の先生などから話を聞く
- ⑤ 簡単に老人に出来る料理教室
- ⑥ 近くの大学生によるライブハウス。
- ⑦ お好焼、たに焼、氷水など行事の時境内に店
を出す
- ⑧ フリーマーケットなどもおもしろい

※「出展」区画

お寺に庭を作ろう 仏教好き集まれ		62才	男性
NO.27	P1	真剣な話し合い／公園化	
			⇒ジャンルへ

1. お寺に庭を作ろう

- ① 檀家さんをまきこんで、庭作り作業を行おう
- ② 庭作りのノウハウを生かして、寺の土地・建物の有効利用を
支える
- ③ お寺開放のヒントが見つければ幸いである。

2. 仏教好き集まれ

- ① 檀家の中で、仏教好きを集める
- ② 名寺の仏教好きを、仏教会単位で集合させ定期的に
会合を持つ
- ③ ボランティア活動から出る集団と存すれば幸いである。

心の拠り所		49 才	男性
NO.30	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

アイデア

全国でコンビニの出店が勢いを増している。そんな中、コンビニという商業施設は今や地域社会になくてはならない存在となりつつある。そうした意味では、津々浦々に至るまで配置された郵便局にも同じような存在意義を認めることができる。では、それらに共通していることは何だろうか。言うまでもなく必需性であり、そして利便性である。つまり、何らかの形で暮らしの向上に寄与するからこそ求められている。しかも、目覚ましい発展を遂げてきた都会に限らず、いわゆる過疎化の進んだ僻地に対しても同質のサービスを提供している。分け隔てなく列島全域に貢献できることが最大の強みかもしれない。

ところで、コンビニの数よりも多いと言われる寺院はどうだろうか。大小の規模に関わらず、街のあちこちで目にする施設であることは間違いない。仏教徒の数が圧倒的に多い日本ではごく自然な光景なのだ。信仰が厚いかどうかは別にして、この国の人たちは当たり前のように法事を行い、当たり前のように初詣に訪れる。誰もが常に心の平安を願い、心の拠り所を仏教に求めている証とも考えられる。言い換えれば、寺院もまたコンビニや郵便局のように必要性の高い施設であるということだろう。

ならば、そんな寺院と地域社会との間に親密な関係が築かれているかと問われれば、残念ながら「ノー」と答えざるを得ない。時代の流れかもしれないが、都会人の多くは宗教的な古いしきたりにと

らわれなくなる傾向にある。檀家制度と縁のない核家族が増えたことも少なからず影響している。仏事に携わる職で生計を立てていない限り、年中そばにあってもらわねば困るというものでもない。現に法事や初詣のとき以外は寺院の存在を意識しないという人もいるように、たとえ距離は近くても意識の上では遠い存在になっている。それは決して信仰を軽んじていることを意味するのではなく、そこには「用がないから」という簡潔明瞭な理由があるのかもしれない。そして、この「用がない」という厳然たる事実にはメスを入れなければ、寺院自らの活性化や地域社会とのつながりを論じることなどできない。

そこで言及せざるを得ないのは、そもそも寺院とは何なのかということだ。誰にも分かりやすく表現すれば、そこは宗教に関わる施設ということになる。ただ、これからの寺院が変わってゆくためには、宗教施設であるという従来の狭いとらえ方を改めなければならない。さらに言えば、宗教から派生する別の何かとも関わる施設であるのが望ましい。それは宗教を広義にとらえる必要があるということだ。地域に資する役割をもっと担うべきであるということだ。

一口に地域コミュニティと言っても、漠然としていて具体的なイメージが浮かんでこないのが誰もの本音かもしれない。境内で祭りやバザーなどのイベントを催すだけでコミュニティの役割は果たせないだろうし、そのような単発の行事で人々が寺院に関心を向ける

心の拠り所		49 才	男性
NO.30	P2	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

かとなれば疑わしいものがある。かと言って、本来の業務から著しくかい離した使命を担うのも適切ではない。世俗的な文化施設や商業施設とは是が非でも一線を画さねばならない。その点をしっかり認識した上で考えられるのは、あくまでも人の心と関わる場所であらねばならないということだ。この世知辛い社会で私たち人間の心は常に揺らぎ、幾多の不安や困難を抱えて生きている。そんな日常に少しでも安らぎの時間がほしいと願う人は少なくないに違いない。宗教や信仰というのは何か物理的に具現された物を指すのではなく、人それぞれの心の中に存在する抽象的な観念かもしれない。そして、心の平安を保つ一助となるのが宗教や信仰であり、その本質さえ見誤ることがなければ地域に資する寺院の姿が自ずと浮かび上がる。

教会に日曜礼拝があるように、人々の心を穏やかにする機会を定期的かつ継続的に提供するのも一案だと思う。従来、堅苦しい法話の枠を越えて身近な話題をテーマに僧侶と住民とが意見を交換する。僧侶が一方的に説法するのではなく、参加者の様々な思いや意見に耳を傾ける。そんな双方向のコミュニケーションを地道に重ねてこそ固い絆が結ばれてゆくに違いない。複雑化した現代社会は多くのストレスを生み出しており、うつ病などの精神系疾患に悩まされる人の数も急増している。また、学校や職場、地域社会において感情のもつれに端を発した悲しい事件が跡を絶たない。その背景には長

引く不況の影響があることは否めず、そもそも人間というのは誰もが欲深い精神構造をしている。確かに社会の発展というのは人間の欲望が導くに違いないが、それらが陰湿な差別やいじめを引き起こす温床となっている可能性もある。また、この社会に蔓延した自己中心的な風潮は、他者を押しのけてでも自らの利益を確保しようという屈折した思想を育んでいるとも考えられる。そのような弱肉強食の環境に身を置けば、心のバランスを失ってしまうのも無理はない。ならば、傷ついた心を癒すためにはどうすればいいのか。この社会はこんなものと遠視するのか、それとも趣味や娯楽で気を紛らすのか。人それぞれに考え方は異なるだろう。ただ、住みづらい社会が住みやすくなるには一人ひとりがどのように振る舞えばいいのかを考える時間が必要であり、そんなきっかけをつくり出すのも寺院ならではの役割なのかもしれない。

そのほかにも色んな案が出されていていいし、それらの各論については関係者の間でじっくり時間をかけて煮詰める必要がある。ただ、いずれにせよ大事なことは、決して対象を教徒や信者に限定してはならないということだ。それをしてしまえば旧態依然の宗教施設と何も変わらず、幅広く開かれた地域コミュニティの役割など担えるはずがない。地域社会とのつながりを深めるには、時として宗教色を少し薄めることも必要であり、老若男女が癒しを求めて気軽に足を運べる場所となるよう期待したい。

ハロ－ウィンやクリスマスだけの、似非ワ
リスチャンの多い当世。

宗派は異なっ2いても、日本はやはり、仏
教に係わりを持つ人が多いのだろう。祖先を
祀る上でも、特に信者と言える程ではなくと
も、何らかの形で係わりを持つ2いる。

今こそ、お寺が昔から持つ2いたはずの機
能を取り戻す時ではないだろうか。

お寺はかつて、コミュニティの中心であつた
何かがあれば、人々はここに集い、語り合ひ
子供達は、その境内で遊び、大人達と顔を見
ぎ、友誼を計る。

人間社会の善悪、人としての道徳等、生き
て行く上で不可欠なものや、絆の必要性等を
学んだものだ。

お寺で行なう事が寺小屋でもあるまいが、
お寺が寺小屋でも良いのではないか。年長者が
小工を者を垂範し、そこに大人も目と心を注
ぎ見守り、幼児教育を行なう。

私が小三き頃には、小学校にも、まだその
ような機能が残っていたような気もあるが、
今も、小中学校は、お勉強を教えるだけの、
お受験予備校に成り果てている。

すべてのお寺で行なう事は無理だろうが、
可能な所から現実を設けて始めてみるのも面
白いと思う。お勉強である必要はない。素
読でも、増敬でも、鬼ごっこでもかまわない。
郷土史を教えるのも良い。太鼓を叩くだけでも
構わない。みんなが集まって、何か一緒に
やる。最初は半ばムリヤリにでも...

でも、やはり無理なのだろうなあ、おかし
な個人主義がはびこる昨今、それぞれが権利
も、独善的な主張ばかりに目が行き勝ちで...

もっと教えるければならない事が、大切な
事がいっぱいあるのに、人として、忘れるは
ならない事がいっぱいあるのに、それを取え
る場所がない。

お寺でやれませんかねぇ。

不満。

てら、寺のわくわく広場		62才	男性
NO.32	P1	勉強会／同じ趣味の会／公園化	
			⇒ジャンルへ

コンセプト、 山寺、海近寺、町中の寺など、それぞれが、地利を活かして個性ある広場を創造してほい、それによって地域の入道にも気配が来ると思を込めて。

- 概要
- 境内では、土産地産の農産物を、曜日をきめて青空市場を開き、取れたて新鮮な品を安く提供する。
 - 寺裡では、この地区でも、目立って多くなった、人世のヘランの道也郷土料理達人とらに近くの飲食店主らによる新鮮産物の料理教室や漬物教室をおこなう。
 - 本堂では、住職や長老による地域の歴史や歳時記をて、四方山話で、ちょっとした講演会を定期的に（寺子屋風にタイムスリップしたい）
 - 集落を何区画かに別て、当番をきめ各家一品を出品コーナーなんて事してみたい、地区のオアシスとして全要参加を目的とする。

更に細かく

- まず老人達に家から出てもらいたい、入道ふれあいや、生き甲斐を持てる場にして。
- 今まで生きて来た、それぞれの人生の経験や世のため人のために使ってもらおう。
- 農業も料理もいまひとつと言えども、何かこれよと、そんなものを探して披露してもらおう。
- 例）竹トボ作り、草笛が吹ける、庖丁研ぎがうまい、隠れ名人を掘りこーレ地域文化の発掘になる。
- 以上の事で、利を得た人ばかりを奉納にいたたき、みんなの茶葉子代といったものだ。

結果

- 寺は人世最終章の場ではなく、うきよを楽しむ（世間）心豊かな場所として位置付けたい。
- この広場に来た人々は、年を重ねる事も満更でもないぞと怒い、元気発信基地となるでしょう。

地域コミュニティの中心に		40 才	女性
NO.42	P1	同じ趣味の会／置場提供	
			⇒ジャンルへ

私は、パート勤めの主婦ですが2人の子供がまだ赤ちゃんの時期は、家で子育てをしていました。毎日家の中にいると、大人も子供も退屈になる時間があります。そんな時、ちょっと出かける所があるといいのになと いつも思っていました。近所のお寺だったら、散歩ついでに出かけるのにちょうどいいと思い、アイデアを募集させて頂きました。

毎日お寺で住職が読むお経を聞き、その後は住職さんがその日のニュースについて話したり、皆で話合ったりするのもいいと思いました。

また、衣類や不要になった道具などをリサイクルできる拠点になると、エコにつながり活気的だと思います。お寺に集まる人達が、匿名でまだリサイクルできる物をお寺に知らせ、それを希望する人が現れたら当人同士で引き渡しをするなど、工夫して活用できるといいです。ホームページを利用すると、近くのお寺とも情報交換ができて更に利用しやすいと思います。

他にも、東北からボランティアの募集や農業の手伝いやアルバイトなどを載せると、お寺からの紹介という事で安心して参加でき、ニートや引きこもりの人の手助けになると思います。

日中家にいますとピンポンと女性が訪問してきて、悩み事などありませんか？と何かの集まりの誘いをしてきます。私は、姉や友人に何でも相談できるので、他人に話さなくても大丈夫ですが、そうでない環境の人は、どこかに居場所を見つけようと一生懸命なのかなと思うと、寂しくなります。毎日誰か勧誘しないといけないくらいなら、お寺でお経を聞いて自分でも読んでみたりして、心を落ち着かせていたほうが癒されます。

私の案ですが、理想ばかり書かせてもらいました。でも、実現すると素敵だと思います。宜しくお願いいたします。

結婚式 朝市 畑 学童クラブ 手習い 留学生 他	53 才	女性
NO.45	P1	同じ趣味の会／真剣な話し合い／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会
		⇒ジャンルへ

お寺で結婚式

お寺で婚活 の時代、その延長で結婚式をお寺で挙げてはいかがでしょうか
家族や親戚、友だちはもとより、ご先祖様にも見守られながら厳かに。

披露宴も場所を移動することなくできます。

地域の皆様にも協力していただき、食事や花の用意など様々工夫が出来ると
思います。結婚式場などがなかった時代の古いようで、新しい形の結婚式に
なるのではないのでしょうか。

地域の商店街の物を活用して、地域の子どもたちも参加してお祝いができる
温かみのある結婚式になると思います。

朝市をお寺で

地域で採れた野菜や花を売る

(地元の農家で採れた野菜や花を、お寺の敷地を借りて売る)

お寺で畑

子どもたちが育てられる野菜や花を植える

(種を植える⇒水やり⇒草取り⇒収穫⇒調理⇒皆で感謝していただく⇒
後片付け)

(花は、きれいに咲いたら家でいけたり、沢山咲いたら子どもたちが
5 円、10 円位で売る。そのお金でまた新たな種を購入)

学童クラブ in お寺

共働きが増えている昨今、学童クラブも様々あっていいのではないのでしょうか
通常の学童クラブは、午後 5 時か 6 時までが殆どですが、家に帰っても 1 人の
時間が長い子どももいます。地域で子育てをする、という発想からそのような
場所があってもいいのではないのでしょうか。

また、例えば中学生や高校生が、小学校低学年の子ども達の勉強をみてあげる
月に 1 回皆で夕食を作って食べる、など

お寺で手習いの会

昼間の時間で、絵手紙を作る 手芸をする 読書会をする コーラスの会
フラダンスの会など、地域に必ず何か得意な人がいるはずです。そんな人に教えて
もらって 作品が出来て、成果を披露する展示会や、発表会など出来たら
いいですね。

結婚式 朝市 畑 学童クラブ 手習い 留学生 他	53 才	女性
NO.45	P2	同じ趣味の会／真剣な話し合い／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会
		⇒ジャンルへ

留学生の受け入れ

高校や大学では、交換留学生制度がありますが、そういった学生たちの受け入れの場として、お寺はいかがでしょう。日本での生活や行事にふれたり、地域の人たちとの交流の場としてもいいのではないのでしょうか。宗教に特にこだわらず、お寺なら部屋数があり、いろいろな人たちが集まり易いなどの理由で。
また、反対に英語などを、教えてもらうことも出来ます。

ラジオ体操

今、ラジオ体操が健康にいいと見直されてきています。
お寺の境内で、地域の人たちが集まって習慣化してみてはいかがでしょう。

映画鑑賞会

家でDVDを借りて見るのもいいですが、たまには、沢山の人たちで鑑賞会、感想会もできますね。毎回次に上映したいもののリクエストをきく。

紙芝居の会

子どもたちが絵を描いて、紙芝居をつくりましょう。

図書館

本ばなれ（活字ばなれ）が叫ばれている昨今、お寺の一室を図書館のようにしていつでも誰でも利用できるといいですね。たまには朗読会や、読み聞かせの会もやり、本は地域の方々からの寄付など。子どもが大きくなって読まなくなった絵本や文庫本など、一時的に貸し出すこともできます。

フリーマーケット

リサイクルできるものや、子供たちが作った小物など持ち寄って
収益の一部は、お寺の活性化に役立てる。

カラオケ会

被災地の人たちが、トラックのカラオケで思う存分歌うというニュースがありました。
歌をうたうというのは、お年寄りから子どもまで共通して楽しめるものです。

お寺で仏教 ミニ図書館		68才	女性
NO.49	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

本屋さんへ行っても 仏教コーナーは少なく
 いかにも隅の方にある お寺があっても 仏教や宗教
 に関して知識を得る 術もない
 立ち読み形式でもよし 寺小屋の雰囲気でも
 仏教専門の図書館コーナーがお寺にあれば
 本を読んで疑問や悩み等 お坊様との
 コミュニティも生れよう！
 お寺で本を通して ほんのひととき過ごす 開かれ
 た お寺があってもいいのではないだろうか

その後方に日蓮宗専門のミニ本屋さんを置き さら
 信仰に入ってゆける人も 出てくるのではないだろうか

鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P1	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				⇒ジャンルへ

鬼子母神サロン

テーマ NO.1

鬼子母神様を祈禱の神様でなく母と子の子育ての神として、生れてくる子供と母親のために、高齢者の知恵を借り共に生きられる。幼稚園と養老院が一緒になったような施設として、寺を活かそう。

鬼子母神は子どもが五百人、千人、一万人とも言われているがひとりの来っ子がいなくなった時、夢中になって探したという。多くの子供を生み諸天をも育て、他人の子供をも護ろうと誓願を立てた。母親の頼りになる拠り所に鬼子母神はなりうと思います。

日本が核家族化してから二世代目に入った今、現実として起きているのは、親になりきれない親の子供への虐待であり、子供から親、兄弟に向けられた家族への悲劇な多くの事件だと思います。悪いことをした子供に注意もできない、叱ることも出来ない。家族の崩壊です。家から祖父祖母、祖先を遠ざけ、仏壇や特に仏教的教えを家庭や教育から排除してきた、ツケがいま、きているのではないかと今こそなくてはいけないことは何か。立正安国活動とは子育て活動そのものでもあるのではないかと。注進縁を受持するものや、行者をも守護する。鬼子母神のいるお寺の場に、子育てに疲れてしまった母親をフォロー出来るようなお寺の環境をつくるべきなのではないでしょうか。



親への対応

- 1: お寺が子育てや悩みの相談所となれるよう専門家と協力していく。
- 2: 寺は乳児のための母親教育の場を提供しよう。
- 3: 孤立してしまっている母親を救済する場（しゃべり場的）
- 4: 子育てに行き詰まった親が癒し込める場を作ったり支援する。
- 5: 子育てが不安な母親・父親が集える場をお寺が用意しよう。

子への対応

胎教にお経を聞かせる。乳児にお経を聞かせよう。出来れば読経の合唱を聞かせたい。自然と、お寺という生活から離れた空間で、木鉦やおりんなどの鳴り物を使わず、ゆっくりとした

お経、社楽の真読や訓読を母親と胎児に聞かせる。臨産行も妊婦向けにゆったりと、腹式呼吸を行う。

五才までにお寺に、宗教に慣れる環境づくりをするとよいのではないかと。子どもが安心して成長できるように見守ることの一部を寺でも出来る気配する。

世代間交流

- 1: お年寄りと生活するようにしたら世代間の格差があっても少しずつなれ、互いに安心できるような社会ができるのではないかと。
- 2: 高齢者の知恵を借りて子育ての工夫を若い人達に伝えたい。
- 3: 世代間連鎖をなくさないためにお寺が場を提供する。
- 4: 親子連れ、妊婦、老人の各世代が一緒に寺に集まれたらと思う。
- 5: 少子・高齢化社会に対応した寺院体制を整えよう。

寺の役割

- 1: お寺を地域のお寺として開放し居るの場として提供、子ども達の遊び場として、お寺を開放する。
- 2: 寺での活動に乳幼児が来ることを認めている現実があるので、乳幼児の受け入れ体制をしっかり作る。
- 3: 寺のイメージアップをするには子育て支援などの子供に関わることはとてもよいと思う。
- 4: 宗門では青少年教化という枠にとどまっているので、乳幼児教育が大切だという意識をもつ。
- 5: お寺さんには相談しやすいという雰囲気欲しい。

子供も母親もお年よりも共に健全に、子供は身体共に健全に、母親は優しく子供を育て、お年寄りも子供の笑顔に癒されイキイキと共に育っていく、子育て中の親が気軽に集まることが出来る場としてのお寺、人間という生き物が健全に育つための情報を地域社会に発信していくのがお寺の役割ではないか？その為には、保育園や幼稚園とお寺の連携も大切なのではないでしょうか。このような新しい関係に、異次元、寺という空間を子育てにもっと活用すべきである。鬼子母神サロン是非作っていただきたい。

鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森 防災拠点 他	不明	不明
NO.50	P2	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供		
				⇒ジャンルへ

歌声 仏 讃 歌 音楽会

テーマ NO.2

そうだお寺に行ってみよう！！

今は寺に対するイメージが悪いので信仰の場よりも集会所としてのイメージを育てていくことが大切であり、宗教行事と直結しなくても、人が集まれる場所さえあれば、人同士のつながりは自然と生まれる。そのような、人が自然と集まってこれるような寺作りをしていくべきではないか。誰でも気軽に参加できるイベント、集いがあれば地域性の絆が生まれてくるのではないのでしょうか、それには、子供たちが大声で歌えるような、もっと明るい仏讃歌や、昔の歌声喫茶で老若男女が歌っていた、トロイカや山男の歌のような、皆で声を揃えて楽しく歌える歌を新たに作るか、フォーク調、ロック、ハワイアン風等、いろいろとアレンジした仏讃歌があってもいいのでは？



地域の人が気軽に来られるお寺作り

そうだお寺に行ってみようと思えるお寺、身近に感じられるお寺づくりをする。
お寺を人が集まる場に提供し、人との交流を持つようにする。寺が地域のつながりのきっかけを作っていくべきではないか。

地域の活性化

コミュニティーセンターなど、箱モノ行政は地域を活性化させたのか？ サークル活動など活発であるが、地域の一体感・連帯感に欠けていると思います。

寺は地域で支え合う、ネットワークの中継基地の役割を担っており、地域の求心力となるのもお寺の役割ではないでしょうか。その地域の持っている特性、特色を積極的に見出して活用することで地域の人々がイキイキする。地域とお寺と個人は、運命共同体。共栄の道を共に探る姿勢が大事な事だと思います。

自分の得意としている分野の事をそれぞれに持ち合えばすばらしい地域のグループが出来ると思います。人材の開発とそれを生かすノウハウと地域の魅力（歴史、自然文化など）を引き出すのもお寺の役割ではないか。

お寺はもっとオープンに

お寺は地域の人にもっとオープンにしなければ人は集まらない。何気なく寺を訪れる地元の人を大事にしよう。

お寺が年中行事などをキチッとしっかりやることで地域の人々がつながるセンターになる。

もっと地域にお寺を開放するべき

お寺から地域活動に参加

お寺で待つだけでなく、自らが積極的に地域活動に参加すべきではないか。地域と関わることで、自分の一人よがりの行動も抑制されるのではないだろうか。お寺は地域活動の拠点になるよう応えていこう。

都会のお寺さんと、農村、山間地また、観光地化したお寺さんとは、いろいろな条件などの違いがあるかと思いますが、歌は場所を選ばないと思います。皆がひとつになれる手立てとしては、皆が参加でき少しでも仏縁が出来れば、お寺の空間を使う価値は有ると思います。

鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P3	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				
						⇒ジャンルへ

小さな子ども達の遊び場として、
お寺の敷地を昔の鎮守の森のように
自由にお寺に来られるように解放してもらいたい。

テーマ NO.03

特に小さな子どものために健全育成に寺環境活用を

異次元、寺という空間を子育てにもっと活用すべきであり、乳児の時から緑ゆたかな風景の中へ連れ出し、五才までにお寺に、宗教に慣れる環境づくりをするとよいのではないかと子どもに伝統的な遊びを教え、バーチャルな世界だけではなく実体験をさせたい、地域の子ども達に“あいさつ”から始まるコミュニケーションづくりをしていきたい。子どもの健全育成のためにお寺はその持っている空間を積極的に活用するべきではないでしょうか。

公共施設としてのお寺のあり方を考え、お寺に来たら、行儀の良い子供に育つよといったようなイメージ作りをしないとイケないのでは？その為には、子ども達が安全で安心して遊べる境内を、子どもが外で思い切って体を使って遊ぶ状況をいろいろ工夫して作るべきである。お寺の敷地を昔の鎮守の森のように自由にお寺に来られるように解放してもらいたい。

朝、ラジオ体操、ヨガなどを寺社の境内で行うのも、良いのでは？



問題点

子どもの遊んでよい場がお寺になるにはさまざまな問題があるのでは、寺での活動に乳幼児が来ることを懸念がっている現実があるので、乳幼児の受け入れ体制をしっかりと作る。寺の行事に「子連れ参拝」を進める。

寺の体制

公共施設としてのお寺のあり方を考え、身近に感じられるお寺づくりをする。

少子・高齢化社会に対応した寺院体勢を整えよう。

人が自然と集まってこれるような寺作りをしていくべきではないか。

今はほとんど外で遊んでいる子供を見ない。お寺が遊ぶ場所になっていくべきではないのか。子供の遊び場として、お寺は地域のキーステーションであるべきであり子どもの健全育成のためにお寺はその持っている空間を積極的に活用するべき。

子どもが安心して成長できるように見守ることの一部を寺でも出来る気がする。

大人への成長は一人で出来るものではない。その手助けを僧侶として何が出来るか考えたい。

鬼子母神サロン 仏讃歌音楽会 鎮守の森 防災拠点 他		不明	不明
NO.50	P4	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供	
			⇒ジャンルへ

お寺を防災の拠点にする。避難所としての機能を備える。

テーマ NO.04

防災

東日本大震災で寺が避難所として多くの人を収容し、朝勤を通して教化の実をあげたと聞きます。食糧備蓄とか難しい事もあるだろうが、防災機能もはたすことは必要だと思う。日蓮聖人は地域との関わりをどう捉えていたのだろうか。生き生きと暮らすには地域の安全が不可欠である。セコムの防犯設備より、地域のつながりが、防災・防犯への力となる。防災センターの役目を再確認したい。

地域と関わらない僧侶が多すぎると思う。僧侶は僧侶として生きる以前に、まず人として生きて欲しい。お寺は地域活動の拠点になるがそれに応えているか疑問である。お寺にAEDを設置したり、防災を切り口に向こう三軒両隣の互助的ネットワークの構築を坊さんが地域の一員として法衣を脱いで活動に参加することが大切です。自分の得意としている分野の事をそれぞれに持ち合えばすばらしい地域のグループが出来ると思います。人材の開発とそれを生かすノウハウを得て地域とお寺と個人の運命共同体。共栄の道を共に探す姿勢が大事。住民の意識は高く、防災活動、環境美化運動にも参加してくれると思います。

防犯

子どもの非行を防ぐためには、地域の大人が団結することが大事ではないか。地域のつながりを考える上で、女性の力は大きいと思います。女性の力を借りるべき

地域に関わる人がその地域を好きになることこそつながっていく第一歩だと思う。
地域の事を知ることが大切。小さな縁を大事にして、いくことがイザという時の信用になる。

地域を自分の一部と考えて、大切にすることを必要とするのではないかと地域住民が防犯パトロールを行って地域の安全を図る。

お寺で待つだけでなく、自らが積極的に地域活動に参加すべきではないか。自分が地域の為に、今できることから関わっていかう。

責任感を親に持ってもらえるような呼びかけを寺はしていこう。

地域の子どもは大人の声かけによって変わってくる。寺の住職だから言えることがあるのではないかと

地域や国の大切さを説いた宗教者は日蓮聖人だけではないか。日蓮聖人に学ぶべきである。

鬼子母神サロン 仏讃歌音楽会 鎮守の森 防災拠点 他		不明	不明
NO.50	P5	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供	
			⇒ジャンルへ

テーマ NO.05

孤立してしまっている母親を救済する場（しゃべり場的）をお寺に！！井戸端会議の力は大きいし地域をつなぐを考える上で、女性の力は大きいと思います。そんな地域コミュニティ的役割をお寺が担ってもらいたい。お寺を地域のお寺として開放し癒しの場として提供する。そうだお寺に行ってみようと思えるお寺がほしい。

しゃべり場現代井戸端会議場

地域を支える寄り合い場所となるように、まず、身近に感じられるお寺づくりをする。人が自然と集まって来られるような寺作りをしていくべきではないか。癒しのしゃべり場をお寺は地域の人々の集まれる広場であることが望ましい。

よき人とのつながりこそ人生の財産なのでは？

お寺へのぞむ声 1

地域の人が気軽に来られるお寺作りをする。お寺を人が集まる場に提供し、人との交流を持つようにすることです。お寺はもっとオープンにしなければ人は集まらないと思います。お寺の敷地を昔の鎮守の森のように自由にお寺に来られるように解放してもらいたい。

檀信徒だけではなく地域から必要とされるような寺づくりをしていく、宗教行事と直結しなくても、人が集まれる場所さえあれば、人同士のつながりは自然と生まれるはず。今は寺に対するイメージが悪いので信仰の場よりも集会所としてのイメージを育てていくことが大切なのは。境内の庭、街路に花を植えて地域の人々の気持ちを和ませたり僧侶を囲んでお茶を飲む集会所のようなお店のような寺、お堂がほしい、寺を生きづらさを感じる人々の安心できる居場所に出来たら良いと思います。

お寺へのぞむ声 2

お寺は人々の悩みを受けとめる場であり相談しやすいという雰囲気欲しいし、一人で寂しく生きているような人が、気軽に集えるような寺づくりをすべきではないか。世の中にはいろいろな人がいます。異常と正常の差別を超えた癒しの場に寺がなってほしい。困った時の寺頼みにひとはだめぐ準備をお願いしたい。

地域の中のお寺の存在とは

地域に対して今まで育んでくれた事に対しての法音を寺としては考えなくてはならないと思います。

寺が寺としての活動を続けることで、寺を軸としたネットワークができるのではないかと、何気なく寺を訪れる地元の人を大事にし寺が地域のつながりのきっかけを作っていくべきではないでしょうか。

寺は町の産業とのつながりも考えるべきであり、地域とお寺と個人は、運命共同体。共栄の道を共に探す姿勢が大事ではないか。寺は地域を俯瞰して、その役割、立場を見極めて活動するべきで、お寺が地域の軸のような存在になっていければよいと思う。

お寺を人が集まる場に

僧侶に、お寺に求めるもの、これから求められるものはいっぱいあると思います。

普知識の縁結を

同じ目的を持った人の集う場を提供する。

- 子育て中の母親
- 婚活の男女
- 仏女・歴女
- 話し相手のいない老人（老若男女でも）悩み・愚痴を話す相手のいない人
- ストレスのたまっている人には唱題行
- 運動の相手がほしい人にはラジオ体操・ヨガなど
- 健康的に痩せたいと思っている人同志（運動・食事）

鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P6	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				⇒ジャンルへ

新 還 暦 式 & 記 念 式

テーマ NO.06

還暦は人生の中で特別な日だと思います。昔の60歳と違い現在の60歳はこれからが本当の活躍が出来る年ではないでしょうか
赤いちゃんちゃんこを着せられて隠居をする年では有りません。
家族、仕事も有る程度見通しも付き、今までを振り返り、これからの事を考える大事な年だと思います。

人生の区切りとこれからの新しい出発式をお寺で仏縁のお手伝いを！！新たな門出の還暦式をお寺で

そのほかにも仏縁を結ぶ機会が有ると思います。

- 誕生日
- 新しい形の七五三
- キリスト教の洗礼のような受戒のような
- 元服 新しい意味の
- 本当の意味の成人式（大人式）お仕着せの形ばかりの成人式はいらない。成人は年ではなく個人個人それぞれ違うはず！
- 木婚式～銀、金、ダイヤモンド婚式
- 喜寿、米寿、白寿等
- 仏前結婚式 今、一般の人が仏前で結婚式はほとんど有りません。生きる仏教としては不満
- 勿論、葬儀 公人の葬儀としては派手な今までの葬儀は必要だが、家族葬、直葬が増えてきた現在考えて行かないと
家族にとっても新たな生活の始まり
- そのほか、個人の思い出の日、記念日、が有ると思います。
（忘れたい厭な思い出（悪縁）との決別や絶縁などの負からの縁切り門出も有りかも）

人生、生活の区切り、門出、新たな出発にパワースポットとしてのお寺で生まれ変わった気持ちになるのは、これ以上の場所はありません。いろいろな個人の記念日と比べても還暦は特別なものが有ると思います。仏縁と触れたいと思い始めるのも、この頃にピークが来ている人が多いと思います。受戒、得度と堅いものでなく、もう少し一般的な袖触れ合うくらいにお寺を身近に感じ、結縁が出来れば？

鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P7	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				⇒ジャンルへ

禁煙支援道場

テーマ NO.07

今、禁煙したいが、なかなかやめられないと言う人が大勢います。
そんな人の為に

自然やお寺の独特の空間を活かし、テレビ、ラジオ、新聞、携帯電話など外部との情報を遮断して、お寺の日々の生活を体験し、身体を動かして、風呂、炊事、洗濯、掃除、読書の体験を通して（日常？非日常？）、身体からニコチンを除くお手伝いをする。



仏教の持つ目線は素晴らしい、住職から注意されてもいやさなく聞けるのではないかな？
タバコは自分だけでなく周囲により以上の迷惑をかけます。そんな人の為に、
仏教の六波羅蜜、八正道 を持ち出すまでもなく、
寺の住職だから言える「云い方」があるのではないかな？
個人としての人間は欲望のコントロールにより、ストレスをためることも、また限りなく優しくもなれます。



お寺の非日常的な空間を利用して、理想ナシの価値観を教えるのも効果的だろう。

生き方も選べるし、死にも選べる時代。その人の死生観、人生観が大切なのであり、
自分を見つめることは、他人を思いやる事にも繋がって行くのでは？

生き方を自由に選択できる時代になったが、選択した責任をとることを忘れているのではないかな。
個人がどのような生き方をしようが、そこにかかる責任を自覚し果たしていく必要がある。

鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P8	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				⇒ジャンルへ

親子道場

テーマ NO.08

親と子の寺小屋

子育ては子どもを尊重し、お互いの信頼関係を作ることが大切である。

子供対象の寺子屋は今各地で行われるようになりましたが、親と子の関係が薄くなり、子は親を尊敬し、親は子供の成長を促しく見守りそっと手助けをしてやる。そんな、親と子のいい関係ときずなを育むお手伝いをお寺の空間で出来ないだろうか？

寺を親と子の寺小屋として社会に開放する。

人間という生き物が健全に育つための情報を地域社会に発信していくのがお寺の役割。

寺はあらゆる機会に子育ての大切さを説く。

お寺を子育ての研修の場として提供する。

お寺が家族の繋がりや再構築をする場を提供していくべきではないか。

お釈迦様は我々の親、つまり法華信仰が家族のきずなになる。

毎朝の唱題、読経、先祖供養を通して、背中で家族の心のバックボーンを示すのがいいと思う。

お寺が家族の繋がりや再構築をする場を提供していくべきではないか。

早起き促進のために、お寺で早い時間からの行事を始める。

寺のイメージアップをするには子育て支援などの子供に関わることはとてもよいと思う。

寺で母親（父親）学級をひらくとよいのではないかな。子育てが不安な母親・父親が集える場をお寺が用意しよう。

親が伝えられなかった道徳的なことや常識といったことを代わりに伝えられる僧侶となるべきではないか。

僧侶が子育てに関する知識を学び、父親母親に伝えていくべきではないか。

お寺が子育てや悩みの相談所となれるよう専門家と協力していく。

障害児が安心して成長できる環境を寺と地域がつくっていかう。

お寺の環境は、早起きの生活習慣をつけるには提供できるものがあるのでは？

朝、ラジオ体操、ヨガなどを寺社の境内で行う。

子供に

五才までにお寺に、宗教に慣れる環境づくりをするといよいのではないかな。

物心ついた時から、お墓参りなど手を合わせる事を推奨する。

「トイレの神様」に出てくるような教え方は効果的なのではないか。

しつけには「超人的」存在を示すことも必要ではないか。

お寺の非日常的な空間を利用して、理想ナシの価値観を教えるのも効果的だろう。

子ども達を大勢の中で育てる工夫（地域の中で）がなされてほしい。地域の子どもは大人の声かけによって変わってくる。

隣近所の人とあいさつができる環境を作れたら、社会での子育てもできるのでは？

乳児の時から緑豊かな風景の中へ連れ出す。

親に

「家族」は変化するもの。その変化に対応するため普遍的な柱として仏教が必要。

家族にとって信仰は柱や支えとなり得る可能性もあるのではあるまいか。

世代間で伝える文化（食事・生活習慣など）が失われることが問題だ。

夫婦も家族も食事から始まる。食育が大切なのではないだろうか。一緒に食事をするのが基本なのでは。

父、母の子どもへの愛着を育てる方法を仏教は導くべきである。

家族は母と子の絆が基礎である。母の愛情が豊かで子どもの心にしっかりと伝わるように宗教活動を広めよう。

子育ては結果ではなくてプロセスが大事

命の尊さを両親に説く。

お墓参り、仏壇での礼拝は家族のつながりを確認できる行為。



鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P9	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				⇒ジャンルへ

経営者、社員精神道場

テーマ NO.9

自然やお寺の独特の空間を活かし、テレビ、ラジオ、新聞、携帯電話など外部との情報を遮断して、お寺の日々の生活を体験し身体を動かして、風呂、炊事、洗濯、掃除、瞑行の体験を通して、企業人の精神向上のお手伝いをする。

- 1: お寺の非日常的な空間を利用して、理屈ナシの価値観を教える
 仏教の持つ目線は素晴らしい真の教えは時代に関係ない
 唱題行、開法の機会を与え、じっくりと考える時間を与えるには最も良い場所ではないか
- 2: 大人への成長は一人で出来るものではない。僧侶としてその手助けを
- 3: 説法こそ大事な伝達方法ではないだろうか。
 僧侶の注意は聞けるのではないか、寺の住職だから言えることがあるのではないか
- 4: しつけには「超人的」存在を示すことも必要ではないか。
 飛び抜けたリーダーのいなくなった現在、お釈迦様の存在を感じる時

自分を見つめ、他の人の為に何が出来るか？
 仏教を学び、宮沢賢治の生き方を学び、それを
 仕事に生かしていくお手伝いを！！それが活かせれば、仕事も修行のひとつとなるはず



鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P10	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				⇒ジャンルへ

小さな葬儀

テーマ NO.10

葬送は痛み悲しむ心。その心のない式は無用である。常に変化していく社会に目を向け、それに柔軟に対応していく必要があるのではないかと。寺・墓・葬儀の三難しのピンチは、仏教・寺院回復のチャンスととらえよう。

お寺で身近な人だけの小さな葬儀を

家族葬や直葬が増えている現在、それに答える必要も有るのではないかと？
合祀墓、樹木葬その他、葬儀、埋葬の仕方いろいろな要望も増えています。
遺品管理人という、故人の遺品整理の資格も出来るという。
流れ作業のセレモニーセンターではなく、少人数で本当の別れ残された遺族の区切りを考える場としては、お寺が一番良いのではないかと？故人、遺族、親しい人の新たな出発の為のお手伝いという形で

葬儀は故人が生前おつきあいのあった人々との長のお別れの場。家族親族でヒソソリとやってしまうのは故人の人生を否定することになるのではないかと？日本人にとって葬儀はとても大切なのちの節目。そのことをよく承知して、ブリーフケアとかけがえのないのちの教育をする場と期待されている。介護につかれて殺人まで起こっていることを忘れないで下さい。

葬儀・法要の技術主義的指導は排すべし。遺族との心の共感を求むべし。
葬儀社さんのされている様々な手配や、打ち合わせ、を“送る”指揮者として僧侶がプロデュースをする。
多額の布施を請求するトンデモナイ坊さんによって、貶められた僧侶への信頼をいかに回復するか
実際に直葬などを行って後悔したりしていないのだろうか。
葬送の形式は社会のニーズに柔軟に対応してもよいのではあるまいか。
現代社会の様々な葬儀方法に対応して、僧侶オリジナルの葬儀方法を作る（今までになかった方法で）
お金がなくて葬儀ができない低所得者に、我々は手を差し伸べることができるか
葬儀は教師の教化活動の流れの中の1つである。
故人のことを知らないケースもめずらしくはないので、「引継文」を遺族と一緒に作る、読む」ということで、僧侶側も共感できるようにする。

社会は僧侶にまだ期待をしている。それに応える対応が大事。
菩提寺のない人々が、いかに僧侶に出会い、よい葬儀をできるかが問題である。
映画『おくり人』や小説『弔む人』が注目を集める様子から一般社会のほうがまともな礎を渴望しているのではなかろうか。
寺・僧の一般社会からみた現状は、その『公益性』に疑問符がついた状態であろう。寺僧はそのことを自覚すべきではなかろうか。
お寺は今を生きる人が生きる希望・勇気・力を得る場、僧侶はその手助けをする人。この思いに基づく日常活動こそ必要である。
心のケアのできる窓口として、寺の門を開いているか？
ライフスタイルの多様化にどの様にしたら対応していけるのだろうか。
生まれてから亡くなるまで、命に寄り添うのが僧の役目であろう。それにもっと心を砕くべきではあるまいか。
葬儀のやり方は学ぶが、より良い、又ニーズに合う葬儀が出来る様、僧侶の質を高めてはならない。
生まれた時、亡くなられた時の仏の導きを考える。
法式研修だけでなく、鑑しと導きを習う「葬儀研修」を行うべきだ。
僧侶は、死者儀礼に対して、根本的なことから見直していくことが必要である。
自分でも満足している、うれしかった葬儀の成功例を体験談として語り合うのも有意義なのでは？
「人間は社会的動物である」から、その「死」や「葬儀」にも社会的意味があることを、誰もが再確認しなくては行けない。
故人を偲び、悲嘆を癒す大きな機能を有するのが葬儀。僧侶はそのことをしっかりと認識して葬儀の通夜に臨むのが好ましい。
寺院側はもっと葬儀の意味について深く理解し、檀信徒に伝える必要があると思う。
どのような金額の布施でも、できる限りの葬式をお寺側も努力できたいのではないかと？
「必要最低限」でできればいいという心理が喪主側にあるのではないかと？

鬼子母神サロン 仏讃歌音楽会 鎮守の森 防災拠点 他		不明	不明
NO.50	P11	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供	
			⇒ジャンルへ



青い鳥見つけ隊

テーマ NO.11

探し物は何ですか？希望・自分の存在・自分でも人の役に立てる？

周りの自然に唱題が染み込んだ、お寺という異空間こそパワースポットであり、僧侶のいる場所こそ、自分を取り戻し、本当の自分を見つけるには相応しい場所ではないでしょうか？

何もいない、考える場所とじっくりと話しえを聞いてくれる人がいれば、...

答えは、皆、自分の中に持っていると思います。

自分を見つめる。

自分を発見する。

自分の本質を見る。

見失った自分を探す。

自分の原点はなにか


自分は何に向かっているのか

自分の真の目標は何か



昔話の通り、青い鳥は自分にある

鬼子母神サロン	仏讃歌音楽会	鎮守の森	防災拠点	他	不明	不明
NO.50	P12	修行／同じ趣味の会／真剣な話し合い／交流会が目的／セレモニー／境内・伽藍の開放／会場提供				⇒ジャンルへ



自然を食べる

テーマ NO.12

食べることは生きることの基本

食材がどのようにして育ちどのようにして自分の手元にきたのかそのプロセスの詳細を知らしめる
 自然とのふれ合いの中で、様々な物に命のあることを感じさせ、自然の佇まいの中に、身を置いて自然から色々なことを吸収できる機会を与える。食事はしつけ、文化・宗教教育の場として重要です。お寺の空間を提供して、いのちが途方もない歴史をたどってこの私の身に伝わっていることを承知感じられるようにする。

自然の恵み

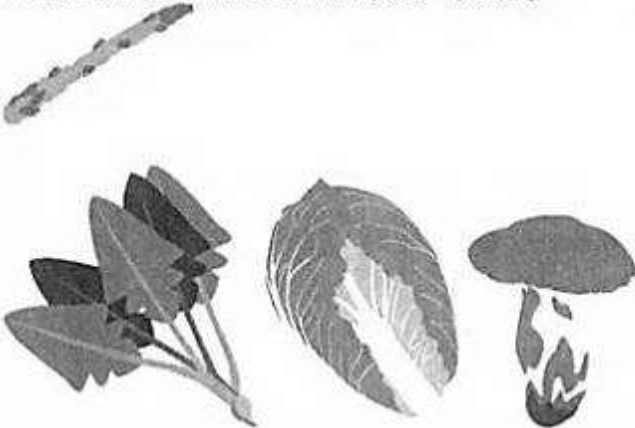
お寺の周辺、道端、森林、野原、土手など自然の恵み野草、山菜
 農家の畑の捨てられる菜の部分、売り物にならない規格はずれ野菜、根菜
 自然のものを自然の素材の持つ味を、外の風と太陽の下でいのちに感謝していただく。
 3.11の体験はろうそくの灯に家族や友人が集まった不思議な感覚、焚き火の暖かさ

つながり

大震災一週間、ろうそくの光の輪の中で、不便さの中で、助け合って家族を感じた。
 みんなで助け合ったり、分け合ったりする体験で家族のつながりが強まるのでは。
 仏教では「無縁」(縁のないモノはない)を説く。
 心豊かに生きるには、動植物、人間などに関わる必要があるのでは。
 命(自分)を大切にされたという経験は他を(命)を大切にする。

自然から学ぶ

人間が霊的存在であることを認識することから、宗教的清浄教育が始まる。
 目に見えぬ大きな存在があることを常々教えるべきである。



OTERART (お寺×アート)		31 才	男性
NO.58	P1	展示会	
			⇒ジャンルへ

(1)タイトル OTERART (お寺×アート)

お寺の数が約77,000となるとそれぞれのお寺の檀家の軒数は計り知れないほどあります。

現在は核家族が増えていること、その他様々な要因でお寺離れがいくらかはあるような気が致します。お寺も昔のように寺壇関係といった現在の役所の役割を担っていたのは過去の話になり、若者のほとんどが「お葬式や法事をするところがお寺ですよ」程度の認識しかないように思われます。それは、現在の学校教育、親からの家庭教育等ではそれほど寺（菩提寺）との付き合い方等を教育されない現状にあります。ここで私が提案したいことは芸術性をのばせる環境作り。人間の生活に必要な衣・食・住は日本では既に整っています。そこで「芸術」を伸ばせればと考えます。特に「絵」にフォーカスします。小中学校で授業の一環でのやらされて描くものではなく、自ら進んで絵を描くもの、その機会をお寺が子供達に与えられれば素晴らしいことだと思います。

例えば季刊誌のように春にはこのテーマ（全国統一or各寺独自）で思ったこと、感じたことを絵に描いてお寺(自分の菩提寺)に展示する。展示することにより家族が見に来たり、お寺に関わる人が見に来たりと通常でありえない人の動きがあり、そこでは会話も生まれる、そこで檀家とその子供達は寺の在り方を再認識して寺とは何なのかと理解出来る場になるのではと考えます。

<提案>

ターゲット：小学生から中学生

その① 期日を決め、絵を集め何処かの週末に展示して檀家さんを集める。そこで今回のテーマについてや住職のお説法等そのお寺ならではの特色を感じることを出来る場所作り

その② 住職と総代さんなどでそのテーマの絵の代表を決め、総本山で展示など…(これは文部省などのコンクールみたいになってしまうかもしれませんが) 競争心と意欲を引き出す為。

<利点>

その① 子供の時からお寺と付き合うことにより、寺の大切さや存在する意味などをこれからの世代の子供達に伝えることが出来る

その② 日本ではARTが身近ではない、ここで日蓮宗として地域の芸術コミュニティになることでよりARTが身近な存在になる。

その③ そして無限の可能性を秘めた子供達に出会える。

その④ お寺と子供が繋がり、お寺がもっと身近な存在になる。

現在宗教心の薄れが叫ばれる中、子供の頃からお寺に触れる機会を持つことで、信仰に触れ、ご先祖様に触れ自分の心の中の信じるべき心を養うことが出来るようになる。「駆け込み寺」という言葉にもあるようにお寺とは心の拠り所になる存在であるべきだと思います。

「寺ー芸術ー子供」のキーワードで様々な展開と希望を感じます。

学校では教えてもらえないこと、社会では学べないことを与えられる場＝お寺なのではないのでしょうか？

コスプレイベントの会場としての使用アイデア			21 才	女性
NO.59	P1	会場提供		
				⇒ジャンルへ

(1) 活性化アイデア(タイトル・アイデアの概要も必ず明記して下さい)

「コスプレイベントの会場としての使用アイデア」

今コスプレ文化はメディアに取り上げられたり海外でも知られる日本の文化と言えます。

コスプレをする際にはもちろん場所が必要であり、野外でコスプレする場合は特徴的な雰囲気を持つ場所を会場とする事が多いようです。

そこで、お寺でコスプレをしたいという人も多くいるはずですので週末などに会場とするのはいかがでしょう。

コスプレのイベントを主催する団体と連携を取れば利用者の確保も容易ではないかと思います。お寺をコスプレ会場とする事で、コスプレ後の食事などがお決まりなので周辺地域も同時に活性化するのではないのでしょうか。

ご検討よろしくお願い致します。

朝起き会		36 才	男性
NO.62	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

健全な生活が健全な心を生む と私は思います

最近では自殺やイジメや虐待など人への優しさや思いやりの薄い社会になってる気がします
 しかし みんながそおではありません 子供達にはまだ未来が有り純粹です
 その子供達にお寺に来て住職の説法を聞かせたら良いと思います
 しかし 子供ですから説法しますじゃ来ません

そこで健全な生活と絡めて まだ学業への影響が低い小学生低学年くらいまでの子に朝6時くらいに集まってもらって
 体操や遊びをする 遊びも昔の遊び 身体と仲間が居たら出来る遊びをする
 で 雨の日は中ですが たまに説法をする
 子供の心の片隅にそっと置いておける様な話を

そして その子が親になったら今の親見たいな愛の無い親にはならないと思います

これは 私が体験させて頂いた話です
 私はとってもあの住職が好きで今でもたまに思い出します 我が子にも是非ともあの体験をさせてあげたく投稿致しました

保育園、幼稚園、学童保育とコラボ			不明	男性
NO.64	P1	境内・伽藍の開放		
				⇒ジャンルへ

たくさんあるお寺と、足らなくて困っていることをコラボレーションしてみたいかがでしょうか。今、足りないのは、保育園、幼稚園、学童保育などです。是非実現に向けて現実化して頂ければ、素敵な日本になるのではないのでしょうか。

地域の催しに寺の施設を提供		65 才	男性
NO.66	P1	修行／同じ趣味の会／会場提供／仏教年中行事	
			⇒ジャンルへ

地域社会あつてのお寺であることを思い起こし

地域に寺を大きく開いていく。地域社会のよりどころにする。

- ①、地域の催し（町内会の役員会、囲碁、将棋などの趣味の催し）に寺の施設を提供する。
- ②、大震災などの有事には避難場所として開放する。
- ③、そのための備蓄も心がける。
- ④、池上本門寺でやっているような静座の会、朝粥の会とかを催し、お寺を身近にしてから法を説く「法話の会」を実施する。仏教や宗門への理解が深まる。

※ 禪宗寺院で座禅会をすることがまことに少ない。

菩提達磨も嘆いているだろう。

てら×芸×マーケット		24 才	女性
NO.71	P1	土地を貸す／境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

てら×芸×マーケットとは、お寺の本来の役割である『学び・遊び・人を育む場所』に新時代への希望を込めたお寺を利用した新感覚フリーマーケット。

お寺に大道芸人を呼び、様々な芸を披露することで若い才能を育て、フリーマーケットを行うことで現代人にモノを大切にすることを教える。

お寺はモノを大切にする心、想像力を育めるといった場所を地域に提供し今まで以上にお寺が地域の発展へ貢献することが出来る。

地域社会のためのお寺活用アイデア案

てら×芸×マーケット



1

てら×芸×マーケットとは



てら×芸×マーケットとは、お寺の本来の役割である『学び・遊び・人を育む場所』に新時代への希望を込めたお寺を利用した新感覚フリーマーケット。

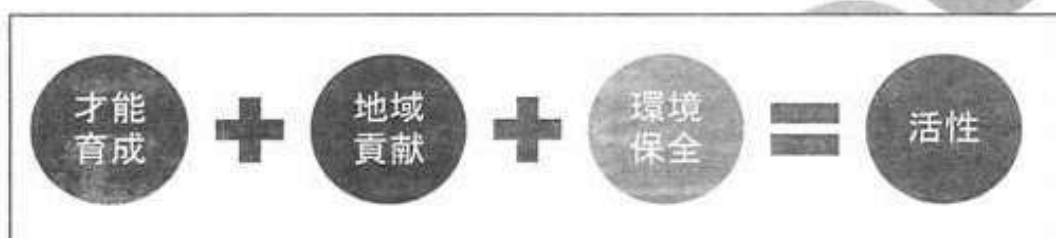
お寺に大道芸人を呼び、様々な芸を披露することで若い才能を育て、フリーマーケットを行うことで現代人にモノを大切にするこころを教える。

お寺はモノを大切にする心、想像力を育てるといった場所を地域に提供し今まで以上に、お寺が地域の発展へ貢献することが出来る。

2

てら×芸×マーケットのメリット

才能育成	若き大道芸人に披露の場を与えることで、芸術家を育てることが出来る。
地域貢献	大道芸人は、フリーマーケット後のお寺や付近の掃除を行うことできれいな地域を保つことが出来る。
環境保全	モノのリサイクルが環境保全につながる。

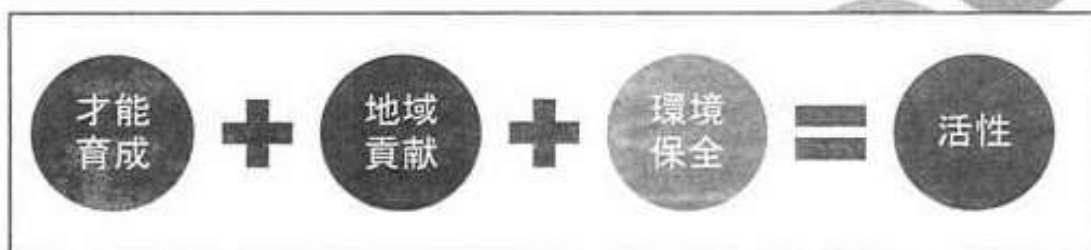


てら×芸×マーケット		24 才	女性
NO.71	P3	土地を貸す／境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

2

てら×芸×マーケットのメリット

才能育成	若き大道芸人に披露の場を与えることで、芸術家を育てることが出来る。
地域貢献	大道芸人は、フリーマーケット後のお寺や付近の掃除を行うことできれいな地域を保つことが出来る。
環境保全	モノのリサイクルが環境保全につながる。



3

てら×芸×マーケット概要

項目	詳細
目的	才能育成、地域貢献、環境保全
日時	土、日、祝日
参加費用	0～500円程度
対象者	地域住民(年齢問わず)
大道芸人	有志の大道芸人
内容	・フリーマーケット ・大道芸人のパフォーマンス

フリースペースとしてのお寺の活用		20 才	男性
NO.76	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

フリースペースとしてのお寺の活用

私は「フリースペースとしてのお寺の活用」を提案する。

さて、お寺の数はコンビニより多い。これは何を示しているのだろうか。コンビニは近くにあるため便利であり、現代人の生活に深く根ざしており、欠かすことができない。ということから、お寺はそれよりも現代人の生活にとって欠かすことのできない存在になることができる。しかし現状はどうだろうか。お寺を利用することは基本的には無い。

また、最近孤独死や子供の遊び場の減少が問題になっている。この原因は地域コミュニティの解体が挙げられる。地域に高齢者が集まり、また子供が安心して遊べる場がないのだ。

以上の 2 点の問題を解決する手段としてのお寺活用をここでは考える。そこで導き出される手段はお寺をフリースペースとすることだ。お寺の本堂などを午前から夕方まで開放し、人の出入りを自由にする。そこに子供から高齢者が好きな時に集まり、好きなことをするのを基本とする。子供は安心して遊べ、高齢者は集まれる場が出来るので、地域のコミュニティができる。こうすることで子供は祖父母が増えたように感じられ、普段はやらないようなメンコやベーゴマといった昔の伝統的な遊びをやり、昔の話を聞くことができる。また高齢者は孫が増えたように感じられ、子供と遊び、話すことで日々の生活の刺激になる。

またフリースペースなので自由な講座を開設することができる。例えば、お坊さんのお話をみんなで聞く講座や、地域の方によるアロマセラピー講座、さらには 1 日限りのカフェなどが考えられる。こうした講座を開設することなどで、上記した子供と高齢者だけでなく、若者をはじめとする地域の方々を巻き込むことができる。そうすると、地域の方々も自分の店のパンやコロッケなどの差し入れを持って頻繁にお寺に足を運ぶようになり、さらなる交流が期待できる。

たしかに公民館でも様々な講座が開設されている。しかし公民館は使用時間・用途が決められており、また自由に立ち寄って世間話をするような場では無い。また立地場所が限られ、体の不自由な高齢者の場合、家から遠い場合はなかなか行くことができない。その点、フリースペースとしてお寺を活用すれば、基本的に午前から午後まで自由なことに使用することができ、気軽に立ち寄って様々な年代と交流できる。またコンビニの数より多いので、家から近い場合が多く、体の不自由な高齢者の方でも行くことが可能であり、外に出て歩くことで健康にもつながる。

以上のようにお寺をフリースペースとして活用することで、普段はあまり関わりのないお寺に子供・若者から高齢者まで、普段は交流の少ない様々な世代が集まる。こうすることで地域コミュニティが形成され、お寺のみならず、お寺を含めた地域全体が活性化する。こうした理由により、私は「フリースペースとしてのお寺の活用」を提案する。

ふるさとお祭り屋台村 寺婚センター		58才	女性
NO.77	P1	交流が目的の会／置場提供	
			⇒ジャンルへ

1 活用名

ふるさとお祭り屋台村

2 背景

- ・地域のお祭りが廃れつつある。環境、人、場所などが主たる原因である。
- ・恒久的な場の確保、軸となる環境確保のために、お寺の活用が望まれる。
- ・東北大震災で再認識された濃密な地域の絆、家族の絆確認や復活へのきっ

かけが必要である。

3 内容

- ・神輿や山車などの保存場所としてお寺の活用を図る。
- ・お祭りの発着の場としてお寺を活用する。
- ・囃子や屋台の場として活用する。

4 運営

- ・町内会あるいは連合町内会と連携し位置づけを図る。
- ・周知広報も町内会、連合町内会にゆだねる。

5 効果

- ・お祭りが地域コミュニティ復活、絆再確認に寄与する。
- ・お祭り拠点としてお寺が親しみをもたれるようになる。
- ・お寺のイメージが損なわれることがないばかりか、認識が変わる。
- ・利用料収入が入る。

1 活用名

寺婚センター

2 背景

- ・安定した社会システム維持のため、人口減の回復、少子社会打破、人口ピラミッド復活が望まれている。
- ・結婚、出産が唯一その鍵を握るが、全国に七万七千あるお寺をそのための「出会い」斡旋の場として活用を図る。

3 内容

- ・地域の婚活斡旋センターとして活用する。
- ・「寺婚」の会場として活用する。

4 運営

- ・関連のNPO法人を設立し地域割りするなどして連携する。
- ・住職も理事としての参加、具体的役割発揮が望まれる。

5 効果

- ・将来社会へのお寺による大きな貢献になる。
- ・婚活に寄与し、お寺への認識が変わる。
- ・住民に分かりやすく、若い人に親しみをもたれるようになる。
- ・お寺のイメージが損なわれることがない。
- ・利用料収入が入る。

【訳あり】を包容できるお寺が地域を安心に。		37 才	男性
NO.79	P1	販売コーナー	
			⇒ジャンルへ

アイディア概要

曲がってしまっているけど美味しい野菜、
縫い傷があるけど着られる衣類など、規格品にはならず訳は
あるけど社会に流通させることで喜ばれる商品があります。

地域の商店街や町工場から出た訳あり商品を安価で売る場所
としてお寺を解放するというプラン。

やがて訳ありの商品を扱っているうちに、訳ありの相談を
も皆で解決できる場としてお寺が機能するようになれば…。

アイディア詳細

先日、ある成功事例に出会いました。
「この行列、なんだかわかりますか？」廃屋となった漁港
の倉庫に人が数十人並んでいます。あたりは草がぼうぼうと
生えており、コンビニも何もありません。
毎週決まった日に行列ができるようになったのは、訳ありの
パンを安価にて売る場所を作ったからだったのです。

倉庫の内装をペンキで塗っただけ。しかし中は明るく、
東列は『道の駅』や産直会場のように平台に生産者の顔と
調理の仕方、安い理由、そして値段が書かれています。

バーゲンセール会場にも似たその倉庫は地域の人々がまず
楽しみにする場所として行列ができるのでした。

その行列に地元の一人暮らしの高齢者が並んでいることで
安否や体調がわかるようになり、パンだけでなく交流場所
としての機能も持ち始めたのです。

何にもない倉庫だからこそ成功したのか、何にもない
倉庫でさえ成功するのかわかりませんが、お寺においても

実際にフリーマーケット(蚤の市)や産直販売をやっている
ところがあるので、テーマを【訳あり】と絞って訳あり
商品を持ち寄りお寺に出してもらうのもいいのではないかと
まず思ったのが応募の動機です。

訳あり商品で「壊れ煎餅」などはむしろ普通の煎餅より魅力
を感じる人が出るほど「訳あり」という言葉が市民権を獲得し、
魅力が出ています。
「自分を買わなかったら捨てられちゃうのかもな、もったいない」
「訳ありでも美味しさという本質さえ大丈夫だったら問題ない。
それに安い訳だし」これら、訳ありという言葉には(捨てられる
かもしれない商品に対する)【救い】と(美味しさが大切だという)
【本質】を喚起させる作用を持ち、これすなわち、仏教に通じる
のではないかと感じます。

また、訳あり商品を売る人、買う人の中にはお寺で訳ありの相談
を受けてほしいという人がいるとしたら、経済的だけではなく
地域社会の心の活性化にお寺が寄与できるのではないかと
勝手に考えます。(お坊さんがすべて解決するのではなく、
地域社会のベテランたちが手をつないで問題を解決できるような
仕組みになるよう、毎月決まった日に訳あり商品売買取地元の
方々に(檀家さん中心に)行ってもらい交流をはかっておく
必要があります)

「訳があっていいんだよ。訳があるから人間なんだ」そんなこと
を私自身お坊さんに言ってもらいたい。
(商品や人間自身)既定・規格品じゃなくても救いがある、本質を
持っている。それらのことをお寺(仏教)はわかってきている。

そのような安心から地域が明るく、日本が元気になるキッカケが
あるのではないかとこのアイディアを応募致します。

私には想像できます。毎月仏滅の日の朝にはお寺に行列が
並んでいることを……。

ストレス社会における寺院の役割		49 才	男性
NO.82	P1	真剣な話し合い／相談窓口	
			⇒ジャンルへ

現代の寺院の役割とは何であろうか。まず考えられるのは葬儀・供養・祈祷であろうか。しかし、昨今では、葬儀も直葬なるものが登場し、墓も共同墓地、檀家といわれる人達も先細りで、このままでは寺院の経営は成り立たないように思う。

その昔、寺院は多くの役割を担っていたと聞いたことがある。当時の僧侶は学問に精通し読み書きは勿論、その時代の一般人と比較しあらゆる分野に精通していたと思う。ゆえに、教育者、医者、科学者、軍師としての側面があったと思料する。

現代は分野も細分化し、それぞれに専門家が登場してきた為、僧侶の役割も限定されてきた面は否めず大変気の毒である。しかし、その昔僧侶の役割であって、今最も重要な役割があると思う。それは医療である。医療といっても内科や外科ではなく精神科医の分野である。

実は私もここ数年、様々な困難に出遭い、肉親もなくした。本当に精神的に参り、鬱のような日々が続いている。かつて、診療内科なる部門を受診し治療とやらも受けたことがある。初めはカウンセリングと称して患者の話を聞いてくれるのだが、結局は薬物を処方し、自殺に備え24時間の窓口を設置する位であった。現代の医療としてはこれが限界なのかもしれないから無理はない。

その時思ったのだが、現代の人間はストレスに相当弱い。私も弱い。これは精神の鍛練が欠けているからだが、どうやって健康な精神を取り戻せるかわからない。薬物療法は身体によくない。何の薬物かわからないし脳も身体もおかしくなる。

薬物以外で健康な精神を取り戻すことはできないだろうか。精神の世界、これは僧侶が本来最も得意とする分野ではないだろうか。先日、中山の法華経寺で荒行されている若い僧侶に面会した。寒中の中、毎日2時間の睡眠、水行、ひたすら読経という百日は想像を絶する。一般人に到底できる精神鍛練ではない。こうした苦行を経験した僧侶ならではの乗れる相談というものがあるのではないだろうか。

未曾有の東日本大震災、経済はデフレスパイラルから脱せず、やがて資源インフレによるスタグレーションが始まり日本の前途は多難である。日蓮大聖人が予言された「末法の世」ともいうべき惨憺たる有様。若い人は絆を求めカルト教団へ入信する時代。しかし新興宗教のほとんどは商業主義で害しかない。

ストレス社会における寺院の役割		49 才	男性
NO.82	P2	真剣な話し合い／相談窓口	
			⇒ジャンルへ

私は仏教の何たるかを語るような人間ではないが、お釈迦様が残された教智は永遠であると思う。さだまさしさんの歌に「防人の歌」というのがあって、エクザイルの敦さんがカバーで歌いブームだが、ここに出て来るのは「生老病死苦」、まさしくお釈迦様の言葉ではないか。現代こそ本物の仏教の奥義（法華経）が求められている時代はないのではないだろうか。しかし、敢えて言いたいのは、布教活動を強化しろと言うことではない。むしろ布教活動は控えて欲しい。本来の大乗仏教の趣旨に則り、多くの人々を救う、それは人々の精神を豊かに強いものにすることではないだろうか。その結果、必然的に信者は増加するだろう。

結論を言えば、寺院が精神科医の役割を担って欲しい。勿論、薬物療法など論外、医療免許など必要ない。古から行われた僧侶本来の活動の一部を改めて実行するだけである。修行された僧侶なら、その法話で、その言葉で、精神を病んだ人々を励まして欲しい。僧侶が患者の話聞き、感情移入するだけでも効果はあるのではないか。寺院というのは歴史があるので、その場の雰囲気にも浸るだけでも何か新鮮な気分になるのである。だから、その寺院で修行の真似事をさせてもらうだけでも自分が精神的に強くなったような錯覚が起きる。最初は錯覚でも、繰り返すことで、鍛練されていくはずだ。

しかし体験修行できる寺院は関東でも限られているように思う。インターネットで検索してヒットするのは池上の大本山「本門寺」、千葉の善林山「正安寺」と養老山「立園寺」くらいだ。何故、寺院は一般人にもっと門戸を開かないだろうか。

ストレスに悩む現代人は、一人静かに自分と向き合う場所を求めているはず、その場所に導師がおれば心強い限りだ。鬱などの病は根深いし、一度快方に思えても、またぶり返す。継続した対処が必要だ。人とは何か、人は死んだらどうなるのか、死後の世界というのは本当にあるのだろうか、輪廻転生するのだろうか、そうした大きな哲学体系の中で自分の生きる意味というものを確認することこそが精神の病に必要である。それは現代医学では到底治療すること等できない。もしできるとしたら本物の宗教以外ないのである。

HPに「日本には現在、約 77,000 ものお寺があり、これは、コンビニ（約 42,000）よりも遥かに多い数」（日蓮宗の寺院なのかは不明）との記載があったが、その寺院の半分でもいいから、相談機能と体験修行機能を持つのはどうだろう。導入コストなど必要ないし、適切な相談料をとっても構わない。

例えば、寺院の清掃、瞑想、写経、唱題行、場合によっては水行などの体験修行を有料で行うとか、個人の相談を聞く日を設定し、個人の悩みに対し仏教の観点からアドバイスを 1 時間程度を目安に有料で行うなどである。ただ、真摯に人間に向き合うわけなければならないので、誰でもできるものではなく、大変難しいことだが、ベースはあるのだから少しの知恵と工夫があれば明日からでもできるのではないだろうか。

私は、精神科医の役割を、寺院の僧侶に取り戻して戴きたいのである。具体策が必要ならば、いくらでもアイデアを出すので、是非検討して戴きたい。

いつでも身近に 赤ちゃん～爺ちゃん婆ちゃんまで安堵感を		35才	男性
NO.83	P1	土地を貸す／本格経営	
			⇒ジャンルへ

近年は、専門に特化するという建前の基、何もかもが細分化されてしまい、結果、横の繋がりが無くなってしまったような感があります。代表的な言葉として、省庁を指す時などに用いられる「縦割り」という言葉が物の見事に現状を言い表してくれています。

縦割りの全てが悪いわけでは無いけれど、右手のやっていることを左手が知らない、(又はその逆)では困ります。

昔は寺社仏閣が町村の中心にあり、そこにはある種の威厳も備わっておりました。現代では町も街へ移り、あらゆる点で巨大化し、また五感を襲う周囲からの刺激が強烈になり、と同時に寺社仏閣も威厳を失ってしまいました。そのため、心の拠り所が無くなった現代では「キレる」という言葉が免罪符の用に扱われ、混沌の様を呈しています。

現代で寺社仏閣が昔のような威厳を取り戻すことは、おそらく不可能です。だとすればそれにかわる何かを提供することが必須になってくると思われます。

何故人は、京都奈良を初めとして、観光で寺社仏閣をこれほどまでに訪れるのでしょうか？それが、信仰心からでないことは明白です。では何がそれほどまでに人々の心を惹きつけるのでしょうか？

昔の建物に興味がある？

庭園の美しさ？

それらも勿論考えられますが、根底にあるものは「安堵感」与えている事だと私は思います。

では、現代でどのようにしたら安堵感を人々に与えられるのでしょうか？

私が考えていることは、寺社仏閣の敷地を利用し、保育所、学童保育、コミュニティーセンター、更には老人ホームを複合的に混在させたような場所を提供してはいかがでしょうか？

現代では共働きが主流になり子育てに多くの時間を割けないこともしばしばです。そこで、地域のお年寄りに活躍してもらうとともに、学童の年長の子供が世話をすることで、世代間のコミュニケーションが図れ、子供は目上の者を敬うという気持ちが芽生えてくるでしょうし、共働きの両親は地域に感謝をすることにも繋がるでしょう。逆に、お年寄りは、子供と接することで、地域とのつながりを再確認することもできますので、現代にありがちな孤独死なども少なくなると考えられます。

小さなお寺では寺同士が協力して役割分担をし、連携を模索することもできるでしょう。

お寺が地域との関わりを積極的に持とうとすることで、「安堵感」を与えるようになり、それが、有名な寺社仏閣だけではなく、地域のお寺も人を呼び込めるようになると考えられます。

それらを再構築することによってお寺も活性化していくのではないのでしょうか？幸いにもコンビニエンスストアよりも数多くのお寺が日本にはあるとのことなので、日本全国、どこに行っても変わらないコミュニティーが存在するということを提供することが出来れば、自然と活性化につながります。

それぞれが独自に行っても良いのですが、宗派を超えて連携しては如何でしょうか？アイディアを求めるだけでなく、自分たちも努力することは必要ではないのでしょうか？

お寺活用についてのご提案		43 才	女性
NO.88	P1	境内・伽藍の開放／本格経営	
			⇒ジャンルへ

長屋のような寺子屋のような

- ・ 国籍・性別・年齢を問わない、地域密着型”寄り合い所”

＜活用例＞

- ✓ 子連れやお年寄りが気兼ねなく立ち寄れるカフェ

➢ 実例：あかぎカフェ(新宿区神楽坂 赤城神社内)

☞ 年齢・国籍を問わず、スタッフを募集し、店内外での『交流』の場を実現

- ✓ 子どもとお年寄りの交流の場(各教室ごとに参加費を決定)

➢ お年寄りや定年退職者による寺子屋風の放課後スクール
(宿題のお手伝いやかんたんな工作などを楽しむ『学び』の場)

➢ 未就学児や学童を対象とした、昔懐かしい遊びを体験する『育み』の場

・ お手玉、すごろく、かるた、百人一首、駒回し、メンコなど、これからの世代に伝えていきたい遊びを伝える場

☞ 地域在住のお年寄り・定年退職者からスタッフを募集し、『交流』の場を実現

- ✓ イベント(参加費はできるかぎり無料で対応)

➢ 落語、地元の小中高や演奏家たちによる演奏会などを楽しむ場

☞ 地域在住、都内、近隣県から有志を募り、『交流』の場を実現

実現するに当たり。。。

- ・ 必要機材・物資の確保

□ 地元で調達できるかを確認 (区役所等の助力が得られるとよい)

- ・ 地元の人材の確保

□ 地域在住のお年寄りや定年退職者を募集
(区役所等の助力が得られるとよい)

- ・ 有志の確保

□ 地元・都内・近隣県で、現役・退職問わず募集
(区役所等の助力が得られるとよい)

お寺活用についてのご提案		43 才	女性
NO.88	P2	境内・伽藍の開放／本格経営	
			⇒ジャンルへ

その後の展開として。。。

- ・ 子育てママ世代、お年寄り、定年退職者が気軽に利用できる”交流の場”を目指して

＜活用例＞

- ✓ 教室の開催(週/月単位での開催による短期・中長期)
(各教室ごとに参加費を決定)

- 料理教室、パン教室などの『ものづくり』の場
- ヨガ、ピラティス、フラダンスなどの『体を動かす』場
- ネイルアート、アロマテラピーなどの世代を超えた『交流』の場
- 書道、陶芸、パソコン、外国語(主に英会話)などの『文科系活動』の場

＜実現に向けて＞

講師の確保

- 地元・都内で、現役・退職問わず募集 (区役所等の助力が得られるとよい)

保育士・ヘルパーの確保

- 地元で、保育経験者(退職)を募集 (区役所等の助力が得られるとよい)

地域への還元

- ・ 参加費の一部を地域活動のために寄付
- ・ イベント有志への謝礼(金額はその都度検討)

学童保育		34 才	女性
NO.89	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

(1) 学童保育

・自治体でやっている小学生対象の学童保育を寺院で行うことはできないか。
通常学童保育は時間の制限があり、内容もまた自治体の決めたルールに沿ったシステムなので働いている母親には厳しい部分があります。
また、通常学童ですと家に置いておくのと変わらず、テレビを見せたりして放置されているのが現状です。
勉強等をさせて欲しい訳ではなく、寺院の敷地内で遊ばせたり、近隣の御老人の方と話をしたりすることが出来るだけでも良いです。
安心してあずけられる場所を提供頂けたらと思いました。
地域の方達で有志を募り常に誰か大人がいて、児童が遊んでいるのを眺めていてもらうだけでも大丈夫だと思います。

以下は息子のアイデアなのですが
田舎へ行ったときにお寺等で遊ばせてもらったのを覚えていて
土、日に小学校の校庭開放のようにお寺で遊べたらと言っておりました。
(上記の学童保育と併せた案として考えて頂いて良いです。)

どちらの案にも言えるのですが、礼儀作法等がお寺の方たちと触れ合って自然と身についてくれたら素晴らしいなと思います。

芸術趣味の村	助け合い村	研修村	学習塾	65才	男性
NO.90	P1	修行／勉強会／境内・伽藍の開放／相談窓口			
					⇒ジャンルへ

1 活用名

ふるさと芸術趣味の村

2 内容

・地域活動、市民活動として現在さまざまな趣味の会がある。それに対して情報支援事務局機能については行政が用意しているところが多いが、展示、発表の場のほか研修の場は用意されていないなど不便が目立つ。

- ・そこで、お寺の境内や会館をそのような拠点として利用可能なものにする。
- ・茶道、華道、書道のほか絵画、俳句、骨董収集、囲碁将棋、詩吟、浪曲、尺八などの会の活用が考えられる。
- ・発表会や研修会の日には地域住民に開かれたものにできればよいと思う。

3 運営

- ・法事を受け入れるのと同じ要領で、受付などをお寺で実施する。
- ・地域割りし、NPO 法人に受付事務を集約しつつ代わりにやってもらう。

4 効果

- ・地域住民活動拠点として地域住民に分かりやすく、親しみがもたれるようになる。
- ・お寺のイメージが損なわれることがない。
- ・若干であるが利用料収入が入る。
- ・地域活動の活性化に寄与し、お寺への認識が変わる。

1 活用名

ふるさと助け合い村

2 内容

・人生の悩みや苦難解消など人生相談所として活用する。この場合相談員は住職になる。

- ・地域の災害備蓄基地として活用する。市町村のその最前線の機能をもたせる。
- ・福祉バザー、リサイクルバザー、地元産野菜直売などの会場として活用する。
- ・子どもの夏休み宿題のお助けどころとして活用する。

3 運営

- ・町内会あるいは連合町内会と連携し位置づけを図る。
- ・周知広報も町内会、連合町内会にゆだねる。

4 効果

- ・地域の助け合い拠点として住民に分かりやすく、親しみがもたれるようになる。
- ・お寺のイメージが損なわれることがない。
- ・利用料収入が入る。
- ・地域活動の活性化に寄与し、お寺への認識が変わる。

芸術趣味の村				助け合い村	研修村	学習塾	65才	男性
NO.90	P2		修行／勉強会／境内・伽藍の開放／相談窓口					
								⇒ジャンルへ

1 活用名

さむらい&なでしこ研修村

2 内容

- ・社員や店員、公務員などの研修施設として活用する。宿泊可能ななおいい。
- ・法話、座禅、読経、写経、掃除、精進料理などが研修メニューになる。
- ・企業や業界団体などの研修メニューの一つに加えてもらい多活用を図る。

3 運営

- ・お寺自身で受付事務をとりおこなう。そうでない場合には次による。
- ・地域割りし、NPO 法人に受付事務を集約しつつ代わりにやってもらう。

4 効果

- ・地域の研修拠点として市民に分かりやすく、親しみがもたれるようになる。
- ・お寺のイメージが損なわれない。
- ・利用料収入が入る。

1 活用名

町なか学習塾

2 内容

- ・小学校、中学校児童生徒の学習塾として活用を図る。
- ・リサイクル図書を受け入れ児童図書館として活用する。

3 運営

- ・シルバー人材センターと連携し塾運営をおこなう。
- ・NPO 法人と連携し塾運営をおこなう方法もある。

4 効果

- ・地域の子ども学習拠点として市民に分かりやすく、親しみがもたれるようになる。
- ・お寺のイメージが損なわれない。
- ・利用料、入館料収入が入る。

お寺を高齢者が集う場に		70 才	男性
NO.91	P1	同じ趣味の会／境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

日本社会が抱える大きな問題は、少子化と高齢化です。

私はお寺が地域社会とのつながりを取り戻し、地域社会の中心となるために、高齢者問題に取り組むことを提案します。

日本には介護保険の世話になっていない高齢者、介護保険の自己負担が負担できない高齢者、介護予備軍が大勢いると思います。私の住む北区は、ひきこもりがちな高齢者・認知症の方が憩える場所を提供する事業としてふれあい交流サロン「集いの場」の整備をめざしていますが、当面14箇所の地域包括支援センターに設置を予定しているため、数が少なくほとんどの高齢者にとっては遠すぎて通えません。各町内に、高齢者が集まって世間話をする場所があると良いのですが見当たりません。お寺をそういう場所にして下さい。すでにお寺の一部を開放したオープンテラスや「僧職男子に癒されナイト」などの宗派を超えた仏教イベントが行われています。

お寺に高齢者や同行の家族が行くと、お茶のサービスがあつて、近所のお年寄りが居ておしゃべりができ、テレビが見られ、時々お坊さんの説法が聞けたら良いと思います。ただ、お寺ですから仏教にかかわる花祭りなど年中行事や写経会、お釈迦様の教えの説明などはしっかりとやって下さい。さらに高齢者向けのお料理教室や介護予防の体操教室なども考えて下さい。たまには小学校の生徒にミニコンサートをやってもらいましょう。私の母がデイサービスに通う当別養護老人ホームには、時々高齢者を楽ませるためボランティアが来て音楽演奏などをしてくれています。こういう活動を支援しようというボランティアはかなりいると思います。各地に児童館があるようにお寺が高齢者のたまり場になってほしいのです。最初は月1回からはじめ、少しずつ増やしたらどうでしょうか。

問題は①誰が利用者のめんどろをみるか、②お茶などのサービスにかかる金をどうするか、③行き帰りの事故の責任問題だと思います。①のめんどろを見る人については、地域包括支援センター職員、地元町会の有志、認知症サポーター、若手のお坊さんなどが考えられます。認知症サポーターは、認知症高齢者が地域で暮らしていくために地域で支えようという趣旨で厚生労働省がはじめたもので、すでに数万人が養成されています。私も認知症サポーターで何かあったらお手伝いしようと思っていますが、活動の出番がないのです。②の費用負担については、参加者に参加1回ごとに100円以上のお布施をいただく、厚生労働省の地域密着型サービスの中でのふれあい交流サロン「集いの場」(自治体により名称が異なる)事業から補助してもらうなどが考えられます。③行き帰りの事故は買い物と同じく自己責任としてもらいましょう。

こういう活動をするとうち自治体や地域包括支援センター、町会役員、ボランティアなどと連携をとる必要があり、お寺も大変だと思います。しかし、若手のお坊さんと地域包括支援センターが中心で活動始めたら、やがて地域に支援する組織ができると思います。これを機会に日常生活の中に仏教の精神が蘇るよう日蓮宗宗務院伝道部も応援して下さい。その結果としてかつてのようにお寺が地域コミュニティの中心になることを願っています。

地域コミュニティ in お寺		70 才	男性
NO.92	P1	境内・伽藍の開放／置場提供／キャラもの	
			⇒ジャンルへ

（ 概 要 ）

私達はそれぞれ自宅の仏壇と菩提寺で先祖を敬い、感謝し、平穏無事を願い供養しているのが日々の生活形態でないかと思われませんが、昨今、寺に対する見方が少しずつ変化してきている傾向が察しられます。

地域に於いては、冠婚葬祭等の施設オープン化が周辺に目立ち、寺の利用頻度が今後どう変わっていくか定かではないが、この社会変化へどう対応するかが無縁社会、寺離れをつくらない為に重要ではないかと感じております。

特にこれから世代を担う子ども、若年者に如何に寺への関心を高めさせ、いかに寺に集まりの機会を作り出すかで寺への意識が変わると思います。

子ども達に聞くと寺は こわい、くらい、又、若年者に聞くと寺のことはお年寄りがやる事だと言う。

このようなイメージを先ず払拭するのが必要であり、そのためには信仰宗教を問わず、寺への集まりの場として屋内、屋外施設を寺の行事に弊害のない程度に常に誰でも気軽に利用できる地域寺として広く開放しその活用を広報して地域の活性化に繋げたいものだと感じましたので、タイトル：地域コミュニティ in お寺を提案します。

提案に関して「お寺で、こんなことやったら・やってみたい」の内容を述べさせて戴きます。

① 地域に根ざした祭り行事に関わろう。

全国各地域に先人達が継承した歴史と由緒ある伝統的な、さまざまな年中行事の祭りがある。子どもたち、若年者、高齢者と地域に根ざした祭りがあり、これが地域の活性、元気のエネルギー源となってライフスタイルに溶け込んでいる各地の祭りイベントと感じています。

- ・神社が主体の祭りが大方であります但柔軟解釈で関わる。
- ・祭りの踊り、太鼓の練習する場を提供（境内の空き地などを利用）
- ・祭りの打合せ会合等に寺の屋内、屋外等の施設を提供
- ・主催者との使用前後のルールの徹底

（いずれも寺の許容範囲内で日時を調整）

地域コミュニティ in お寺		70 才	男性
NO.92	P2	境内・伽藍の開放／置場提供／キャラもの	
			⇒ジャンルへ

② 子どもたち向けに、寺にそれぞれのマスコットキャラクターを置き、マスコットに逢いに行こうと言うようなキャッチフレーズ等で、子供達へ寺の関心を得る機会をつくる（スタンプラリーも併用すると効果大）

③ 寺への初詣をもっと呼び掛けましょう。

・人それぞれ信仰の自由があり初詣も自由であります、神社への初詣が風習として殆んど思われますが、先ず年の初めは自分の菩提寺に初詣し先祖を敬い感謝の心を伝い参拝したいものです。

・お守り、初詣商品、温かい物を用意し参拝者に向けて対面型で対応する。

④ 地域の町内会（子ども会、婦人会、青年会、老人会等）へ寺の活用を呼びかけ。

⑤ 各種団体の講演会、講習会、音楽会等々について寺の施設を有効活用して貰う。

⑥ 年に一回程度（例えば、お盆入りの前とか）檀信徒の子供達や若い人を動員しご先祖のお墓周辺の草取りを兼ね境内の環境美化をすることで供養の心が育まれる。

⑦ 境内をレクリエーションの場として、遊び、鍋っこ、小スポーツ、他の活用
（ただし、寺に適当な空き地があれば・・・寺との調整必要）

※ お寺の活用アイデアが何か一つでも寺が地域の活性化と元気に繋がればと思っています。

お寺で子育て支援		30 才	女性
NO.96	P1	修行／勉強会／真剣な話し合い／相談窓口	
			⇒ジャンルへ

お寺で子育て支援

●はじめに

地域での「お寺活用方法」を考えたときに、お寺は住職、僧侶や寺の奥さんなど常時誰かが居る場所であるという特徴が思い浮かぶ。人の目があるということは、子どもにとっては防犯面で優れた場所であるという点に着目し、お寺を「子どもが安心して過ごせる場」としての活用を考えた。もう1つのお寺の特徴としては、寺の奥さんの多くは子育て経験者であり、婦人会に入りお寺をサポートする檀家もまた子育て経験者が多いことが挙げられる。そのため、経験者としての知識や体験を生かし、子育て中の母親の支援が可能ではないかと考え、子育て支援も同時に行うことができるのではないだろうか。加えて、お寺を子育て支援の舞台とすることで、地域の子どもや母親たちが仏教や信仰に関心を持つ機会を提供できると考え、以下にアイデアを提案する。

● 概 要

子どもへの安全に過ごす場所の提供

空き部屋や本堂を使用し、近所の子どもが放課後や長期休みなどに遊びや、勉強など、様々な目的で過ごすことのできる場所を提供する。特に共働き家庭の子どもが安心して過ごせる場所として、アピールを行う。

子育て支援

婦人会や檀家の協力を仰ぎ、お寺に頻繁に足を運んでもらうよう促し、お寺にきた子どもや、母親達に話しかけ、相談しやすい環境をつくる。また、ママ友の交流の場を提供する。お寺で子育て支援を実施していることは、町内会や広報を通してアピールを行う。

お寺との交流

僧侶が指導する書道や写経、子ども向けのお説教を定期的実施する。また、お寺にある仏像や、お寺で行われる季節ごとの行事の意味や内容について解説を僧侶が行うことで、お寺への興味を持つきっかけづくりを行う。また、各季節の法要の案内を行い、家族でお寺にくる機会を積極的に提案していく。

●終わりに

お寺は、檀家にとっては身近な存在であっても、近所の住民にとっては気軽に訪れることではない場所ではないか。しかし、きっかけさえあれば、檀家でなくても、様々な人がお寺に足を運びやすくなるだろう。お寺が地域で活用されることで、より地域に根ざした、地域に必要とされるお寺になることを期待したい。

赤ちゃんの計測所・離乳食講習・マッサージ、選挙の投票所			44 才	男性
NO.99	P1	会場提供		
				⇒ジャンルへ

赤ちゃんの計測所

赤ちゃんの離乳食講習

赤ちゃんマッサージ

少し前までは、公民館などでやっていたが最近取やめになった所が多い。専用のスケールなどが必要なので、重要である。

選挙の投票所

一般の方が皆よって、内覧も、できると良いですね。

出会い・つながり		24 才	男性
NO.101	P1	修行／境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

タイトル『出会い・つながり』

- ・物産店: 全国の伝統工芸品をお寺を利用して巡らせる。全国が近く感じられる。
- ・僧侶体験: 学校と連携し、学生がある期間お寺で過ごすことで学校教育にお寺を活用する。
- ・図書館システム: 地域住民が寄付した図書を貸し出すだけでなくお年寄りから子供まで世代を超えて夢を語れる場所にする
- ・出張授業: さまざまな分野の講師を招き、境内で講義をする。その講義が面白いと話題になる。
- ・安旅システム: お寺に宿泊できる。宿泊客はお坊さんと一緒に清掃活動等、条件を課せられる、実践出来れば宿泊料が格安になる。
- ・物々交換: 境内にて物々交換市場を開催する。モノを大切にする心が養われる。

文

とであう

知

とであう

人

とであう



文化とであう

炊事 說法

各社の神社仏閣の境内を利用
各社、ある一定の期間、例え
一カ月間に工事をやりたく
ても、七月に工事をやりたく
ても日本全国に工事を通し
て各地の神社仏閣にわたる
ことを許さず、

神社工事は、神社からはず
としての境内があり、その境内
は、神社にまつて、神社の
歴史にまつて、その出来
ては、まちづくることが出来
ては、ないだろうか。

伝統的な要素、神社仏閣の
新しい時代の人々に伝える。



物産展

物産展

全国各地の伝統工芸品が
77000を超えるお寺を巡る
伝統工芸品と出合い、
日本の素晴らしさを再認識する

A map of Japan with dots indicating the locations of traditional crafts exhibitions across various regions, including Hokkaido, Tohoku, Kanto, Chubu, Kansai, and Kyushu.

出張授業

子供から大人まで様々な分野の
講義が本堂で行われる。
二階席に一部講師を招く。
地域の乃の経験者も聞いてほしい。



図書館システム
子供から大人まで様々な分野の
講義が本堂で行われる。
二階席に一部講師を招く。
地域の乃の経験者も聞いてほしい。

02

知識とであう

子供から大人まで様々な分野の
講義が本堂で行われる。
二階席に一部講師を招く。
地域の乃の経験者も聞いてほしい。



図書館システム

子供からお年寄りまで開かれた場所とする。
そこには個人が本を持ち寄り、
同時に本を貸していく。
本を通して繋がり、深く学べる事が出来る。



子供から大人まで様々な分野の
講義が本堂で行われる。
二階席に一部講師を招く。
地域の乃の経験者も聞いてほしい。



子供から大人まで様々な分野の
講義が本堂で行われる。
二階席に一部講師を招く。
地域の乃の経験者も聞いてほしい。



寺 本 人

物々交換



モノをお手につなぎ、
互いにモノを交換する。
何かに代わりのモノがある。
モノに対する想いを共有する場でもある。



安旅システム
安旅システムは、
古くからある人々の生活の
知恵を現代に活かすことで、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。
安旅システムは、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。

安旅システムは、
古くからある人々の生活の
知恵を現代に活かすことで、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。
安旅システムは、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。

03

人とであう



安旅システム

加に対しても多くの人々を
得る、或るなどの日々を
安旅システムは、
安旅システムは、
安旅システムは、

安旅システムは、
古くからある人々の生活の
知恵を現代に活かすことで、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。
安旅システムは、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。



安旅システムは、
古くからある人々の生活の
知恵を現代に活かすことで、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。
安旅システムは、
人々の生活を豊かにする
ことを目指しています。



わかりました。
但し、地域のために
がんばっていただきます。

働かざる者、食うべからず



ハードを超える

ソフトの強さを

育てる寺に。



此種為西北之
陸中之老樹
增茂矣。



此則如左
 常以爲之世法
 有之古人所爲。



遠くはたぐさん
木がある一丁
中ばらしい。



廣福、可
李天香、沈永年



日本の伝統は
中ばらいい
それを知ってほしい



仕事一丁だといひ
 施にほど又金相事
 ある又だちやう？



△ 此法与图 1-1 的
第 2 步同



自來水
の国で



陆永春
陈学明等

出会いから
人がつながる



移す意味→下
 中は()



伍氏莊御
伍氏莊心



此等一考
大處有詳也
由上以。



廣師是也古也
心也落也通也



本卷
為四冊。



之天章
瑞成初任主和一派。



伍執正業品一丁
寺子いん下中相



非一で
 常なること
 なくさへある。

[illegible]



「地域×コミュニティ×お寺」の活性化について考えた際、一番重要なことは今後五年十年・・・と持続可能な活動であるか、という点にあると考えました。それは、短期的な活動では、単なるイベントとして終わってしまう恐れがあるからです。誰もが母親の料理に思い入れがあるように、素朴でありながらも長い間親しみ続けたものは人の記憶に残ります。そこで「おてら三昧」という活性化策をご提案します。活動は至極シンプル。お寺の本堂を一定時無償で「自習室」として解放するのです。

持続可能な活動、それは設備投資をするでも無く、人件費をかけるでも無く、お寺に備わっている本来の場としての力を引き出す事にあると考えました。お寺が本来持っている「場」としての空間、
①広い ②静か ③神聖、厳格な雰囲気 ④幅広い年齢層の受け入れを効果的に地域に発信していく。

昨今、お寺での音楽活動やボランティア活動、写経、読経、ヨガ等の教室はよく見られます。けれど、「おてら三昧」は活動の対象を一つにしぼりません。お経読や、手紙の執筆、仕事の企画書や読書に勉強と、若者男女それぞれが自分一人でも中（三昧）出来るものをお寺に持ち寄ります。そして限られた時間の中で、自主性を持って集中し、作業を行う。一人で勉強するとはかどらないけれど、横で誰かが集中していると何故か自分も集中する。この集中の連鎖に注目しました。

最近では各家庭にテレビやパソコンがあり、各自が携帯を持ち、大変便利な生活になりました。しかし、その中で失われているのが「無心で集中出来る場所」です。電子機器類や家事、職場などの世間から解放され、一つのこと集中して時間を過ごす。つまりは「三昧」の道場としてお寺を活用して頂くというものです。活動の命名には、お寺を「清閑する」という意味での「三昧」と、「お寺で」物事に没頭するという意味での「三昧」、二つの意味を込めました。門徒、檀家に限らず地域にお寺を解放するので、〇時～〇時までが入室時間と設定してもよいかもしれません。これにより頻繁な人の出入りによる集中力の散漫を防ぎ、不審者対策としても有効です。

例）・毎月第一・第三月曜日「おてら三昧」開催。
・ 18時半～19時 入室（名前、住所、連絡先等記入）
・ 19時～20時半 三昧（各自、作業に集中）
・ 20時45分 解散

などと、昼、夜、開催時間はお寺のスタイルにより様々な設定出来ます。寺族等、通宮構は最低でも入室時と帰宅時に携われば通宮可能です。「おてら三昧」を通して知り合った人々が、新しいコミュニティや活動を形成する、という二次的活性化も期待出来ます。また、三昧は、「一人で集中する」という行為だからこそ、「一人では行きづらい」等の不安感も軽減され、老若男女を対象として行えます。

お寺が持つ「場」としての魅力を長期的に地域に発信することで、お寺を身近に感じてもらえる。周囲の喧嘩から離れ、自分の時間を持つことで同々人の充実感が得られる。別々のことをしていても「集中する」という行為を通して同じ場に居る人々（地域）の一体感が生まれる。これらにより、「おてら三昧」は「地域×コミュニティ×お寺」の活性化に効果的であると、「提案します」。

地域から個人へ	地域から世界へ	「活性化」	38才	女性
NO.103	P1	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／土地を貸す／まつり型イベント／情報発信／紹介所／寺院ネットワーク／地域ネットワーク		
				⇒ジャンルへ

地域社会のためのお寺の活用アイデア

地域から個人へ 地域から世界へ 「活性化」

お寺は地元の長老

町のリクリエーションセンター

町の情報網

町のなんでも屋！

過去と現在と未来、
人と地域と世界を
つなげる役割の場所

はじめに

日蓮宗のホームページを拝見し、立派で分かりやすく、うまくできていると思いました
何も知らない私は、いろいろあるんだなあと思強になり、また興味も湧きました
しかし、地域の段階に行くと、私達一般の人間は、まったくなにも知りません。
普段の生活では、まず日蓮宗のホームページを見ようとは思わないと思います
お寺の前を通りかかっても、なぜか閉鎖的なイメージで、自分には関係のない場所と
いった感じです。

でも、おもむきは立派で素敵な建造物だなあと、惚れ惚れしながら前を通ります。
ホームページ内のリンクされている地域のお寺のページに行くと、残念ながら、分か
りにくいです。

ほとんどがマップでしたし。まだまだこれからなんだろうな、やはり年配の方が多く、
やりにくいんだろうなと思いました。

2年前に母を亡くした時に、初めてお寺やお坊さんと接して、改めて日本の風習や仏
教の人を思いやった気持ちに触れた気がします。

そこで何も知らない私が思ったことを簡単に箇条書きにしてみました。

この募集のことを知るのが遅れてしまい、あわてての応募になってしまい、申し訳ご
ざいません。

もし、分かりにくい箇所、説明不足の箇所があればお気軽に質問していただいて結構
です。

乱筆乱文をお許してください。

地域から個人へ	地域から世界へ	「活性化」	38才	女性
NO.103	P2	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／土地を貸す／まつり型イベント／情報発信／紹介所／寺院ネットワーク／地域ネットワーク		
				⇒ジャンルへ

お寺の弱み

お寺のことを知られてない

お寺とこんなことやりたいと考えたときに、「お寺って何ができるの?」「お寺ってどういうところ」などまったくお寺について知らない。でもこれって一般的な意見だと思う。全国にあるのに身近に感じたことがない。。
昔からあるもの、お墓のあるところ、ご先祖様や亡くなった人々を供養してくれるところ
宗教的なところ、
どちらかと言えば、あまり行きたいと思うような場所ではない。

お寺のイメージ

実際、イメージが暗い
お金がかかるイメージ
坊さん来てもらったら、結構なお金をあげないといけないイメージ
お坊さんが派手な格好をしてるイメージ
どんな行事があるかいまいち不鮮明
コンビニより数があるのにほとんどいかない、行く機会がない
コンビニみたいにコンビニエンスではない
そこにある意味、理由があんまり分らない
まだ神社のほうが活気があるイメージがある。

お寺と一緒にこんなことをやってみたい!

お経コンテスト

お経書初め

お寺ゲームでお寺の勉強(全国のお寺の神経衰弱とかカードゲーム、百人一首的なゲーム)

町の商店の露天、祭り

バザー

フリーマーケット

座禅大会

修行体験

いろんな対戦や大会

人道のマナー教室

修行で学んできたことを教えて欲しい

盆や供養の時だけでなく、もっと説教して欲しい

いろんな業界の人をイベントとしてお寺に来てもらって、講習やセミナーみたいに関心のある人の説教もお坊さんの説教と一緒に聞いてみたい。

落語家や芸能人をよんでのイベント

お寺のこと知りたい

実はみんなお寺のこと、もっとちゃんと知りたいはず。
今はお寺のことを教えてくれる人が少なくなったから。
逆に今はインターネットや情報社会。メディアやテクノロジーを利用して、お寺だからこそ、時代をこえていってほしい。

なぜ、そこにお寺が建ったのか
どうやって、何年に、誰が、誰のためにつくったのか?

どれぐらいかかってつくったのか?
そこにある人の紹介、像の紹介などをわかりやすく、手軽に知りたい、教えてほしい。
お寺と神社の違いとは何か?
その歴史など。

そのほかに
修行ってどう?
修行でつらかったこと
お坊さんになってよかったこと
などあまり知られてないことなど

お寺の強み、魅力

全国にある
たくさんある
建造物
歴史
仏教、文化
ネットワーク

歴史と繋がっているところ
多くのお寺が昔からそこにある＝
その土地のことを一番知ってる、
一番の地元の人である

無宗教や異教の人でも、きがるに行けるし、行事でいけること

お寺にしかできないこと

和尚の教え、説教(心が洗われる)
供養
ご先祖様との架け橋

など、まだまだあるとは思いますが、あまり知らないのだから

お寺への提案

お寺にやってもらいたいこと

お寺をもう少し昔のようにカジュアルな場所にする

お寺と神社の協力

宗派を超えたつながり

他宗教への理解しているところをアピール

ただの宗教団体ではないことをアピール

お寺を活性化することとは、忙しくなること、それをお寺の人間は十分踏まえてやってほしい。逆にそれを嬉しく思えない怠け者の人はどうかと思う。
人が来ても、忙しがらずに接して欲しい

ゴスペルの教会などは顔見知りの人たちが定期的に通い、歌って踊って祈りをささげているまるで若者がクラブへ行くような感覚に見える(本当はちがうが、やってることは一緒なきがする。。)そんなお寺があってもいいと思う

地域から個人へ	地域から世界へ	「活性化」	38才	女性
NO.103	P3	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／土地を貸す／まつり型イベント／情報発信／紹介所／寺院ネットワーク／地域ネットワーク		
				⇒ジャンルへ

お寺でこんなことをやったら、地域が活性する！ 1

子供

保育園、幼稚園、学童、小学校からの社会見学、実習の場として定期的に行くところ
社会、歴史、文化、宗教の時間
香道、着物、かるて大会、など
遊び感覚で学べる場としての利用

親子の公園デビューのような感覚でお寺デビュー

その地域で生まれた子供の命名を和尚さんにかいてもらう

大人

ほやきのコーナーを設ける
ご意見箱のようなもの
そこから和尚が毎週、毎月、披露し、それについて語り、意見を聞く
和尚は毎週、本部へ、またはネットで報告すること

サークルの集まり場
こんなサークル、集まりをつくりたいといったことの掲示板をつくる
がんばってる人の報告など
例：スポーツクラブでこんなイベントがある、したい。人数確保が必要な場合など

マナー教室
マナーや道徳についてのお説教
例：ペットブームですが、犬の糞の始末。

地域の問題を一緒に考える会
お互いに意見を出し合い
試してみる。
次の会でどういう結果や思いが芽生えたのか話し合う
日々の生活、1つ1つを意識して生活するようになる
問題ばかりに注目するのではなく、いい所はどんどん伸ばして行き、他の地域の見本になれるように、前面にだしていく

老人

集いの場所として
みんなでいろいろもってきてお茶する

将棋、囲碁の大会場所

老人ができる労働の機会の場(情報交換、求人、など、お寺が親会社として機会を考える)

小話大会
お坊さんの修行のちょっとした話、お年寄りの昔のちょっとした話、(落語やよせ話みたいな感じで)

がんばっている老人の自慢大会
がんばっている老人に聞こう！

老人が多い時代
お寺が老人がつどえる所、活動の情報交換の場になれば。
最近ではジムで元気なご老人達が生き生きと仲良く励みあって健康を維持している姿をよくみかける。
今まで一生懸命日本を支えてきた年代の人々の中で、暇をもてあましてる人も多い、ほそぼそと暮らしている人も多いと思う。
もう、何もしたくない人達はそれでいいのかもしれないが、私の目にはただ死ぬのをまっているようにしかみえない。
人それぞれ、いろいろな問題や事情があるとは思いますが、個人的にはまだまだがんばってほしい。
がんばっている老人がいるならそれをもっとサポートしてあげれるシステムをつくりたい。

お寺でこんなことをやったら、地域が活性する！ 2

地域で

これからのリサイクルやエコの中心的な場所として、寺がリサイクルの業者と地域の住民との架け橋というのが当たり前の状態になってほしい。(これからどんどんリサイクルや環境についてのビジネスが増えていく。
その中でお寺が物の大切さやなどを教えると同時に先頭にたって、日本の地域のリサイクル事情をまとめ、事業を展開する。それは地域密着型のお寺が出来ることだと思う。
さらにお寺は全国にネットワークがあるメリットがあるので、情報を提供、共有、できるので、地域の声が全国に繁栄しやすい

バザー、物々交換の場

商店街限定の出店(出店専用の店は限定で)
新商品の紹介などをかねて、宣伝、お寺に行くとお得なお店のクーポンがもらえる
お寺を通して現地特産物の宣伝(観光産業としても)

地域の団体同志の集会場として、
(町内会、自治会、商店会、政治家の事務所、など)(この会では今こんな活動をしています、商店街の売り上げが先月は赤字でしたとか、1つの団体が抱えている企画や問題などを違う団体同士で話しあい、意見交換の場としてお寺は最適な場所やポジションではないだろうか？政治で言う国会みたいな場所、でも決めるのは各自)

全国で

インターネット、メディアを通してつながる
お寺同志の情報交換、競い合い。
例：日蓮宗本部主催 かるた選手権、剣道選手権など
地方のお寺から代表出て、優勝争いする)

お寺のブログ(今日の和尚の一言とか今日のイベントの告知、感想など)
もうちょっと、地方のホームページを見やすく、わかりやすく、また各お寺がホームページに書き込みやすくてできるよう提供する

お寺ラリー
お寺スタンプ
お寺おたく(電車オタクのような感じ。(けっこういてるので、そういう人をメディアをつかって出すのもよし))
イベントを増やし、今日はここのお寺でスイカ割り大会があるから、ここの寺に行ってみようみたいなこと

世界で

交換留学生
仏教の修行を経験したい外国人、英語圏の人
仕事として英語を教えたり、英語のブログを書いてもらって世界との交流。(ただ何を書いたか英語がチェックできる人が必要)
修行もおこなってもらう

「可愛い子には旅をさせろ」プロジェクト
これから留学したい学生へのスポンサー活動や協力や教育
例：仏教信者の大学生へ1年間語学留学への夢の手伝い
逆に学生は仏教の教えを広める。その学生はお寺に留学の目的、仏教活動の企画、計画書などの提出

年齢ごとに対象を分けてお寺を舞台とした活動を提案		48才	女性
NO.104	P1	勉強会／境内・伽藍の開放／土地を貸す／相談窓口／情報発信	
			⇒ジャンルへ

現状分析

「地域社会のためのお寺の活用アイデア募集」ということは、今、お寺と地域社会が離れていることを表しています。また、悪徳坊主という言葉や金の亡者として僧侶を批判する意見も目に付きます。宗教離れが進み、無宗教者が多くなってきているのが現状です。

これらは、宗教が皆の目に触れにくくなったのが原因と思われます。お寺が伝統の上に胡坐をかいて、檀信徒や地域社会や一般の方々と共に存する努力を怠っていたような気がします。地域社会に深く溶け込んでいれば、宗教に対する無知ということもなくなり、無責任な批判を浴びることも少なくなるでしょう。深く地域に根ざしたお寺作りを考えてみました。お寺が活性化すれば、地域も活性化すると思います。

活性化と一口に言っても、お寺や僧侶や寺族の特徴を基にした考えが必要だと思います。全部が当てはまるわけではありませんが、おおよその長所としては、

寺院・敷地が広い

- ・駐車場が広い

- ・静かである

- ・建物が大きい

- ・大人数が集まることを想定した設備

- ・畳の部屋がある

僧侶・地域を知っている

- ・地域住民を知っている

- ・地域住民に知られている

- ・信頼されている或いは一目置かれている

一方、問題点としては

寺院・人口減少や過疎による檀信徒の減少

- ・檀信徒の減少による経営不振

- ・地域との接点が減り、敷居が高く感じられ閉鎖的

僧侶・多忙により留守がち

- ・後継者不足

地域とのつながりという面では、町内会等で僧侶と面識があっても、檀信徒でなければ一般住民が寺院を訪れることはあまりありません。お墓参りや法事をするだけのところという認識をまず改めてもらわなければ、人は寄ってきません。広く門戸を開いて人を集める必要があります。この「人が集まる」には、「宗教的な集い」と「それ以外の集い」があります。「宗教的な集い」とは、もちろん仏教、日蓮宗の教えを中心としたものです。「それ以外の集い」とはただ単に人が多く集まることですが、人の交流が盛んになればお寺の繁栄に繋がります。それを、年代やグループ別に方策を考えました。

年齢ごとに対象を分けてお寺を舞台とした活動を提案			48才	女性
NO.104	P2	勉強会／境内・伽藍の開放／土地を貸す／相談窓口／情報発信		
				⇒ジャンルへ

宗教的な集い①～若者、女性～

現在、将来に対する不安やストレスの多い生活から、若者や女性を中心として、癒しを求めてパワースポット体験やヒーリンググッズに頼る傾向が顕著になっています。お寺で体験修行をする人も珍しくありません。ただ、そこで終わっては無意味と考えます。日帰りや数日間の宗教的な生活を通してリフレッシュするだけでなく、日蓮宗に関わってもらわねばなりません。日蓮宗でもホームページに少し情報を載せていますが、これではアクセスする側から言えば情報不足で、ひとつひとつ探していかなければなりません。宗門で体験修行募集要項のきちんとしたマニュアルを作れば、実施を思案中のお寺は参考にできますし、情報を欲しい人にとっても、有益です。全ての寺院で統一された募集要項は無理でも、比較対象ができる情報を多く入手できます。

以下はマニュアル作成までの具体例です。

1. 体験修行を実施中のお寺の成功例や、反対に試行錯誤中の所に聞き取り調査。
2. 体験修行者にアンケートを実施
3. 委員会で検討、アドバイザー選任
4. マニュアル作成（募集の告知、設備、費用、料金、カリキュラム作成等）
5. 寺院への告知
6. 初めて実施する寺院に人的、物的支援。助言
7. 成功例に対する褒賞。

体験修行は日数によりカリキュラムが変わりますが、具体例として

1日目

900 集合。オリエンテーション
930 面談
1000 瞑想（唱題行）
1130 料理
1200 昼食、片付け
1300 写経
1430 教学の勉強
1600 読経
1700 料理
1800 夕食、片付け
1900 面談
2000 反省・感想文
2030 入浴、就寝

2日目

600 起床、洗面
630 読経
700 料理
730 朝食、片付け
830 掃除
930 面談

以降、1日目と同じ

上記の特徴は、少人数を対象とし、面談の時間を多く取っていることと、遊びの部分が少ない（レクリエーションではない）ことです。1回あたりの人数が少なく、かつ僧侶が対応する時間が長いので、経営の助けにはなりませんが、じっくりと向き合えます。こういったシンプルなカリキュラムに参加する体験修行者は大なり小なり悩みを抱いて門を叩きます。こちらからお願いして来てもらっているわけではなく、自発的に訪れるのですから、お寺としても一歩踏み込んだ対応をして、継続的に日蓮宗と関わってもらい、ゆくゆくは檀信徒になればと考えます。

反対に、自然が豊かであったり、近場に観光地があるといった、何かしら特徴のあるお寺は、レクリエーションの一環として開催できます。カリキュラムも表層的なものになると思われますが、知ってもらうこと自体が重要であり、経営上、大事なことです。

いずれの場合も、忙しいお寺では難しいと思われます。そこで、場所だけ貸して、ノウハウを知っている僧侶に全面的に委託するという方法もあります。

年齢ごとに対象を分けてお寺を舞台とした活動を提案			48才	女性
NO.104	P3	勉強会／境内・伽藍の開放／土地を貸す／相談窓口／情報発信		
				⇒ジャンルへ

宗教的な集い②～壮年までの男女～

宗務院のホームページでは、Q&A コーナーや法話などがありますが、それとは別にメールやスカイプでの悩み事相談も開設してはいかがでしょうか。宗教に関するだけでなく、人生相談に僧侶が回答を寄せます。当番弁護士の僧侶版で、担当者を各管区に作り、回答します。人選が難しいかもしれませんが、相談の内容別に専門を分けて対応すれば可能と思います。

宗教的な集い③～中高年～

日蓮宗には専任布教師と常任布教師がいます。ただ、こういった人か、内容はどうかはわかりません。布教師の紹介コーナーを作ってはいかがでしょうか。名前、写真、履歴、得意分野等の情報を、教師間で共有できれば、法話を頼む時の参考になります。

ただ、法話会の単独での開催が難しいお寺は、宗務所等に頼んで、2,3ヶ寺をまとめる必要があります。ここで重要なことは、必ずお寺で開催することです。

宗教的な集い④～一般～

宗教離れの昨今、家族が亡くなって初めてお寺（僧侶）とコンタクトする人もいます。そういった時は、葬儀社からの紹介であったり、親類・知人のクチコミなどが主な理由です。しかし、お布施が安くて済むとか、家から近いなど、あまりに安易な理由でそのお寺の檀家になるのは、一生懸命布教に努めている者にとっては、拍子抜けする状況です。もっと真剣に選んでほしいと思いますが、一方で情報が足りないというのは、こちらの落ち度かもしれません。

こういったことを踏まえて、詳細な寺院情報を宗務院のホームページに載せることを提案いたします。結婚相談所のマッチングシステムやホテル検索システムの寺院版です。既に、名前や場所、写真の情報は入手できますが、それ以上の情報が入りません。ホームページに接続して、地域を選び、写真や歴史、活動内容、僧侶のプロフィール等から勘案して、選んでもらうシステムです。現在お寺によっては、リンクしているところもありますが、もっと大規模に統一された寺院紹介が必要です。安易に檀家になって後悔されたり、名ばかりの檀家になられるより、自分で選んで檀信徒になった場合、お寺への貢献は高いと思われます。

それ以外の集い①～高齢者～

- 高齢者の特徴
- ・時間に余裕がある
 - ・長年培ってきた得意なものがある
 - ・一線の仕事から退いているため、役立っているという実感に乏しい
 - ・所属しているものが少ないと、世間との交流が少ない

が上げられます。上記の僧侶の特徴の所で住民を知っていると書きました。檀信徒が主であっても、誰がどんな仕事をしていたとか、何の免許を持っているとか、あるいはどんな家に住んでいるとか、誰と住んでいるとか、子供はどんな人と結婚したとかかなりの個人情報を持っています。住民も信頼しているからこそいろいろな話をします。それを生かして、お寺或いは地域のお知らせ（ネット含む）上に掲示板を提示してはいかがでしょうか。

ボランティア募集以外でも、町内の小さな文化センターとして掲示板で募集もできます。お寺という場所柄多くの人利用できるので、各種教室も開催できます。一般的には華道、茶道、書道、コーラス等が考えられますが、あくまで茶飲み話の延長のような雰囲気、仰々しくない形でそれぞれが得意なものを教えあうというスタイルであれば、気後れせずに参加できると思われます。その道を極めるのではなく、少しずつかじるという形にし、先週は時事問題の講座で、今週は野菜の育て方、来週は法話（時々入れる）などなど、町のそれぞれの達人による教室であればいろいろな人が責任を持って教えられ、他方受講者も飽きることもなく、また趣味の分野で新たな発見があったり、お寺に来る理由となります。地域の達人名簿を作り、交流を深められればと思います。

年齢ごとに対象を分けてお寺を舞台とした活動を提案		48才	女性
NO.104	P4	勉強会／境内・伽藍の開放／土地を貸す／相談窓口／情報発信	
			⇒ジャンルへ

それ以外の集い②～小中学生とその親～

小中学生は、お寺とほとんど縁がありません。葬式は葬儀社で、お墓は郊外の霊園だったりすると、お寺に足を踏み入れたこともないかもしれません。まずは地域の学校と掛け合って、社会や生活等の教科の中でお寺を見学させて、地域の歴史や文化について僧侶に話してもらいます。お寺の存在を認識させることが先決です。その上で、上記の掲示板に告知して、放課後の子供の勉強場所や遊び場所としてお寺を開放します。子供が参加できる伝統行事への参加を促すため、親に役割を持たせます。小さなものでいいから必ず何かの役をつけます。何もないと興味が湧かず参加しない場合もありますが、役割を与えることにより、そのなかで真面目にやりとげる特性を日本人は持っています。子供がいることにより、親が姿を見せ、親が来ると子供は引きずられて来ます。若い世代がお寺にすることが重要です。

それ以外の集い③～一般～

人が義務でもないのに行くところは、大きく分けて食べる所と買い物する所、趣味の場所です。他方、お寺は広い敷地（駐車場）があり、建物も大きい。デフレやエネルギー問題、地球環境のことも考え、節約の意識に拍車がかかっています。そこで、お寺で蚤の市を開くことを提案します。大掛かりなものではなく、周辺地域を対象にしたものです。学校でもバザーはありますが、出品内容が限られていますし、基本的に無料で提出しなければなりません。小学生の子供がいない家では関係もなくなります。

翻って高齢者の家は、長年住み続けていればいるほど、不用品や大きい家具であふれかえっています。断捨離という言葉も数年前から聞かれ、高齢者でなくても身の回りを整理して、シンプルな生活を求めています。地域のお寺で蚤の市を開くのなら、出品してもよいとかがえるのではないのでしょうか。

売り手も住民、買い手も住民です。お寺は場所を提供し、仕組みづくりをし、アドバイスします。テーマ別に開催し、例えば春は大型家具、夏は洋服、秋は手作り品、冬は贈答品など。大型家具は運ぶのが大変なので写真やサイズを表示し、興味があれば家に見に来てもらうなど近所ならではのことができます。逆に、欲しい物を提示し、買い物客に売ってもらうこともできます。具体的に提示されると家の中の死蔵品を思い出すものです。物々交換の可能性もあります。

お寺としても、飲食物は衛生法上ダメかもしれませんが、問題なければ、冬に限って、お寺の檀信徒に手伝ってもらい、火を通したもの（スープ類）やお菓子、コーヒー等を有料で提供してもいいかもしれません。敷地内での開催はトイレ使用などで電気代や水道代がかかりますので、有料無料あるいはお布施でなどは、そのお寺ごとに考えて頂ければとかがえます。

お寺づくりで地域をつなごう！		24 才	女性
NO.106	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

(1) タイトル：お寺づくりで地域をつなごう！～住民主体の日常的なお寺活用法～

概要：お寺を活用した地域活性化を「お寺づくり」と名付け、「子供」と「主婦」にターゲットを絞った、お寺づくりの提案をします。

① はじめに

コンビニよりも数が多いとされるお寺。しかし最近では、ただの“宗教施設”として認識している方が多いのではないのでしょうか？元来からお寺は“文化の発祥の地”とされ、そこでは落語や寺子屋など、さまざまな文化が誕生しました。

② 最近のお寺事情・・・

しかし、最近のお寺事情と言えば、人々のお寺離れが進んだことで多くのお寺がなくなり、生き残ったお寺も檀家離れが進んでいると聞きます。このままでは、そんな日本の心が生まれ てきた場所がなくなってしまいます。

ここからは、「お寺を地域活性化のために活用すること」を「お寺づくり」と呼び、今のお寺の現状をふまえて、どのようなお寺づくりが効果的か、考えていきます。

③ 画期的なお寺づくりでまちを元気に！

まず、なぜ若者のお寺離れや、近隣の檀家離れがすすむのでしょうか？

それは、無宗教な人が多いこと、冠婚葬祭にお寺を要さなくなったことなどがあげられますが、原因を大きくとらえると、それは「お寺と関わりがないこと」だと思います。

お寺と何か関わりがあれば、自然と人は集まります。地域コミュニティを形成するには、まず人が集まる“きっかけ”を作ることが重要です。人が集まるような仕組みを考えて、地域をつなぐ…。私は、ここでキーワードとなるのは「子供」と「専業主婦」だと考えます。

子供が関われば、その子たちの親につながり、専業主婦が関われば、地域に住む家族間のつながりができます。私はこの2つのキーワードを軸に、地域をつなぐお寺づくりを提案します。

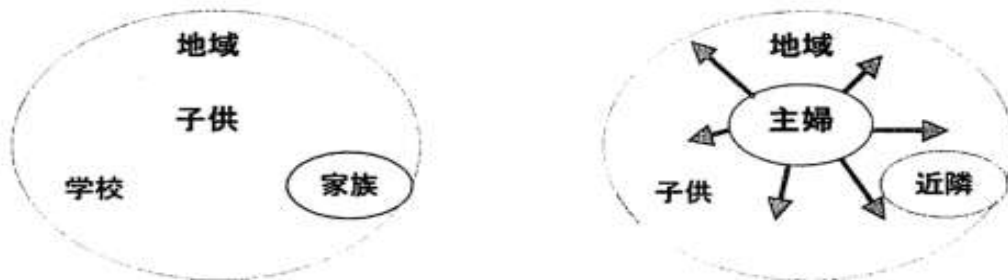
④ お寺と地域をつなぐ2つの活用法

では次に、どんな活用法があるのかを整理します。活用法としてあげられる大きな枠組は、「イベント的な活用法」と「日常的な活用法」です。「イベント的な活用」とは、月一回の行事や季節のお祭りなど、期間限定の行事に場所を提供するものです。一方「日常的な活用」とは、毎日、もしくは曜日毎など、継続的な開催を意味するものです。

イベント的な活用ですと、その時は盛り上がりますが、一時的なものになってしまうかもしれません。そこで今回は「日常的な活用法」で、お寺をコミュニティスポットとして継続的に機能させる仕組みを考えたいと思います。

⑤日常的な活用で新しいお寺の形を！

提案に入ります。私が提案するのは、“寺子屋 こども自習室” “曜日代わりの集会場” です。まず、地域と子供、地域と専業主婦、をそれぞれ結びつけると、図のような関係がわかります。



子供は地域に支えられる存在、主婦は情報を発信する存在です。

「寺子屋 こども自習室」と「曜日代わりの集会場」は、この関係を利用して機能させます。

* 寺子屋 こども自習室

法事の予定がない日は、子供たちの自習室として常に開放します。開放時間は、学校が終わった 15 時頃より 18 時半までとし、週に何度かは NPO 団体や大学生、地域の方がボランティアで勉強を教え、地域で子供を育てていきます。お寺に通う子は安全のため、名前と電話番号を登録します。何かあった時に連絡ができるようにするためです。

子供たちは、お寺の静かな場所で集中して勉強できます。家でゲームばかりしてしまう子も、ここへ来て勉強し、休憩に友達と話したり遊んだりすることもできます。現に「金縄山 実相院（天台宗）」では、寺子屋の取り組みを行っています。

またこの寺子屋は、親が家にいないカギっ子たちを危険から守ることにもつながります。しかしお寺は児童施設ではないので、「忙しい親が子を預ける」というわけでは決してありません。寺子屋は、地域で子供を育てようという共通認識のもとで、さまざまな年齢層の住民をつなぐものとして機能します。

以前父から、子供の頃お寺でお経を習っていたと聞いたことがあります。この寺子屋でも、週に何度かお経の日を作り、しつけの一環とするのもよいのではないのでしょうか？

* 癒し喫茶で曜日代わりの集会場

お寺で精進料理が楽しめる喫茶店を営業し、曜日代わりで会を開きます。最近一部の若い女性から「癒される」と評判の“寺カフェ（浄土真宗）”をヒントにしました。

喫茶店は 11 時頃より開店し、寺子屋が始まるまで営業します。またその一方で、同志で集まる場として提供し、地域のコミュニティづくりにつなげます。キーワードにあげた専業主婦は、ボランティアスタッフとして調理をしてもらいます。主婦は情報を発信する存在です。喫茶店を通して情報共有し、共に料理をして結束力を高め、地域のつながりを深めます。

喫茶店の主なターゲットは、一人暮らしのお年寄りです。家で一人食事をするのは寂しいと

お寺づくりで地域をつなごう！		24 才	女性
NO.106	P3	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

いった悩みも解消されますし、近年増加しているお年寄りの孤独死も防ぐことができます。

そして、同志が集う曜日代わりの集会場についてです。お寺とのつながりでいくと、まずお経の勉強会があげられます。読経は、心の癒しや静けさを求める女性に人気があるそうです。また最近では、子育てママ向けのイベントが増えてきています。子育てに奮闘するママたちに情報共有は欠かせず、また、それを行う場所も必要になります。下に、需要がありそうな集会の例をあげてみました。このように日中お寺がにぎわえば、まちのにぎわい、安全にもつながります。

(例)

月・・・「お寺 癒し喫茶」営業 お年寄り向けの俳句の会（お茶の会、お花の会など）
火・・・「お寺 癒し喫茶」営業 子育てママの会（子連れ向け映画鑑賞会など）
水・・・休み
木・・・「お寺 癒し喫茶」営業 （希望枠）
金・・・「お寺 癒し喫茶」営業 お経の勉強会（読経、写経、お釈迦様の教えなど）
土・・・「お寺 癒し喫茶」営業 近所の方による昔遊び寺子屋
日・・・休み

⑥まとめ

「お寺」というと、静かで堅いイメージを持たれている方が多いかもしれませんが、お寺は、人々が日本の文化を創ってきた温かい場所です。そんなお寺を元気に、それを中心に地域も元気になることを願い、私の提案とさせていただきます。

・概要

限界集落の住民がお寺に定期的集まり
「コミュニティのつながり」をかんじながら
充実した余生が送れる企画を行う。

《アイディアの詳細》**●アイディアの発端**

私は大学の卒業論文で限界集落を題材にしました。
実際に長野県松本市にある限界集落をおとずれ、
数人の方にインタビューを行いました。
独り暮らしをしている方(女性、後期高齢者)が
「昔みたいに集落のみんなで集まりたい。寂しい。」と
お話されていたのが非常に印象に残りました。

このまま寂しい寂しいと、言いながら亡くなられて
いかれる方が増えてくるのかと思うと、何かいい
方策がないものかと考えるようになりました。

ここが本アイディアの問題意識、出発点です。

●限界集落とは

過疎化が激しく進行した結果、わずかな高齢者
だけが残された集落のこと。その殆どが山間に位置し、市町村の中心
部から離れているため、生活が不便であり通常よりも危険を伴う。
昭和初期まで日本の農山村では、15戸前後の家々が生活単位
を形成していた。しかし過疎化が進行した結果、現在は2、3戸だ
けが引越しもできずに取り残されているような、集落が多数存在
しており、一般的に「限界集落」といわれる。
限界集落が抱える問題は様々ある。問題の一つに、先細る集落
で生活する住民への精神的なケアを充実させることが指摘されて
いる。

参考文献:林直樹 齊藤晋 編著『撤退の農村計画ー過疎地域
からはじまる戦略的再編』学芸出版社 2010年

●誰が、どのように困っているのか

限界集落に住む人々の問題について。
生活面ではきわめて不便な交通や、地すべり
などの自然災害に困っています。
そして精神面でも、様々な問題を抱えています。
かつて20～30人が生活していたコミュニティ
であったふるさとが、人口4、5人ほどの集落にまで
縮小しており、寂しさを強いられています。

再興～限界集落のコミュニティ力～		23 才	男性
NO.108	P2	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

●何をすればいいのか

限界集落は、一つの市町村に複数存在します。
たとえばA集落とB集落は、異なる集落であっても、
檀家寺が同じであるというような場合が多いです。
また以前まで集落同士の交流があったという事例も
少なくありません。

アイディアの方策としてはA集落とB集落の人々を、
同時にお寺に招き、昔の話を記録化したり、住職
の方と法話を交えた談笑をしたりすることを提案します。
お寺ですることは他に仏画の作成や、境内散策なども
考えられます。

農山村集落にはもともと憩いの場として公民館があります。
しかし私がみた地域ではその公民館が災害で損壊していたり、
人が集まる機会が減ってしまったがために廃墟となってい
たりするケースが見受けられました。

楽しい話や交流、大切な話し合いをするには「場」が必要です。
しかしその「場」が限界集落には欠けています。
また「集まろう」という音頭をとる方も、集落を離れている場合が
多く、ソフト面でも集まる「場」が生まれにくい状況にあります。

地域のハブであり、充実した施設を備えるお寺の「一声」が
地域のコミュニティ機能を徐々に回復させる好機となるの
ではないでしょうか。

●どのような効果があるのか

集落ではただひたすらに寂しさを感じながら歳を重ねていく
という方が減ります。またお寺も定期的に人が集まることで
法事や例祭以外でもにぎやかになります。

●意義 「なぜ高齢者なのか」「なぜ農山村の限界集落なのか」

子供や家族がたくさん集まる「明るい地域」にこそ、今後のお寺の
活路はあるかもしれません。しかし、いうなれば高齢者ばかりで
先行きが「暗い地域」などにも、宗教とくに仏教は目を向けていく
べきであると思います。逆にそのような鬱屈した雰囲気、明るく
「逆転」させることができるのは仏教にほかならないと思うのです。

また日本が経済的に著しい発展を遂げることができた背景には
農山村の存在があります。その恩恵のうえに生きる私たちは
大きな目を見た場合、農山村にも感謝をしていく必要があります。
そのような考え方も仏教に則るものである、さきほそる農山村を
尊厳ある衰退に導き、ターミナルケアを施すことが、一つのお礼
の形になると思います。

以上の2点から、私は限界集落という社会問題にお寺が関わることの
意義を見出しました。

乱文乱筆失礼いたしました。

長く、読みにくい文章ですが審査のほど、よろしくお願いします。

テラ+ママ＝地域が元気に！		35 才	女性
NO.110	P1	修行／真剣な話し合い／境内・伽藍の開放／体験型イベント	
			⇒ジャンルへ

<タイトル>

テラ+ママ＝地域が元気に！-ママは美しく、家族は元気に。お寺の地域応援プログラム-

<概要>

お寺には本来の法務だけでなく少なくとも二つの資源があります。本堂と境内という非日常的かつ魅力的な空間。そして僧侶がもつ檀家さんをはじめ様々な知恵や経験、職能をもつ地域の人々とのつながりです。その空間資源と人的資源を開いていくことで、地域に住まう人々を元気にできると考えます。その糸口は地域に住むママたち。お寺にママが関わることでその背景にあるパパや子供など家族が関わるきっかけとなります。そしてそのお寺は地域とつながる窓口。ママとお寺のパワーで日本の家族と地域を元気にしましょう。

テラ+ママ＝地域が元気に！-ママは美しく、家族は元気に。お寺の地域応援プログラム-

お寺には本来の法務だけでなく少なくとも二つの資源があります。本堂と境内という非日常的かつ魅力的な空間。そして僧侶がもつ檀家さんをはじめ様々な知恵や経験、職能をもつ地域の人々とのつながりです。その空間資源と人的資源を開いていくことで、地域に住まう人々を元気にできると考えます。その糸口は地域に住むママたち。ママがお寺に関わることで、パパや子供など家族、さらには背後にある地域もお寺と関わるきっかけが生まれます。ママはお寺と地域をつなげる窓口。ママとお寺のパワーで日本の家族と地域を元気にしましょう。

作戦その壱 ママをお寺に引っ張り出す

健美プログラム-自分の内側を見つめ心身共にリセットしよう-

東日本大震災以降、自分、家族、地域の存在やそのあり方を問い直す人が増えている中、子育て期の母親はそんな機会になかなか恵まれません。さらに核家族化がすすみ子育てに疲れても共有したり助けたりしてくれる人が身近におらず孤立感や閉塞感すら感じているのです。そこでコンビニよりたくさんあるといわれるお寺がママたちの思いを受け止める受け皿になるとすれば・・・

日頃の家事育児から解放され心身共にリセットすることで、本来の自分を取り戻しながらさらに健康に美しくなるママ。その機会と空間をお寺は提供します。

<内容>

- ① 瞑想：僧侶指導のもと座禅をくみ内なる自分を見つける
- ② ヨガ：講師を招き自分の身体と対話をしながら身体を動かす
- ③ ランチ：境内の菜園でとれた無農薬野菜を使ったマクロビオティック

マクロビオティック＝正食は、日本に古くから伝わる食養生。今「食育」として注目されている石塚左玄の考えを引き継ぎ、さらに東洋の深い知恵「易」の原理を加え、桜沢如一氏が「無双原理」として確立、世界に広めた新しい生活法です。最近海外からの密輸入で、言葉としては「マクロビオティック」として知られるようになりましたが、その根底には「玄米正食」という自然に則した食事法があります。「マクロ」は大きなとか全体的なことを意味し、「バイオ」とはいのちのことです。「ティック」は柄や字を取ります。つまり「生命（いのち）を大きな視点で捉え、自然のリズムの中で自分を生かす生活法」です。玄米はもちろん、日本でも、生活に取り入れる人が多くなってきました。（引用：正食協会HP）



←マクロビオティックランチのメニュー例

- ・ふゆ野菜がんと
- ・大根とこんにゃくのきんぴら
- ・にんじんスープ カブチーノ風
- ・しゃきしゃき有機野菜サラダ
- ・かぶらの一夜漬け
- ・厚布の佃煮
- ・もっちり玄米

（引用：Mecco Café ブログ）



作戦その貳 パパと子供をお寺に引っ張り出す

楽学保育プログラムー子供と共に学ぼうー

健美プログラムに参加するママたちだけでなく、パパや子供も参加できるプログラム。
ママがキレイになっている間に、ぼくもわたしも楽しく学ぼう！

<内容>

① 食育：植家さん等で菜園づくりの得意な人の助けを借り、境内の一部などお寺の所有する土地を菜園として活用し、保育中の子供とともに野菜やお米を育てます。また収穫した野菜やお米を使って調理を行い子供にお寺の食文化を伝えましょう。ちなみにこの食材は母親が食べるマクロビオティックランチにも使用します。この料理のレシピは地域に情報発信しましょう。

② 日本の伝統建築に触れる：普段触れることの少なくなった日本の伝統建築。その代表格であるお寺の本堂の維持管理（ほごりはらい、床掃除、障子張り、季節のしつらえ等）のお手伝いを行い、お寺と自分自身との新たなつながりを構築、再認識します。お寺、ひいては地域への愛着心を育てることにつながるでしょう。また建物や庭の維持管理を行う職人の仕事を見学したりお手伝いすることで、職人の伝統技術に触れる機会ともなります。



作戦その参 ママと家族がお寺と地域をつなげる

お祭り開催プログラムー地域とのつながりを確認しようー

健美プログラム参加を軸に家族でお寺に関わった集大成として、お祭りを開催しましょう。

<内容>

① フードフェス

食育プログラムで収穫した野菜と、その野菜を使った料理のレシピを多くの地域の人々に知ってもらいお寺の取り組みを広く知ってもらうきっかけにしましょう。

② 野外ヨガフェス

日頃お手入れのお手伝いをしているお寺の境内で野外ヨガを行います。澄み渡る空気にふれながら家族みんなでヨガを体験し家族のつながり、地域とのつながりを実感しましょう。

③ デザインフェス

地域の絆を象徴したデザインの法被や手ぬぐいなどを作成しお祭りで着用。デザインを通して新たな地域と自分との関係性を可視化しましょう。

お寺ネットワーク		24 才	男性
NO.111	P1	境内・伽藍の開放／置場提供／寺院ネットワーク	
			⇒ジャンルへ

・概要：私は、地域やコミュニティを活性化するために、お寺のつながりを再構築することを提案する。私の、お寺と共に、あるいはお寺を舞台にした地域やコミュニティを活性化するアイデアは「お寺ネットワーク」である。お寺ネットワークとは、地域社会の主体をむすび、人、財、情報などを伝達・交換する仕組みである。地域社会やお寺には様々なつながり（ネットワーク）がある。これを地域やコミュニティが活性化するために、構築、または再構築する。

お寺ネットワーク

—77.000. 無限大の組合せ—

1章 はじめに

1.1 結論と要約

私は、地域やコミュニティを活性化するために、お寺のつながりを再構築することを提案する。私の、お寺と共に、あるいはお寺を舞台にした地域やコミュニティを活性化するアイデアは「お寺ネットワーク」である。

お寺ネットワークとは、地域社会の主体をむすび、人、財、情報などを伝達・交換する仕組みである。地域社会やお寺には様々なつながり（ネットワーク）がある。これを地域やコミュニティが活性化するために、構築、または再構築する。本稿では、コミュニティと地域社会は同じ意味とし、以後地域社会で統一する。

1.2 本稿の構成

本稿は4つの章からなる。1章では、結論と要約、本稿の構成を提示する。2章では、お寺ネットワークとはなにかを説明する。3章はお寺ネットワークの具体例を6つ紹介する。4章で全体をまとめ、今後の展望を述べる。

2章 お寺ネットワーク

お寺ネットワークとは、お寺と共に、あるいはお寺を舞台にした地域社会のつながり、その仕組みである。

お寺ネットワークとは、地域社会にある「結びつけられるもの」が、「結びつけるもの」によって結びつけられているシステム¹である。「地域社会にある結びつけられるもの」の例として、人、家、企業、電話器、コンピュータなどがある。「結びつけるもの」には、伝達・交換するものと、伝達・交換されるものがある。伝達されるものの例としては、人、財、情報、通貨などがある。伝達するものの例としては、コミュニケーション手段（会話、固定電話線、光ファイバー回線）、交通手段などがある。これら「結びつけられるもの」が「結びつけるもの」によって結びつけられるのをお寺が手伝う。これがお寺ネットワークである。

人、家、企業、電話器、コンピュータなどの「結びつけられるもの」を「ノード」とする。「結びつけるもの」をリンクとする。このノードとリンクという言葉を使ってお寺ネットワークを説明すると以下のようになる。お寺ネットワークとは、地域社会にあるノードがリンクによって結びつけられているシステムである。

お寺ネットワーク		24 才	男性
NO.111	P2	境内・伽藍の開放／置場提供／寺院ネットワーク	
			⇒ジャンルへ

お寺ネットワークを構成する要素は、ノードとリンクと結び方である。ノードもリンクも例に出したもの以外にもたくさんある。これは、その地域やお寺によって異なる。結び方とは例えば、①と②である。①はノード(○, ×, △, □)をすべてリンク(=)で結ぶ方法である。②は☆を中継してノードをリンクで結ぶ方法である。このように、お寺ネットワークの要素は、ノードとリンクと結び方である。

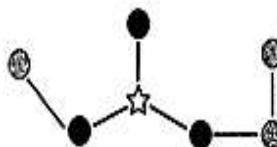


このお寺ネットワークの具体的な仕組みや、どのように地域社会を活性化するかを3章で説明する。

！本稿では、システムを仕組みや制度とする。

3章 お寺ネットワークの具体例

①寺ネット：お寺とお寺を結ぶシステム(目的は情報の共有)



●はインターネットが使えるお寺、黒線はインターネット(厳密には回線など)、◎は電話が使えるお寺、青線は電話、◎はインターネットも電話も使えないお寺、赤線は手紙や直接の会話など、☆はホームページ。このシステムではノードはお寺、リンクは情報とコミュニケーション手段である。

このようなシステムをつくれば、コミュニケーション手段により頻度や量に差はあるが、お寺間の情報の共有が可能になる。

②お寺の生活体験

お寺の生活体験とは、お寺に泊まって、お寺の生活を体験するものである。具体的な内容は、お寺と利用者によって異なる。

お寺の生活体験が地域社会に与える影響は、利用者のお寺に関する知識の増加、お寺と利用者の親交の深化、地域外の利用者の場合は観光客数の増加である。これらが地域社会を活性化しているのかは人によって認識が異なる。私の認識では、知識の増加や親交を深めることは地域社会の活性化である。

ここでのお寺ネットワークは寺ネット。地域のネットワークとお寺でつくる町ネット³である。どうしても、より多くの人に生活体験を利用してもらえるかを考える。そこで、インターネット上にある宿泊予約サイト⁴から学ぶ。寺ネットを使い、生活体験ができるお寺の情報をまとめて、ホームページなどに公開する。さらに、お寺は多くのインターネットサイトと異なり実体がある。したがって、実際のお寺からも情報発信する。このときに役立つのが地域のネットワークである。町ネットにお寺宿泊体験の情報を伝達しネットワーク内で共有してもらう。こうしてより多くの人にお寺宿泊体験を知ってもらうことが、お寺に足を運んでもらう第一歩になる。この第一歩を助けるのがお寺ネットワークである。

² 地域ネットワークとは、その地域に既存のネットワークである。例えば、子ども同士のつながり、お母さんの井戸端会議、居酒屋の顔見知りつながり、商店街の組合、自治会、学校などである。

³ 町ネットとは、寺ネットと地域のネットワークを結んだものである。

⁴ 宿泊予約サイト
楽天トラベル：<http://travel.rakuten.co.jp> じゃらんnet：<http://www.jalan.net/> など

お寺ネットワーク		24 才	男性
NO.111	P3	境内・伽藍の開放／置場提供／寺院ネットワーク	
			⇒ジャンルへ

③防災物資の管理

お寺で地域の防災物資を管理する。

お寺が防災物資の管理を行うことが地域社会に与える影響は、安心である。いざという時の備えができていて安心して暮らせる。これが地域社会を活性化しているのかは人によって認識が異なる。私の認識では、安心が増すことは地域社会の活性化である。

ここでもお寺ネットワークは寺ネットと町ネットが主役である。お寺は全国のお寺と連携を取りながら防災物資を管理する。東日本大震災で被災したお寺の経験もお寺間で共有する。また、お寺にどのような備えがあるかを町ネットを使って地域に発信する。お寺だけで物資を揃えるとなると、負担が大きい。そこで町ネットを使う。町ネットでお寺に物資を提供できる主体(個人、会社などの集団)を集う。また、自治体や行政とも連携する。このときお寺ネットワークは、お寺、地域社会の主体(個人、学校、企業、病院)、行政と大きなシステムになっている。しかし、お寺は全国に77,000ある。この数を活かし、その地域ごとの小さな問題まで把握し、その地域にあった防災計画を立てる一翼を担う。お寺ネットワークは、安心して暮らせる町づくりの基礎となる。東日本大震災の被災地には、多くの物資や人が集まった。しかし、それらを効率的に振り分けるのは困難である。全国のお寺の分布が人口と比例しているのであれば、この問題も解決できる。被災地以外のお寺で物資や人を集い計画を立て、被災地のお寺に届け、活動する。日頃のネットワークを活かし情報を共有することで、国や行政だけでは手の届かない範囲を補うことができる。

④地域のふれあい市場

お寺に市(いち)をつくる¹。参加者は地域社会の主体、交換あるいは販売する品物は主体が望むものである。地域社会の主体とは、住人や働きにきている個人、家族や学校、商店、会社、役所、お寺などの集団である。交換あるいは販売する品物は、食品、日用品、事務用品などの財、サービス、需要や供給を含む情報など任意のもの・ことである。

お寺の市が地域社会に与える影響は、地域経済の活性化、地域のコミュニケーションの活性化である。地域経済が活性化するような市の例は蚤の市(フリーマーケット)である。お寺に各々好きなものを持ち寄り、交換あるいは売買する。地域のコミュニケーションを活性化するような市の例は、体験型講座(ワークショップ)である。スポーツ、音楽、美術、インターネットなど体験し学ぶ。

ここでのお寺ネットワークは主に町ネットである。②お寺の生活体験と同様に、より多くの人にお寺に足を運んでもらうことが市を盛んにする第一歩である。地域社会で市に関する情報が共有されれば、あとは出来る限り参加者に任せる。防災物資の管理とは異なり、個人の財や趣向に関することは、環境さえ整えば自ずと発展していく。お寺は市が円滑に行えるように後方支援する。地域での情報の共有ができていれば市は比較的簡単に開くことができる。また、お寺間で市に関する事件事故などトラブルの情報を共有することで、市の質を向上させることができる。このようにお寺ネットワークは、経済やコミュニケーションを活発にするアイデアを下支えする。

¹具体的な伝達方法の例：地域の回覧板や掲示板、学校新聞や地域新聞、地域のボス的なお母さんなど

²お寺で商業活動などが禁止されている場合は、物々交換に限定したり、場所をお寺以外にする。

⑤お寺の畑

お寺に1メートル×1メートルの畑を作る。77,000あるお寺が各一つの畑を作ると、全部で77キロ×77キロの畑ができる。

お寺の畑が地域社会に与える影響は、農業に関する知識の増加、食糧自給率の上昇、地域の農作物の発見あるいは再発見である。これが地域社会を活性化しているのかは人によって認識が異なる。私の認識では、自分たちが食べるもの自分たちで作ること。その土地ならではの食べ物があることは地域社会の活性化である。

お寺ネットワーク		24 才	男性
NO.111	P4	境内・伽藍の開放／置場提供／寺院ネットワーク	
			⇒ジャンルへ

ここでのお寺ネットワークは寺ネットと町ネットさらに、寺ネットと大学などの研究機関を結ぶネットワークである。寺ネット・町ネットで畑に関する情報を共有する。情報の共有があれば地産地消に参加する人を集めることが容易になる。農業体験は、学校や障害者施設はもちろん、若い女性や第二の人生を考えている人にも人気がある。これらの利用者にお寺で農業体験ができることを伝えやすくするのが、寺ネットや町ネットである。

全部で77キロ×77キロの畑が新たにできるのだから国や地域の食糧自給率は上昇する。全てのお寺が畑を作れるわけではないが、1メートル×1メートル以上の畑を作れるお寺もある。お寺ネットワークにより、お寺間、地域とお寺の情報共有ができていれば、耕作放棄地、高齢化により畑の維持が難しい農家などの情報が手に入る。これをもとに、お寺が呼びかけ畑を維持・再生する。お寺間で情報の共有ができていれば、実験施設としても使える。例えば、全国のお寺にある畑で同時に同品種の植物を育て、その成長の変化を観察するなど大規模な実験が行える。専門知識がある大学などの研究機関と連携すれば、その土地に適した農作物の発見、あるいは再発見も容易になる。このように、ただ作るのではなく、情報を共有することでより地域社会は活性化される。その情報を共有する仕組みがお寺ネットワークである。

⑥会話の場

具体例の最後に、お寺ネットワークの最も簡単な利用方法を紹介する。それはコミュニケーションの道具として使うことである。twitter, mixi, facebookなどはインターネットを使ったコミュニケーションの道具である。これは人々が話せる場所をインターネット上で提供したものである。お寺ネットワークにはインターネットも含まれるので、同じような仕組みを作ることができる。さらに、お寺は実際に建物があるので、インターネットと現実の両方で会話をすることができる。これらを活用してもらうためには、地域限定、実名公開、茶が飲めるなどの工夫が必要である。ただ人と話せるそれだけで多くの人が集まり、賑わう。これがお寺ネットワークの最も簡単な利用法である。

4章 おわりに

以上の具体例は、情報を共有するためのお寺ネットワークである。しかし、お寺ネットワークは情報以外にも伝達(交換)できる。③防災物資の管理で紹介したように、物流のためのお寺ネットワークもある。本稿で紹介したお寺ネットワークの具体例や活用方法は、お寺ネットワークの可能性の一部である。子育て支援の拠点、障害者支援の拠点、地域の防犯対策の拠点、エイズの検査場、限界集落の冠婚葬祭の主体、寺子屋、ただボーっとできる場所など、よりよいお寺ネットワークのかたちや活用法をお寺と地域の人で考えてもらいたい。おそらく、お寺ネットワークは本コンペに集まるアイデアの基礎にもなる。多くのアイデアは情報網があれば、より地域社会を活性化することができるだろう。

お寺ネットワークとは、お寺と共に、あるいはお寺を舞台にした地域社会のつながりである。何も新しくない。ただ、今あるものを、今使えるもので結ぶ、それだけである。インターネット、電話、さらには車さえ無かった時代からお寺も地域社会も「つながり」もあった。それを今更と思うかもしれない。しかし、現代に溢れる便利なものを用いてもう一度、地域のつながりを考えてみる。私とお坊さんがお寺で挨拶をした。これもお寺ネットワークである。お寺のホームページに海外からのアクセスがあった。これもお寺ネットワークである。お寺ネットワークとは縁の束とも、絆の集まりとも取れる。つながりたいという思いに応えるのもお寺ネットワークである。

お寺パーク DE 子どもフェスティバル		56 才	女性
NO.112	P1	修行／境内・伽藍の開放／まつり型イベント	
			⇒ジャンルへ

内容

四国出身のわたし。子どもの頃、村に1軒のお寺があり、そこが子どもたちの遊び場のひとつでした。毎日のようにお寺に出かけ、日が暮れるまで境内や庭で遊んでおりましたから、お寺はとても身近な存在でした。

大人になると観光地のお寺にくらいしか行かなくなりましたが、コンビニ以上にたくさんあるとのこと。確かにありますが、東京に出てきてから、お寺はあまり身近ではありません。そこでお寺でできることを考えてみました。大きく2つあると思います。

1、自分を見つめること

座禅や写経は、ある意味、一般人にとっては非日常です。オン、オフを切り替えるように日常では味わえない非日常を体験をすることで、心身をよみがえらせることができます。体験の際、料金をいただくことで、お寺の活性化にもつながると思います。

2、広い場所を利用して、みんなが交流すること。

地域やコミュニティの活性化を考えるなら、やはりみんなが集まり交流できるイベントでしょう。なんといってもお寺には広いスペースがあります。でも節分の豆まきには、人は集まりますが、交流はさほど生まれません。これではコミュニティの目的が果たせません。

わたしは昔の自分を思い出してみました。

お寺で何して遊んだか？

- ・ケンパ（チョークはお寺の白壁、石はお寺の瓦）
- ・ダルマさんがころんだ
- ・ゴム飛び
- ・色水（おしろい花があつて、それを水に溶かして色を出す）
- ・かくれんぼ
- ・ボール投げ（お寺の屋根に投げあげて、落ちてきたのを受け取る）

そんな感じ・・・。

昔は子どもだけで遊んだのですが、今の子どもは大人とか教えてくれる人がいないと、うまく遊べなさそう。

そこで、**地域の活性化を考えて**

遊びのワークショップをお寺でやろう！っていうのがアイデアです。

お寺パーク DE 子どもフェスティバル		56 才	女性
NO.112	P2	修行／境内・伽藍の開放／まつり型イベント	
			⇒ジャンルへ

ワークショップの内容は

- ・ケンパ
- ・だるまさんがころんだ
- ・ゴム飛び
- ・凧揚げ
- ・コマ
- ・折り紙
- ・竹馬 etc

以上のような昔の遊びを、境内にテントなど張って、学生のお兄さんやパパ、ママが先生となって子どもたちに教えながら遊びます。

スタンプラリーのやり方で、できるだけいろいろな遊びを体験するのが目的。

昔の遊びだけでなく、お祭りのお囃子や太鼓、大道芸、手品などボランティアで出演していただける方にご協力いただき、イベントとして盛り上げたい。

お寺の活性化のために資金集め

お寺もいろいろ。裕福なお寺もあれば、そうでないお寺も多いのです。やはり資金集めは欠かせません。一日遊べるので、参加費をいただきます。子どもも大人も一人300円。おなかもすくので出店OK。ただし出店の場所代として1日2000円。といった形で料金をいただきお寺に寄付。

イベントの回数

月に1回、日曜日

第〇日曜日は、いつもやってるという定着化が必要です。

わらしべフリーマーケット		35 才	女性
NO.113	P1	土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

<コンセプト>

寺院を拠点にして「ご縁」を結ぶフリーマーケットを行う。

物々・サービス交換を奨励し、金銭だけを介すのではない「交換」を通して、日頃なじんでいる価値観を見直すとともに、地域の人と人の縁を楽しみながら広げていく。

<概要>

全国の寺院で一種のフリーマーケットを行います。フリーマーケットや骨董市といった催しは様々な寺院で開かれています。が、「わらしべフリーマーケット」が一般のフリーマーケットと異なるのは、参加者が「物々交換」や「サービスの交換」を通して、全員出品者となり、また購入者となる点です。

このマーケットに参加する人は、まず、自分が交換できる価値＝「交換財」を最低ひとつ提供します。一般的な古着や雑貨などの出品も可能ですが、物に限らず、様々な「サービス」も出品できます。たとえば、「買った荷物を運ぶ」「肩たたき」「話し相手になる」「体験談を語る」など、自分の提供できることを申請します。

参加者は、自分の交換財を他のサービスや物をもつ参加者と交渉して交換することができます。金銭も交換財の“一つ”と考えてもいいでしょう。

交換したサービスや物を生かして、「わらしべ長者」のようにさらに次々に交換していくことができ、最終的に自分のもっていた価値がどんなものになるのかを楽しむことができます。

たとえば、子どもが「話し相手になる」という価値を、手作りのおにぎりを出品しているおばあさんのおにぎりと交換したり、そのおにぎりで古着を1着買うことができるかもしれません。

また、イベントを盛り上げる仕掛けとして、「わらしべ長者」コンテストを行います。最初の自分がもっていた価値が、最終的に何に交換されたのかを発表し、もっともユニークなもの、意外なもの、夢のふくらむもの、などを皆で共有します。このマーケットでの交換が縁で、友達や結婚相手を手に入れました、なんていうこともあるかもしれません。

金銭ですべての価値を交換するのではなく、人と人が出会い、お互いの持つ価値をお互いが納得し合いながら交換することで、自分たちの価値、財産がなんなのか見直すことにもつながります。

そして、大規模なフリーマーケットを大きな見本市や商店街で行うのではなく、ひとつひとつの寺院は広くなくても、全国の寺院で一斉に行うことで、インパクトが生まれます。

地域に根ざしている寺院を拠点として「ご縁」を結んでもらい、地域の、そして日本の元気のもとになることを期待します。

街の寺子屋		20 才	女性
NO.117	P1	交流が目的の会	
			⇒ジャンルへ

現代社会において、「お寺」や「お坊さん」という存在が徐々に必要とされなくなってきている。私達が「お坊さん」に会うときと言えば、お葬式の時などにお経お唱えてもらうくらいの関係だと感じる。その印象というのは、人々の心がお寺から離れていってしまっていることの現れだろう。

『「お寺」をより身近に。昔のような、人と人との縁を結ぶ役割を持たせたい。』

『街の寺子屋』

コンセプト 子ども達の秘密基地として現代版の寺子屋を復活させよう

ターゲット 小学生（及び、その両親）

お寺を子ども達の秘密基地として、現代風の寺子屋を復活。毎週土曜日にお寺を子どもたちに解放し、境内で缶蹴りや鬼ごっこ、秘密基地作りなどのワークショップを行う。「ただ勉強を学ぶ」ではなく、現代の子どもがなかなか触れること・体験することのできない自然の中での遊び方や自然に触れることでの命との向き合い方を学べる環境を作ることを目指す。講師として、住職さんも勿論だが、地域のおじいちゃん・おばあちゃんを招待し、昔ながらの遊びなど教えてもらえるような仕組み作りを行う。

これを行うことにより、小さい頃から『お寺』という場所を身近に感じてもらうことができる考える。また、ターゲットが子どもということで、その繋がりから子ども達の両親もお寺との関わる機会を作ることができると共に、講師として地域住民に参加してもらうことにより『お寺』を中心としたコミュニティーを復活できるのではないだろうか考える。

PR

小学生向け：小学校に DM を送る

講師の募集：図書館、公民館で募集

お化けの絵画コンクールと肝だめし大会		45才	女性
NO.120	P1	展示会	
			⇒ジャンルへ

お寺の活用アイデアとして「お化けの絵画コンクールと肝だめし大会」を提案します。

お化けなどの絵画は、血を描いたりグロテスクであったりして、タブーという考えの方もいるかもしれませんが、見えないところで描くのではなく、堂々と公にするので返って教育上良いと思います。何より子ども達は、お化けの絵を描くのが大好きです。楽しんで恐ろしいお化けを描いてくれることでしょう。

絵画コンクールと肝だめし大会を同時開催することで、地域住民がたくさんお寺に訪れ、良いコミュニケーションの場となります。

このようなイベントがあれば、私は是非参加したいし、子ども達も心待ちにすること間違い無いと思います。

絵画コンクール概要

1. 地域の小学校に呼びかけ、お化け、妖怪、ゾンビ等の絵画を募集します。
2. 審査はお坊さん、小学校の先生、地域の自活会の役員さんなどが担当します。
3. 優秀な作品は、肝だめし大会当日お寺に展示すると同時に、出品者の表彰式も行います。
4. 賞品は「妖怪図鑑」などが良いと思います。

お化けの絵画コンクールと肝だめし大会			45 才	女性
NO.120	P2	展示会		
				⇒ジャンルへ

肝だめし大会概要

1. 大掛かりな仕掛けをせず、夜のお寺そのままを味わってもらいます。
2. 運営は地域住民のボランティアを募集します。
子どもが楽しめる場ということで、手を貸す住民もいると思います。
5. 参加費は百円前後とし、そのお金はボランティアさんへのお茶代、
他必要経費に充てます。
6. 毎年夏休みの恒例行事とし、地域住民が夏祭りとともに、楽しみにする
行事を目指します。

スケジュール

- ・1～2 月 行政の協力も得て、地域のコミュニティー紙やお知らせに掲載内、
並びに運営のお手伝いボランティア募集の記事を掲載してもらう。
- ・3～4 月 運営メンバーの顔合わせとスケジュールの確認を行う。
- ・5～6 月 小学校に主旨を説明し、絵画コンクールへの参加を呼び掛ける。
園工の時間を利用しお化けの絵画を描いてもらう。
- ・7 月 出品された絵画の審査を行う。
- ・8 月中旬 「お化けの絵画コンクールと肝だめし大会 at〇〇寺」
- ・8月下旬 反省会を行い、決年度に繋げる。

内容

- ・境内や本堂で終日お化けの絵画コンクール入選作品を展示する。
- ・本堂で優秀作品の表彰式を行う。
- ・日没前後から肝だめし大会を開催する。
- ・肝だめし参加者は、受付で参加費を払う。
- ・二人一組となり(安全の為)、決められたルートで境内を一周する。
- ・途中、おふだを取ってくるなど簡単な課題をこなす。
- ・課題を達成した参加者に、「勇者証明書」を授与する。

お寺の活性化の可能性		不明	男性
NO.125	P1	境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化／相談窓口／本格経営／キャラもの／情報発信／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

現状

お寺の規模は様々ですが、ある程度の大きさの敷地があって周りは塀に囲まれていて、門を入ると本堂らしき瓦屋根が見え、参道の左右にはお墓があり、あまり手入れが行き届いていない庭が広がっているというのがごく一般的なお寺の作りといえるでしょう。少し奥には庫裡があってガレージから車が覗いていたり洗濯物が見えたりします。さらに「信徒会館」などという名前のついた、お金のかかった感じの新しい建物が建っていたりします。しかし、家のお墓でもない限りそのお寺をわざわざ訪ねることはまずないでしょう。訪ねるのは、知人の葬儀がたまたまそこで執り行われたときだけになるはずです。

お寺の施設もその運営も我々の日常生活からはかなり離れたところに漂っています。

施設

お寺は建築基準法では、建築物の用途の区分コード番号 08160、「神社、寺院、教会その他これらに類するもの」として扱われていて、避難設備や防火設備や消防設備を基準通り備え、都市計画法による規制を満たせば建築が可能になります。しかし、例えば本堂の設計上の使用人数を 200 としても実際にそれだけの人が集まるのは年に数えるほどで、「伽藍堂」にそれだけの消防設備が本当に必要なのかと不思議になるほどです。お寺をもっと活用してもらうためにはお寺はもっと多目的化しなければならないというわけで、いわゆる「多目的室」を準備しても実際はごく限られた檀家の方がたまに利用する程度になりがちです。

多目的化を探るためにお寺という施設に合いそうな建物を建築物の用途の区分から順に見ていくと、「一戸建ての住宅」はすでに庫裡がありますから実現しているといえます。「長屋」、「共同住宅」、「寄宿舍」、「下宿」、これらは僧坊という形で過去には一般的であったといえるでしょう。現在ではお寺の「アパート経営」ということになるでしょう。少子化のいま、「幼稚園」からはお寺は撤退しつつあります。「小学校」から「各種学校」までの教育機関は各宗派として取り組んでいます、個々のお寺としては難しいでしょう。「図書館その他これに類するもの」はお寺の所蔵または死蔵図書を気軽に閲覧できるようにするなどしてすぐにできそうです。さらに「博物館その他これに類するもの」もたとえ文化財に値しないお仏像であっても縁起などを丁寧に説明すれば魅力のあるものになるのではないのでしょうか。「老人ホーム、身体障害者福祉ホームその他これに類するもの」は宗教的に是非取り組みたい施設ですが、現実の管理業務まではとても手が回らないので敷地の一部を提供するというような方法になりそうです。ただ、定期的にお年寄りや障害者を訪問してお話しをすることはできそうです。「保育所その他これに類するもの」も幼稚園と似てはい

お寺の活性化の可能性		不明	男性
NO.125	P2	境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化／相談窓口／本格経営／キャラもの／情報発信／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

ますが、働く女性のためにこれからいっそう需要が増え、法規制上の問題が整理できればお寺が取り組みやすく直接社会貢献できる施設といえます。「児童福祉施設等」も境内にはそのまま作りにくいですが、お寺の存在理由を高めることにはつながりそうです。「公衆浴場（個室付浴場業に係る公衆浴場を除く）」は、例えば境内に温泉が湧いたりすればもっとも有効なコミュニティー形成のツールになります。「診療所」も「病院」も直接は手をだせませんし、縁起が悪いと言われがちですがホスピスを見舞うなどしてお寺の活動範囲を広げることはできます。「公衆便所、休憩所又は路線バスの停留所の上屋」はどうでしょうか。観光寺には付き物です。「体育館又はスポーツの練習場」は、サッカーグラウンドは無理でしょうが、ちょっとした平らな芝生を提供するだけでも子供たちがボール持って遊びに来るのではないのでしょうか。（日本ではサッカーは泥土の上でやるらしい、と言われていいますから。）「ホテル又は旅館」は宿坊としては馴染みが深いですが小さなお寺でも「ペンション」程度はできそうです。朽ちそうな山寺の冷え切った部屋で一晩過ごすのもおつなものでしょう。「日用品の販売を主たる目的とする店舗」はおみやげやお守りやお札を売れるお寺にはすでにありますが、これから名物を作るのでは不自然です。それでもちょっとしたお寺グッズを用意すると「普通の人々」がお寺に行くきっかけになるはずです。「飲食店」「食堂又は喫茶店」は、企画次第ではかなり成功しそうです。精進料理だけでは競争力はありませんが、スイーツも用意して、ゆったりとした落ち着いた空間に「日蓮文集」などがさりげなく置いてあれば忙しいサラリーマンでも週末など偶然手に取って自分の日常を振り返るきっかけになるはず。そのほかの店舗類では、馴染み易いのは本屋ぐらいでしょう。自家販売の豆腐なども「お寺お寺し過ぎる」とはいえ座りがいいもののひとつでしょう。「学習塾、華道教室、囲碁教室その他これに類する施設」はすぐにでもできそうです。機能的かつおしゃれなモダンジャパニーズのスタイルで小さな庭と小さな建物を提供すれば裏原宿にも負けない集客力がありそうです。華やかな青山、表参道、原宿にも行き場のない人はかなりいるのです。行き場のない人が行き倒れにならない場を提供するのは店舗企画業者ではなくて本来お寺であるはず。す。

さて、「映画スタジオ又はテレビスタジオ」は一見唐突ですがその地域だけをカバーするFM局を立ち上げるのはその気になればできそうですし発信能力は抜群です。当然その局のサイトも立ち上げて寂しい少年少女に自殺を思いとどまらせることもできます。「自動車車庫」はもうすでにお寺のトレードマークです。企画力がなくても土地さえあればできるたんなる収益事業です。「自転車駐車場」はパークアンドライドが進めば駅近のお寺であれば人が立ち寄ってくれるきっかけにはなりそうです。またこどもの自転車の練習場に境内を使わせるくらいの度量はほしいものです。「倉庫業を営まない倉庫」も土地さえあればすぐにできますが何も生まないでしょう。「劇場、映画館又は演芸場」はすでに昨今のお寺の定番となりつつあります。本堂などでコンサートや寄席や社会派ドキュメンタリー映画会を開催するのがはやっていますが、本格的なプロを呼ぶような興業は税制上の問題もあって難しいのでどうしても発表会のようなレベルに成りがちで観客層の広がりにはつながりに

お寺の活性化の可能性		不明	男性
NO.125	P3	境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化／相談窓口／本格経営／キャラもの／情報発信／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

くいようです。「公会堂又は集会場」はまさに本来のお寺の機能でしょう。ただすでになんと本格的な設備を備えた公共あるいは民間の施設が十二分にある時代では普通のお寺ではそれに対抗できる施設で勝負はできません。対抗できるのはその中身で、法話のレベルや討論会の企画ということになるでしょう。「展示場」は比較的大きな空間のあるお寺としては内容によってはその場を貸して、例えば仏具展などを催してもいいのではないのでしょうか。

「ダンスホール」も無理がありそうですが、ソーシャルダンスを練習できるホールはそんなに多くはないのでフローリングの床が無駄に広がっているようでしたら貸してもいいのではないのでしょうか。「火葬場又はと畜場、汚物処理場、ごみ焼却場その他の施設」については、まずはこのカテゴリー分けに愕然とせざるを得ないとともに建築基準法の教養のなさに呆れる他はないのではないのでしょうか。お寺に火葬場が併設されていること自体は自然ではあるかもしれませんが普通のお寺が自前で火葬場を持つことはまずはないでしょう。

ところで、お寺の多目的化によって実現されるはずだと考えられているコミュニティーとは一体何なのでしょう？

コミュニティー

コミュニティーという外来語が何を意味するのかを理解するのは容易ではないようですが、何か共通の課題や作業や時間を持つことによって仲間意識が生まれて共同社会が形成されていくことをどうやら意味しているようです。具体的にはスポーツ、趣味、芸能、お祭り、学校、生産活動（工場など）、一緒にお買い物、一緒に旅行、一緒に宴会などがそのきっかけになるのではないのでしょうか。簡単にいえばお金や地位にしばられて損得勘定で成り立つ社会とは別の共同体（Gemeinde）ということになるのでしょうか。この 21 世紀に損得勘定以外の集まりが可能なのか疑問ではありますがリタイアすると突然、利益社会（Gesellschaft）から切り離されて行き場のない老人になる人が増えています。それだけ見ても何らかのコミュニティーすなわちゲマインデ（Gemeinde）が求められているようですが果たしてそれをお寺が多少でも提供できるのでしょうか。

Gemeinde というドイツ語は、カタカナ日本語のコミュニティーに相当するだけでなく、とりも直さず教会の信徒の集まりのことにほかなりません。日本でいえば従来の檀家のことです。信徒あるいは檀家は利益社会から離れて共同体（Gemeinde）を形成しそれが教会やお寺を支えているということです。したがってお寺が檀家で成り立っている以上、鼻からそこにコミュニティーすなわちゲマインデ（Gemeinde）が成立していなければならないのです。にもかかわらずお寺にコミュニティーがない、すなわちゲマインデがない、それは檀家がないということです。檀家がいても檀家だけの仲間意識で固まってしまって「普通のひと」と気軽にコミュニティーが持てない村社会になっているようです。ですから「檀家の力で建てた会館」は「普通の人」にただで使わせるわけにはいかないというような意見がまかり通るのです。そこにはすでに利益社会が垣間見えています。

Gemeinde の発祥の地、ドイツではどんな様子なのでしょう？

お寺の活性化の可能性		不明	男性
NO.125	P4	境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化／相談窓口／本格経営／キャラもの／情報発信／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

隣の芝生

ドイツのごく一般的なプロテスタントの教会は街や村の比較的真ん中に他の建物にごくなじんで自然に建っています。お寺では本堂の前の底の下まではいけませんが気軽にずかずかと内部にはいつてはいけないとされています。教会にはふつう塀はなく昼間は扉に鍵はかかっておらずいつでも中に入れます。キリスト像を盗んでいく族はそうはいないようです。回廊などがない小さな教会では建物はその教会堂それっきりです。牧師の住む牧師館はふつう道路を挟んで反対側のごく近くに建っています。それとは別に信徒会館(Gemeindehaus ゲマインデハウス、カタカナ英語ではコミュニティーホール)が近くにあります。これは信徒(檀家)が中心となって様々な宗教活動を行うごく質素な建物です。そこには受付と事務所を兼ねたような部屋とクローゼット、集会室、図書室、いくつかの小部屋、地下に倉庫やトイレが備えられています。簡単な宿泊も可能です。牧師館が近くにない場合にはそこにお悩み相談の部屋があります。誰にも言えない悩み事や繰り言を、アポをとってから牧師に相談しに行くのです。牧師は必要な場合には精神科医を紹介し、警察や弁護士や市の福祉係などに連絡します。牧師には当然守秘義務があります。

信徒会館を切り盛りするのはだいたいご近所のご婦人方です。若者の教会離れは著しくてゲマインデはどこも老人会と化しています。70年代には若者を呼び寄せるために教会ロックコンサートが盛んに開かれましたが、それはとてもクールとは言えないレベルの音楽だったので特効薬にはなりませんでした。信者の減った教会は文化センターなどに改装されています。

墓地は教会に併設されている場合もありますがだいたいは市立の共同墓地でいずれにせよ墓地の管理は牧師の仕事ではありません。牧師の仕事は埋葬までです。したがって墓地からの収入はありません。教会は教会税と寄付金によって運営されています。牧師は教区から派遣されてくる一種の公務員で、新任にあたってはゲマインデによる面接があります。ゲマインデが牧師を選ぶのです。牧師の人柄も大事ですが、説教の内容が大きな決め手のようです。聖書の一節を引用しながらヴィヴィッドな政治問題や人権問題をとりあげて論じるような説教が多いようです。例えばもうすでに50人以上もの兵が亡くなったアフガニスタンでのドイツの軍事活動をどう考えるかというような差し迫った話題です。

個人経営商店のお寺とはまったく違って牧師は経営について頭を悩ます必要はありません。ただこの教会離れを止めたいとは思うでしょうが、当然ながら基本的には個々人の問題であって宗教者が直接左右できるものではないことは明らかです。それでも少なくとも結婚式、洗礼式、堅信礼式、復活祭、クリスマス、葬式には教会は欠かせません。また、もともと教会には音楽は付き物です。パイプオルガンが鳴り響いてゲマインデのコーラスが歌えば教会はすぐにコンサートホールに変わります。管弦楽や子供たちの聖楽隊などの演奏会が開かれることも多いので教会まで足を運ぶ機会はお寺に比べると多いようです。ゲマインデの総代には地域の有力者がつくことが多く教会の維持に尽力している様子はお

お寺の活性化の可能性		不明	男性
NO.125	P5	境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化／相談窓口／本格経営／キャラもの／情報発信／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

寺と同じでしょう。

イスラム諸国ではまだ宗教の影響力が強くて日常を支配しているように見えますがその中でも最も近代化に成功しつつあるトルコの大都会イスタンブールでは金曜ごとにモスクに行く若者は減ってきています。観光モスク以外のこじんまりしたモスクもふつういつでも扉はあいていて好きな時にお祈りができます。大きな音の掃除機でじゅうたんを掃除中でも気軽に入れるのです。

東部の田舎からドイツに出稼ぎに来ているトルコ人たちはおしなべて信心深く宗教に寛容な政策をとっているドイツにはモスクがかなり建ちはじめています。それには驚くほどの寄付金が集まるのです。信者減少に苦しむ教会から見たらうらやましい限りでしょう。外国人労働者としての悲哀を共有する彼らにはまさにコミュニティが必要です。言語、モラル、食事、娯楽など日常の広い範囲にわたってゲマインデを形成します。ドイツのモスクの中には一階がトルコ食品のスーパー、二階がモスクという建物もあるくらいです。それはトルコ人の団結を強めますが、あくまでドイツ人社会とは統合していかないという意味表明にもなります。そうであればただ金を稼ぐためにドイツに留まっていってほしくないという感情がドイツ人たちの間に生まれるのも自然です。しかしそうしたゲマインデに固執しないで個人として自立して生きていく二世や三世のなかにはすでにドイツ社会で重要な地位をしめているひとたくさんいます。彼らはむしろ利益社会でのびのびと育っていくのです。

精神性

ところがその利益社会で成功してもあるいは思い通りにいかなくても、いずれにせよ人は非物質的なものになんらかの価値を見出しているようです。インドの不可解な臭いやダライラマの意外な現実主義やタイの小乗仏教に魅力を感じる人だけでなく、アユールヴェーダやヨガに頼ろうとする健康オタクや環境問題や自然保護活動に身を投じる人などにもスピリチュアルなものに価値を置こうとする姿勢があります。

やはりお寺はこのスピリチュアルなものに価値を置こうとする姿勢に答えていくことをおろそかにしては存続する意味がないのではないのでしょうか？

資金があればお寺はいくらでも施設を充実できます。飲食店、物販店、音楽ホール、ホテル、貸事務所、ブティック、スタジオ、バー、シネコンなどの一大複合商業施設のなかに申し訳程度のご本堂を残して経営基盤を強化することもできますが、それはもうすでにお寺ではないでしょう。かつて建築は宗教建築と世俗建築の二つに大きく区分されていて施設自体の規模や魅力度は圧倒的に宗教建築が勝っていました。宗教は施設自体の魅力で人を呼ぶことができましたし、そこにはディズニーランドにも劣らない仕掛けがあって一日ゆっくり楽しめたのです。現生のご利益を約束してくれるお札やお守りは一年しか効き目はありませんよ、といわれればどうしてもリピーターが増える道理だったのです。お参りといえば物見遊山を兼ねた一大娯楽でした。いまのお寺がまたこのような複合施設とし

お寺の活性化の可能性		不明	男性
NO.125	P6	境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化／相談窓口／本格経営／キャラもの／情報発信／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

て民間の世俗建築に対抗できる娯楽を提供できる環境にあるとは到底いえません。

そこで残るは当たり前ながら日々の地道な布教活動だけになります。とはいえこのままではジリ貧は目に見えていますからいくつかの改善策が必要です。

ともかくお寺に立ち寄ってもらうためにお寺が何をやっているかを伝えるホームページの充実は最低限必要でしょう。基本的にはメールでほとんどすべてのやり取りができるようにしてお寺への要望なども簡単にメールで送れる双方向システムとし、住職や世話人の顔写真、意見などもたくさん入れてまずは敷居を低くしておく必要があるでしょう。

たとえお寺に立ち寄っても本堂の軒先くらいまでしか入れないような施設ではちょっと雨でも降れば誰も行きません。気軽に入れるロビーのような空間が必要です。入ろうかどうかと迷わせるような豪華な造りではなくて散歩の途中に休憩するようなおしゃれなカフェや甘味処といった感じでしょうか。もちろん施錠などされていなくて、土足のまま入ってそこからまた扉を開けて出ていけば釈迦堂や祖師堂に向かえるお寺のエントランス空間です。そこにいきなり住職がでてきても構えてしまいますから、だれもいなくていいのです。身延ではあまりに気軽にどんどん奥まで自由に入っていきますから、かえってこんな管理でいいのかなと不安に思えるくらいですが、なんだかほっとして、また来てみようかと思わせる雰囲気があります。教会でもモスクでも基本的には施錠されていない内部空間が用意されています。できれば釈迦堂にも祖師堂にも入れるようにしてせめて外陣からでもお像を近くで眺められるようにしたいものです。軒先で追い返すのはお寺だけです。

檀家制度で経営していく以上、墓地はお寺の生命線ですから古い墓地を整理したり新しい区画を作ったりして販売し新しい檀家を増やしていく作業を厭うわけにはいきません。その際できればただ単に空いているところを墓石で埋めていくようなレイアウトにするのではなく、なんらかの軸線を基準にするなり、ところどころベンチを設けるなり、水屋をデザインするなりして、墓地自身にほっとする空間を作り上げたいものです。郊外の公園墓地はきれいですがまったく宗教性が感じられません。寺墓地はやはり歴史と精神性を感じられるとともに、お水とお花とお線香をあげたらそそくさと退散したくなるような場所ではなく、しばらくじっと想いを巡らせられるような雰囲気になりたいものです。それだけでも「普通の人」はもう少し頻繁にお寺を訪れるはずです。

たまには住職の話でも聞いてみようと思ってもまとまった法話が聞けるのが平日の昼間だったり早朝のお勤めのときだったりして普通の人には到底スケジュールの調整は不可能です。日曜日は法事などで稼ぎ時ですから普通の人相手の相手をしている暇はないようです。これに比べてもともと日曜日という制度を決めたキリスト教はこの日を有効に使って、もうあまり人が集まらないとはいえ毎週必ず説教を行うわけですから普通の人にとってずっと楽なスケジュールを提供しています。時間の有り余っている年金生活者のスケジュールではなく、一般勤労者にも配慮したイベントの提供が必要です。例えば毎週末に瞑想の時間を提供したり、お教を聞く会などを開けば少なからず人は集まりそうです。就業時間の短いドイツでは夕方の6時くらいから2時間ほどいろいろなシンポジウムなどを企画し

お寺の活性化の可能性		不明	男性
NO.125	P7	境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化／相談窓口／本格経営／キャラもの／情報発信／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

て討論の機会を作っています。ちょっとしたサンドイッチとミネラルウォーターくらいでよく仕事の後に集まれるなと思いますがこれがコミュニティを生んでいくのです。

たとえ古臭い言葉で書いてあっても聖書は読めば何かが書いてあるかわかりますが、お教はそのままでは理解不能です。現代語訳なら当然わかるのですが普段耳にしている響きとは似ても似つかないので応用が利かないのです。そしてその内容が簡単すぎてあまり有難味を感じられなくなります。漢文の読み下しくらいがちょうどいい重みでしょうか。仏教に興味を持っている人は実際たくさんいます。皆密かに一人で本を読みながらそれなりに考えていますが今一歩進んでもっと深く知りたいと思っても尋ねる相手がいないのです。教えられて学んで考えるのが仏教ではなく実践そのものだなどといわれても普段の日常でそんな時間はありません。お寺にいても住職は頼りになりそうにもないか、恐れ多くてつまらない質問をしにくいと思うほど愛想がなかったりして結局適当なところでお茶を濁している人は多いのではないのでしょうか。各自のレベルと興味に応じた仏教講座をおしゃれに展開すれば相当のひとが集まるはずです。

住職に魅力があって熱心に活動していればそのお寺には地域の人が集まりコミュニティが生まれて Gemeinde（檀家）は盛んになるという、なんの変哲もない結論に至ることになりました。

子供相談箱 おみくじ券 宝探し キャンプ 豆まき		不明	男性
NO.126 NO.129	P1	相談窓口／スタンプラリー／体験型イベント／芸能人／ボランティア支援	
			⇒ジャンルへ

○子供たちを笑顔にするために子供相談箱を設置。

相談したい子供が相談用紙に悩み等を書いてお坊さんがその用紙に返答を書いて掲示板に張りつけ回答するという物です。相談者は個人情報もあるので相性とか偽名で書けば掲示板に返答があれば本人だけ分かります。いたずらで書かれないように相談用紙は目の届くところにおいて相談者が確実に子供か判断します。

恋の悩みとかおもちゃを買ってもらえないとかほのぼのしてかわかい相談も来て返答するお坊さんもほのぼのしてかわかい繋がりが出来るかもしれません。お坊さんのお言葉は大人でもありがたいものですので子供にはさらにありがたいものになるはずです。

もし、いじめ等、深い内容の物があれば相談者に直に話を聞いたり家族、学校への対応を依頼したり出来ると思います。

○子供たちがお寺をレジ袋一枚分のゴミを掃除するとおみくじ券がもらえる。

おみくじも子供のお小遣いにしてはそれなりにするので。

○お寺で宝探し。

お寺の歴史をヒントにお宝にありつく。お寺の歴史の勉強に自然になります。

○お寺でキャンプ。

宿泊所はあると思いますがあえてテントをはってキャンプ。お坊さんによる怖い話を聞いた後、恐怖肝試しとか境内でプロジェクターを使ってアニメ観賞会とか企画はいろいろ考えられます。都会のお寺とか住宅街のお寺とか普段キャンプ出来ない場所でのキャンプは面白そうです。

○豆まき券。有名人と一緒に豆まきと記念撮影。ミーハーなのでこれが一番したいです。

(要望)		45 才	男性
NO.133	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

私も暮らしの真ん中にお寺がある。そんな時代に生きたいと思ったことがありました。気軽にお寺に足を運んだり御上人と談話をしたり気軽に朝参りに出掛けたり仏教の事を訊ねたり宗門の教えを学んだり出来たらお寺が私達、壇信徒にとってどんなにか嬉しい事でお寺を身近に感じまた信仰の場となる事でしょうか…ただ今の時代と言いますかご住職が一人でお寺を預かっているお寺さんがほとんどで家庭を持っているご住職が多いので気軽に朝参りが出来るお寺さんがとても少ないと強く感じています。朝参りは、日曜日だけにして欲しいと断られたことがあります。理由は、平日はお子さんを駅まで送らなければいけないと…平日は自分一人で行うのでかえって迷惑になるのだそうです。残念でしたがご住職も生身の人間ですし仕方ありませんね…又、あるお寺さんでは五人位のご僧侶がいらっしゃいますが…そこで日蓮宗の太鼓を教えて頂きたく思いお願いしました所 朝参り等は構わないのですが太鼓を教える事は出来ないとの事で残念でしたが仕方ありませんね…またある日蓮宗の厚木の本山ならと思い足を運びましたが現在、ご住職

が一人しか居らず本堂にあがってお参りをしたいと申しでをしましたが予約がないと出来ないとの事でした。残念で仕方ありません。ですが今のご時世では本堂の物の盗難とかの心配があり予約制になっているとの事だそうです。今回の課題の暮らしの真ん中にお寺さんがある。仏縁をつなげるコミュニティの中心を本気で日蓮宗全体で考えていらっしゃるのなら是非とも私の一声をこれ等のお寺さんのあり方にお役立て下さいます様に心からお願い致します。また私の勝手な思いですがいつでも気軽にお寺に朝参りなどに足を運ぶ事が出来る事と仏教や宗門の教えを学んだり出来る場所がお寺さんであったなと思います。まずこの様な環境を作ることがお寺さんの役目であると感じますが如何でしょうか？

私は日蓮宗のどのお寺さんに足を運んでもお釈迦様～日蓮大聖人～の教えを伝道される御上人だと思い足を運ばせて頂いておりますので自分のお寺さんの信徒である無しに関わらず心良くお迎え下さいます様に宜しくお願い致します。

ふれあいの場	合コンの場	サークルの活動場所	不明	女性
NO.143	P1	同じ趣味の会／交流が目的の会／境内・伽藍の開放		⇒ジャンルへ

「年配者と子供のふれあいの場」

最近、ゲームなどで遊ぶ子がおおく、昔の遊びが廃れている。
 そこで、お手玉やおはじき、ビー玉や面子などを年配者が子供に教えるという形
 をとりながら
 ふれあえる場所にできるといいと思います。

「合コンの場」

今、結婚できない男女が増えています。そこで、結婚したい男女が
 お寺にあつまっておしゃべりする場にするといいと思います。

「サークルの活動場所」

習い事を公民館でやる人が増えてます。
 それを、お寺でお寺独自の習い事(仏像についてとか、仏教とは?)とかをおこ
 なう。

ハローワークのお寺さん		不明	女性
NO.146	P1	修行／土地を貸す／紹介所／本格経営	
			⇒ジャンルへ

農作物づくり、収穫、あと、炭焼き、薪づくり、堆肥づくりなど、を指導、敷地内に仕事場を提供し、就労の場とする。少しでも就職難にお役に立つような。庭掃除、お寺のお仕事などでも。お寺をハローワークのような存在に少しでもいいのでは。具体的な内容はまだですが。お仕事を提供しては如何でしょうか。

お茶を飲めるところをつくり、お稽古事の教室(子供から老年まで)をつくる。

これからは農業が大切かと思います。自然の中にいる人間ですから、自然とともに生活すれば、心身ともに健やかになれると思います。

座禅はお寺ならではの。短時間の座禅会を催して、住職さんとのコミュニケーションをはかつては。精進料理の提供なども。

パラパラと羅列しました。

お寺合コン お寺女子会 寺カフェ 座禅会			27 才	女性
NO.154	P1	修行／交流が目的の会／会場提供／相談窓口／本格経営		
				⇒ジャンルへ

①お寺合コン【寺コン～寺婚へ】

- ・独身のお坊さんが増えている。
- ・独身女性の中にはお坊さんと出会いたい人が結構いる。
- ・普通に生活をしているとお坊さんと出会う機会がない。
- ・普通の婚活パーティーでお坊さんがいると驚くが、寺コンなら、お坊さんと付き合うのがOKな女性が来るので先に繋がりがやすい。
- ・お坊さんの婚活の場を広げる。
- ・世の中のお坊さんと出会いたい女性の出会いの場を広げる。
- ・普段なかなか接する機会のないお寺のことについても触れる場があると、付き合ったり、結婚を意識する上では、将来を描きやすい。

※私は、お坊さんが素敵だと思うし、お寺に嫁ぐのもいいかなと思うので、そういう方と出会えるなら、出会いたいと思っています。
しかし、普通に生活しているとお坊さんと出会う機会がないので、こういう場があるとうれしいです。

②お寺女子会

- ・女子会ブームの今、お寺を開放して、女子会の会場にする。
- ・精進料理を食べながら、いつもの女子会とは違って、静かにしっかりと女子会をする。
- ・普段接することのないお寺の様子を知らせることができる。
- ・女子会の中では、よく恋バナなどがメインになるが、そういった悩みなどをお坊さんに相談し、仏教の導きなどを踏まえ、解決方法を見出したり、話を聞いてもらう。

③寺カフェ

- ・おしゃれカフェが増える中で、いつもとはちょっと違ったカフェタイムを過ごしたい。
- ・お寺でカフェをすることで、お寺の様子を知ることができる。
- ・寺カフェしながら、お坊さんと仏教の話や世間話をする。
(複数よりも1人での来店の方が望ましいかも)
- ・普段の生活に疲れたりしたときに、ホッと癒しの場として寺カフェを提供。

④座禅会

- ・座禅をしてみたいと思っている人たちに気軽に来てもらえる座禅会をひらく。
 - ・座禅をした後は、仏教についてお坊さんから話を聞いたり、精進料理を食べたりして仏教に触れる場を提供。
- 私は仏教に興味があります。
しかしながら、なかなか仏教に触れる機会もないし、お寺に足を運ぶのも、通常では気軽には行けない。
こういった状況を踏まえながら、気軽にお寺を身近に感じてもらえるようなイベントがあると、お寺にふれあいやすいと思います。

フリマ祭り！		21 才	男性
NO.155	P1	同じ趣味の会／交流が目的の会／境内・伽藍の開放／土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

半年に一度お寺の敷地内でフリーマーケットを催します。季節の変わり目などに開催すると洋服の掘り出しものを探しに来られる方も増えると思います。

この時、お寺の中は休憩所にするか高齢者の方が子どもに昔ながらの遊びを教える教室などを開ければいいなと思います。

お寺で遊ぼう		37 才	男性
NO.162	P1	同じ趣味の会／境内・伽藍の開放／一般年中行事／仏教年中行事	
			⇒ジャンルへ

■タイトル:お寺で遊ぼう

概要:かつて、寺院は、何かにつけて人々が集まる場所であり、情報交換や教えを乞う場所でもあった。しかし、現代では、お墓参りが関の山である。しかも都会の人々は、お墓が近くにないこともあって、寺院からはかなり遠ざかっている。

そこで、集まる場所、遊ぶ場所もない都会の子供たち向けの、「遊び場」「情報交換の場」があってもよいのではないかということから思いついた。

月代わりで、現代の遊びと昔の遊びをする場として「寺院」を提供する。

たとえば、

- 1月 カルタや百人一首大会
- 2月 カードゲーム大会
- 3月 竹馬体験・竹馬競技
- 4月 ミニ4区大会
- 5月 俳句や川柳を詠む会
- 6月 ボードゲーム大会
- 7月 氷細工を作る会
- 8月 水鉄砲でのバトル大会
- 9月 おはじき大会
- 10月 ベーゴマ大会・現代ベーゴマ大会
- 11月 焼き芋大会
- 12月 持ちつき大会

各回に大人も混ざると、世代を超えたコミュニケーションができると思う。

アートの展示会場として開放する		33 才	女性
NO.164	P1	展示会	
			⇒ジャンルへ

お寺をアートの展示会場として開放する。

目的としては、

1. 普段お寺に縁のない人をお寺に立ち寄らせる。
2. 若い人からお年寄りまでお寺に集まり、アートをきっかけに集まった人同志のコミュニケーションの場となる。
→地域の活性化に繋がる。
3. 檀信徒のお寺に訪れる機会を増やす。
4. 芸術と宗教との深い繋がりがあり、アーティストを支援する。

である。

(平成22、23年に自坊で実施済み

下記ご参照下さい

<http://www.yanesen.net/topics/detail.php?id=319>

)

寺子屋		55 才	女性
NO.165	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

おはようございます。アイデアとしては、やはり、敷居が結構高い感じがしますので、昔のような、お坊さま、いろいろな教養、徳積まれていらっしゃると思いますので、そのみなさまの得意な面を発揮して戴き還元して戴きたいとおもいます。寺子屋しきに？にみんなをお寺さまに集めてください、講演会、手芸、料理、未来を担う子供たちとの触れ合い、よろしくお願いいたします。

自習寺子屋		66 才	女性
NO.168	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

お寺という場は静かで、精神的な落ち着きを得られることから、集中力もアップします。子供が自習する場所といえば図書館が定番ですが、身近なお寺にその機能があれば、より地域と密接なかわりができるのではと考えました。

ボランティアの方に見守り役として参加していただき、子供は勉強に専念できるようにします。指導はしません。

毎日は無理でも開放日を決めて、より多くの子供が利用できるような取り組みが、地域を活性化することにつながると思います。

「仏陀」と花見に行きましょ〜		26 才	女性
NO.169	P1	公園化	
			⇒ジャンルへ



「仏陀」と花見に行きましょ〜

—— お寺と地域を結びつける中間領域となる、
お寺の庭を活用したコミュニティの実現へ。

お寺の庭で花見



+

修行



お寺の現状：

仏法の講義や説教を行い、僧と信者が集まる本堂がある。
庭を持ち、四季を感じ、禅の世界が凝縮されている。
門が閉ざしている場合が一般的である。



お坊さん

信者

市民

改善方法：



方法一：壁の代わりに木や植物を。

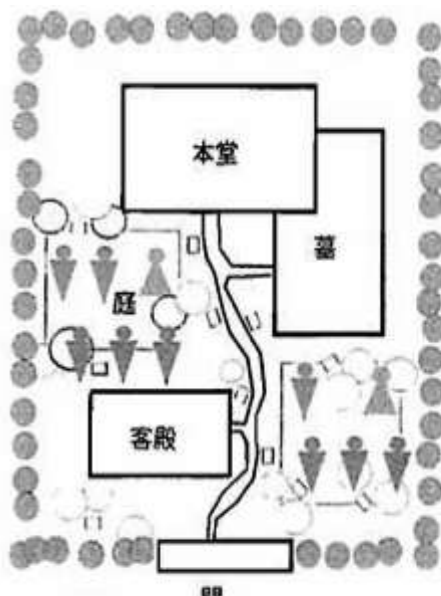


方法二：庭に椅子やベンチを置く。



方法三：修行などの活動を室内から庭に移動する。

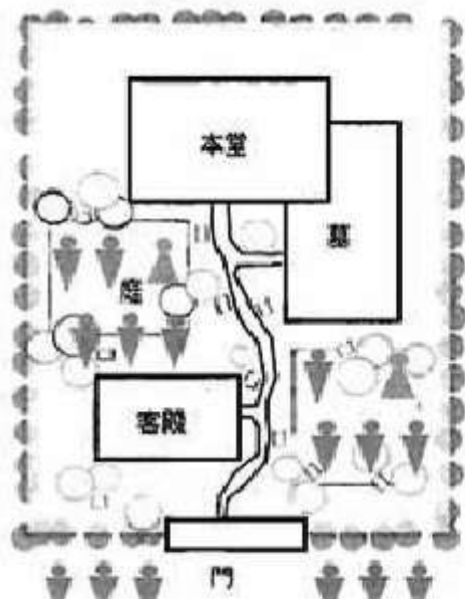
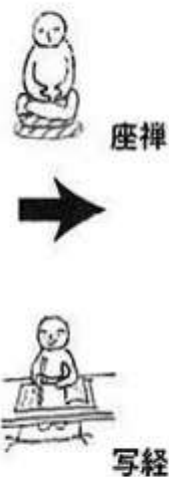
「仏陀」と花見に行きましょ～			26 才	女性
NO.169	P2	公園化		
				⇒ジャンルへ



改善後：

近所の人視線を通し、お寺に入りやすくする。
お坊さんが自然の中で修行し、「一花に一世界があり、一葉に一如来がある」の悟りの境地に達する。
市民により、お寺の庭を地域の公園として利用し、散歩や花見の際、禅の知識が得られる。

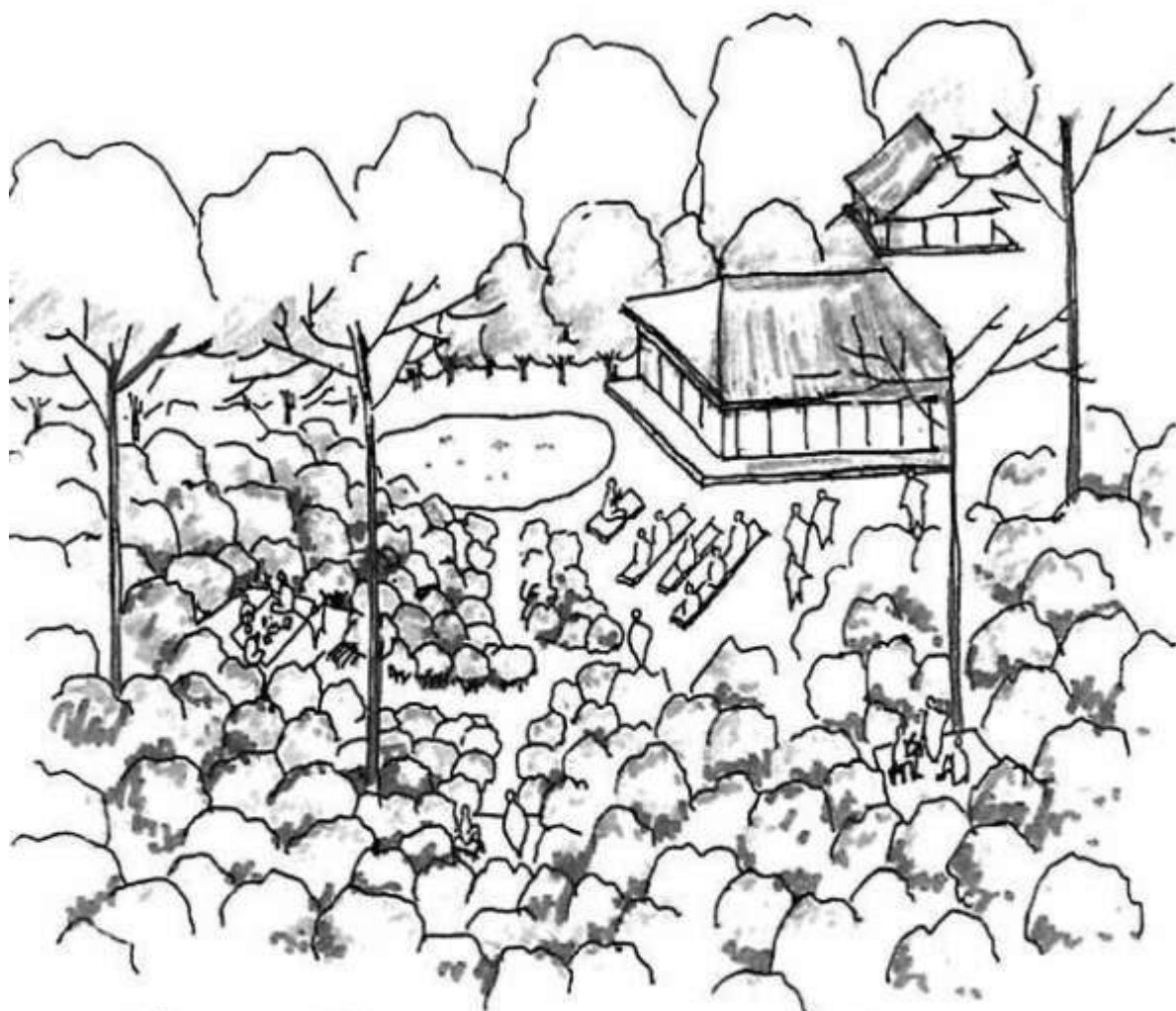
修行体験：



今後：

お寺の庭は、お坊さんと市民の出会い場になる。
自然の中で、市民がレクリエーションすると同時に、修行体験もできる。お坊さんにとっては、修行する際に、仏法を市民へ広げる。
地域で、人と人の接する機会が増え、信仰を持ち、豊かな生活ができ、コミュニティの実現が可能になる。

「仏陀」と花見に行きましょ～			26 才	女性
NO.169	P3	公園化		
				⇒ジャンルへ



お寺で、四季を楽しみながら、仏教の文化と学ぶ。

要約

「今迄寺院で培われた精進料理を弁当として、院内又は門前で弁当として販売する事です。」

現今、不景気の中、サラリーマンの多くは、小遣の減少に遭遇しているのが実状です。その為、昼の弁当代を減らしている人が大部分です。それ等の人々の為、寺で今迄に培かれた精進料理、或いは精進料理風の弁当を格安で販売されたら地域の皆様に喜ばれるのではないかと思っております。また、その地域が観光地であれば、観光客の弁当として、或は土産品としても喜ばれる事と思えます。

そして、一寺だけでなく、ある程度のグループで作って頂ければ経費も安くなる事です。販売買もアルバイトを利用すれば、雇用の場を提供出来るのではないでしうか。(地域の仕出屋を利用して良しではなにかいずれにせよ伝統ある精進料理を弁当として、しかも格安に食する事が出来れば、地域社会との交流の幅も広がり、地域の活性化にも貢献出来る事と信じてをります。是非、実行をお願いします。

その他のアイデアとして、

1. 寺院の何かのイベントの際、新生児や一才児の健康と成長を祈願する日を作ってはいかがでしょうか。
2. 同じように、老人達の為、安寧に成仏出来る祈の日を造らねてはいかがでしょうか。

3. 地域の観光旅行会社とタイアップして、有名寺院の観光をバス旅行として企画されてはいかがでしょうか。

4. 防災拠点として適地であれば、食料品、水、自家発電機等の備蓄をされ、地域の人々に提供されたらいかがでしょうか。

5. 発表の場の少ない学生さんや趣味家の発表の場の提供

6. 老人達の交歓の場として、ラジオ体操や講演会などの会場の提供

7. 地産品の販売の場として朝市など

8. 市町村の粗大ゴミから良品を選び、保持して

いる市町村のリサイクル品の販売の場を提供する
9. 遊地の図書館の場を作る。

以上の様な事を思いつきました。お役に立てれば幸いです。

家族葬がふえたり、お葬式をしない方が増えたり、最近ではお坊さんもいない、自分で吹き込んだお経を流した、お葬式もメディアでとりあげられていました。

日蓮上人様が切り開いてくださった法華経をもっとひろめたい、また仏教を身近に感じてもらいたいと願っています。そこで日常考えていること、これからやりたいことを書き出してみました。

1、お釈迦さまの日を盛大に！

クリスマスはご存じのように、イエス・キリストの生まれた日です。

この日はキリスト教ではない方も1年に一度のお楽しみ行事になっています。

そこで4月8日を和菓子屋さんとタイアップして、大々的にイベントに育て上げます。

桜の開花と重なるので、桜のイメージのお菓子を作ったり、また若い人に感心をもってもらうためにアニメやコスプレの退会を開いたり。

お釈迦さまのかわいいグッズや日蓮上人のグッズを開発したり、楽しいイベントになるよう小物でも盛り上げます。

2、結婚コンシェルジュ養成

「寺院での結婚は福と御利益のもと！！」

ファミリー結婚など、家族だけの結婚式から町をあげての結婚式まで。

結婚式場で結婚式をすると特定の方にしか、花嫁衣装や幸せの姿を見て頂けませんが、お寺で結婚式をするとまわりの方や檀家さん、町の方にも見て頂けるので、とっても印象深い式になるはず。

お寺で結婚式を行えることを広くアピールして、葬式だけではないイメージを抱いてもらうねらいがあります。

日蓮宗公認結婚コンシェルジュを養成し、さまざまなお寺に派遣する。

もちろん寺族がその資格をとっても良いのです。

それによってお寺には縁がないと思っている若い方々にもきていただけるのです。

私自身もお寺で式を挙げて頂きましたが、とても良い思い出に残っています。

3、寺で葬儀を執り行う

「ご葬儀をお寺の力にしよう」

葬儀は今やホールでやるのがほとんどです。

亡くなると寺よりもまず、葬儀会社に相談する方がほとんどです。

そこでは人が亡くなるということがベルトコンベアーのように、

亡くなられた方との思い出を味わうことよりも式が無事おわることに終始しているようです。

昔のように、家でお通夜をしたら、在りし日の故人をより思い出すでしょう。

ご葬儀もお寺ですることによる、メリットもたくさんあるでしょう。

まず祭壇がそのまま使えるということです。

他にも檀家さまの負担が少なくなることがあるのではないのでしょうか？

お寺に葬儀をとりもどしたら、お寺の存在価値もグッとアップするでしょう。

4、寺の駅

「道の駅ならぬ、寺の駅」

その寺の檀家さんのなかで、自慢の品やそこにしかないものを作っている方をネットで紹介する。草の根的な細かい情報はお寺さんやご住職ならではのもの。

宗務院のホームページから全国の寺院を紹介するとともに、檀家様のネットワークを広げること

で、一般の方も日蓮宗に興味をもってくれるのではないでしょか？

見て楽しいホームページなら宗教に縁のない人との縁をつなぐことができます。

5、会社の里親になる

―社会とより絆を強めていくためにできること―

悲しいことに

自殺する方は戦後3度目のピークに達している。

また女性より男性の方が、圧倒的に多いという。

自殺の理由は「健康的な理由」が第一。

次に不況などによる「経済的理由」があげられるとのことです。

理由は様々あるけれど、どんな困難にも立ち向かう心を育てることが解決につながるのではないのでしょうか？

それらの理由から自殺者を救うのは、これからは「寺」や「僧侶」で合って欲しいと願います。

たとえば、1年に何度か、お寺に行く日を会社ごとにつくってもらう。

スケジュールの例

朝のお勤め、清掃、昼（精進料理）、写経、法話、などなど。

会社と相互に協力することによって、檀家さんしか交流がないところのお寺も活性化する。

6. エコリサイクルの拠点になる。

①寺家発電しよう

原発の事故によって未曾有の大災難がおきました。

日蓮上人様のご覚悟にははるかに及ばないながらも、さらなる意識の向上が望まれます。

同じ人災を繰り返さないためにも、原発の勉強やクリーンエネルギーの推進が必要不可欠だと思います。

身近なところからいえば電気をなるべく使わないようにするなど、できることはたくさんあるでしょう。

先日NHKで太陽光照明をとりあげていました。お寺は電気の消費量も多いと思いますので、クリーンエネルギーを率先して実行することにより、お寺への尊敬と親密さはますますでしょう。

資料添付

②リサイクルをお寺から

比較的広い敷地があればそれを利用して、フリーマーケットや衣類交換会、食器の交換会など行くと、社会に貢献できます。

ソーラーカーや廃油で走る車なども寺家用車にするなども考えられます。

お寺ワールドを広げよう！！		52 才	女性
NO.172	P3	同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／会場提供／置場提供／土地を貸す／販売コーナー／まつり型イベント／キャラもの	
			⇒ジャンルへ

またお寺にあげていただく果物かごはプラスチック製で使い捨てられている現状です。
それをリサイクルにして、循環するなど、お寺からエネルギーの啓蒙をはかる。

7, 親族を亡くした方を心理的かつ具体的にサポートする日

親族たとえばお子様を亡くされた方はその悲しみをずっとかかえていらっしゃいます。
時には必要以上にご自分を責めたり、そのために離婚したり、さまざまな問題を抱えていらっしゃいます。

お経を唱え冥福を祈りましょう。と言葉で伝えてもなかなかむずかしいのではないのでしょうか？
そういう方たちのために、

「お子様を亡くされた方の親の会」

「パートナーを亡くされた方の会」

など作って参加者みんなと一緒に悩み、話を聞いてあげるとそれだけでとても楽になると思います。

お坊様の経験を最大限活かして、心理カウンセラーの役割を担います。

こころが軽くなる認知行動療法 → <http://www.cbtjp.net/>

などを取り入れると、有効であるようです。

このように具体的に助けるためには、毎月の勉強会をかさねていくことが望ましいと思います。

7, その他

食べるものの大事さ。

ジャンクなものやインスタントのものがたくさん生活に入り込んでいますが、そういうものを常食していると、いわゆる「きれやすい」子供たちにつながることもあるそうです。

お袋の味がおいしいのは我が子のためにつくる。愛情の気持ちがいっているからです。

そういうものなしに育った子供たちは自分の子供ができて愛することができないでしょう。

やはり食べるものは大事だとおもいます。

私の地区では毎年2回、「お寺参り」という行事がありますが、なるべく手をかけて、食育的な啓蒙をしています。

お出ししたお料理のレシピをお配りして、家でも作って頂けるようにしました。

またお料理教室やヨガ教室も開催し、檀家様や一般の方にも開かれた寺院をめざしております。

○ 茶事以外の

30年前までは、お寺会をする、介が、沃山あったのですが、時代と共に使えなくなりました。お寺も、2、3使わせて頂いた氣に愧れもあり、この機会に、お茶室、お庭、お寺の広い座敷他を開放すると思い、特に、池上は、梅、桜の時期には、人出もあり、イベント形式で、花を見てた後、500円の抹茶席、落語を聞く席(1000~2000円)〔池上のお寺で、5000円で席をもうけている所を見ましたが、高いです〕

写経を書く席等々

子供達には、蕎麦あそびをする庭(けん玉、ハーゴマ、あどとり、おぼしき、お手玉、コマ、飛車、など)

紙芝居、

茶事の場合と云えば、池上の敷ある和室が、^星適生化しますし、帰りが、夕方になれば、食事とか、お酒の席も潤うと思います

イベント以外でも、お寺を集会場として、落語を聞いたり、写経を書いたり、習い事(水書画、書道、日舞、ヨガ、親子リズム体操、三味線、小唄、他)展覧会場、踊りのお祭り会にも、使えると思います。(ガーデンセル)

若人向けには、大きなお庭があるお寺なら、(本堂を)ショーシャン、朗読劇、小芝居、クラシック(ロック等)他もできると思います

また、地方のお寺ですか、精進料理をイタリアン風、フレンチ風にアレンジして、女性のハートをつかんでいる所もあり、女性誘致に、成功すれば、(おバカン軍!)

おのずと共白髪の方もついてきます。

今の不安な時代、何か楽しい企画、楽しくなる場所があれば、老若男女、出かけて来ますよ!

今年は『把瑠都』も優勝した事だし、

笑う門には福きたるをスローガンに、梅咲くイベント、元氣張って下さい、そして、長く続けて下さい

① 私の想い

休日には、写経をしたり、落語を聞いて、心を清め、おいしい精進料理(3000円位)を食べ、お寺を散策し、抹茶席(5000円位)で、当番のお寺で、お茶を頂き、何か、催し物をぐってあれば、それを見たり、聞いたりと、帰りは、一杯、盃を傾ける。そんな、1日か、あれば、幸せです

お寺を庶民の憩いの場にするのが一番だと思っています

概要

千五百年来の寺院建築配置を見る時、寺院の回りを塀でめぐらせ、山門を出入口とする形態は、威厳あるものであるかもしれないが、一般市民に拒絶する感もゆかぬない。将来の寺院は、この孤なものはあつてはならないと考える提案いたします」

現在の寺院は、特別用の有る者は立入る事が出来るが、それ以外の者が敷地内に入る事はなかなか出来ないのが現状です。これでは地域社会に溶け込む事は無理であり、一般市民が自由に出入り出来る環境を作つてゆかねばならない。

それでは、どの様にすれば良いのか？

まず回りの塀を無くし、四方から人々が出入り出来る公園の様な形態とし、子供達の遊べる砂場や、人々が集えるベンチ、散歩しやすい歩道、そして花壇、その様な形とすれば、寺院での行事にも安心を、寺内は絆も出来てくるのではないかと、その様に考えましたので、将来の寺院景観は大きく変換しなければならぬと思います。提案いたします。

年中行事 ペット供養 避難訓練 剣道 諸道 そば教室ほか			39 才	女性
NO.177	P1	同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／土地を貸す／一般年中行事／仏教年中行事／本格経営		
				⇒ジャンルへ

- ・お寺の行事
- ・年中行事に参加 1月～12月迄。
 - ① 節分 豆まき
 - のり巻作り 一般の人たちがのり巻を作る(恵方巻)
 - (みんなで作って、いっしょに食べる。お寺で食べる。)
 - 3月 雛祭 つま雛飾りの作り方を学ぶ。
 - つま雛の中に願いを書いて、つやす。
 - 4月 おしゃや葉の誕生を学ぶ。
 - お寺で一生を見せ、後で「みんなでカレーを食べる。
 - お寺で作る。みんなで作る。
 - 5月 こどもの日 → みんなで「魚」を作って飾る。お寺の作り方を学ぶ。
 - 7月 セタ → みんなで「お寺」の中をめぐって、その中で「お寺のそと」。
 - 9月 十五夜 } 農作物などに感謝
 - 10月 十三夜 } すきとすき等のお寺にお寺に食べる。
 - 12月 忘年会 → 年に一度 背負ったものを忘れる日
 - つかない暮らしを願い、人並みに生活する。
 - 悲しみと喜び、毎日を生きている。
 - ★ 中には、大切な家族を病気や事故等で「なくし、深い悲しみの中で、誰にも話す人もいない方もいます。
 - 動物を亡くした方もハートロスで「なかなか、落ち込んで、なかなか、元の毎日にもどすのは、たいへんなことです。
 - (動物の法要をする。人間も宗教関係なく。)
 - (手を合わせると持ちか、一緒だわ。)
 - ★ ストレス解消法 → 各地に人に聞く、落ち込んだときも、
 - すがすがしリフレッシュ出来るかも知れません。
 - ★ 地震の避難訓練
 - 実際は、そのようにいなくても、日頃、やっていると、体が動くわ。
 - お寺は、広いお寺だから。
 - ★ 剣道教室
 - ★ 書道教室 → 心をみかへく。今の気持ちを題材にする。
 - ★ 日曜日の朝 美しい音楽とコーヒータイム
 - 午前10:00～正午くらい
 - ★ 1週間ごと、1箇月ごと。
 - 何か今まで「謝らねえ」にきたものを、心をめて謝る。
 - 過去のものでも。
 - ★ そば教室
 - 出来上がった、仏様にめしあげて、いただき、その後、私たちがいただく。
 - ★ お寺めぐりなど。フリーマーケット・お祭りなど。
 - 歴史を学ぶ。

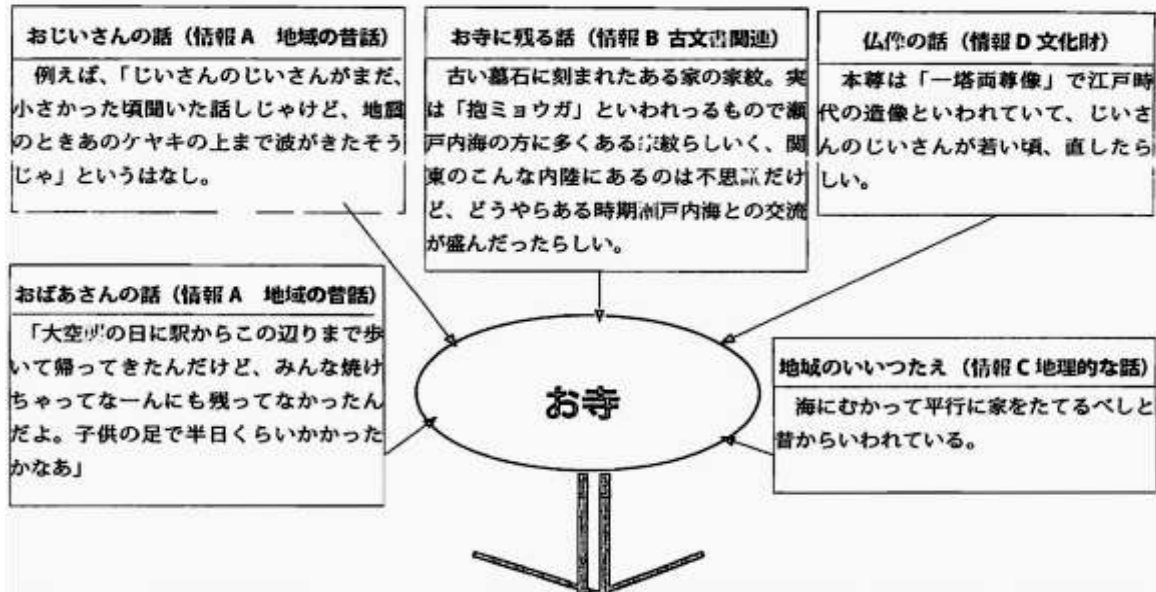
「不確かな情報も貴重な情報になる」

地震や津波、台風に大雪、洪水に日照り。そして、戦争。わが国は長い歴史のなかで東日本大震災規模の大きな災害に何度となく見舞われてきています。これからもそれを回避する事は出来ないでしょう。しかし、それらの災害による甚大な被害を被ってきたにも関わらず、現在の日本は高い生活水準の中、道徳的な生活を維持しています。それはなぜか。日本人のもつ他人と協力して、何かを成し遂げる「和の精神」で数々の国難を乗り越えてきたのではないのでしょうか。このコミュニティパワーの一端を担ってきたのが、お寺という存在であったことは事実であります。政治家や為政者はその時代で絶えず変化していきますが、役場や学校、集会所機能をあわせもったお寺という宗教施設はかわることなくそこに存在し続けます。このお寺としてのコミュニティパワーをいまこそつかってみてはどうでしょうか。

近所のおじいさんやおなたのおばあさんがおばあさんからきいた昔話、地域に伝わる言い伝えや風習などをあつめて、まとめて、共有する。確かなデータや証拠のない情報を大学や役所は情報として認めませんが、お寺なら郷土に伝わる不確かな情報もあつめて、まとめて、共有することで貴重な情報にかえる事ができるのではないのでしょうか。

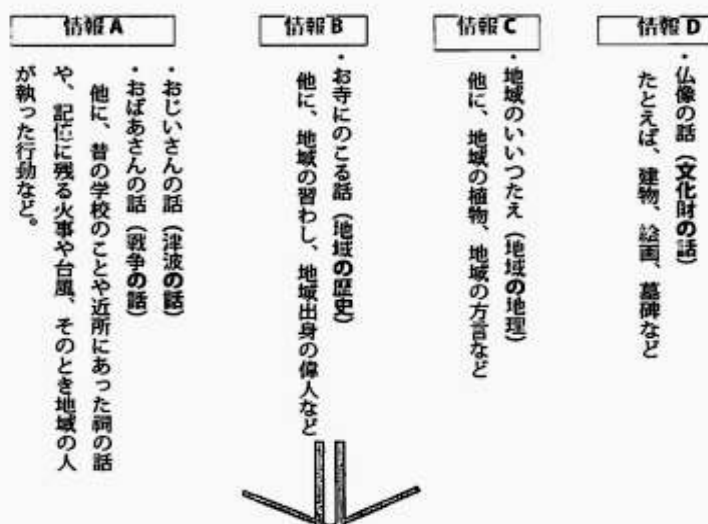
情報をつめる

地域のいろいろな情報をひろく募集する。たとえば地域の広報誌や法要の挨拶で、「みなさんの知ってる地域のこと、をお寺に集めましょう」とよびかける。



情報をまとめる

あつまった情報をみんなでまとめる。地域の中からボランティア会員を募集して集まった情報をまとめていく。



情報を共有する

情報をひろく公開し、地域住民と共有する。図書館のように自由に閲覧でき、かつ自分の知っている事、知った事を提供する事が出来る。あくまでも地域に根ざした情報ステーションである。

郷土情報ライブラリー「Lotus Station」		39 才	女性
NO.178	P3	同じ趣味の会／会場提供／地域ネットワーク	
			⇒ジャンルへ

・寺院には長い歴史があり、その歴史は地域の歴史でもあります。歴史がもつ情報は確かなものから不確かなものまでさまざまです。行政や学校はその情報の真偽を確かめ、不確かなものは記録しないし、情報を確定するには発掘や調査、科学的実験など時間やお金もかかります。そのような情報ではなく、地域に伝わる昔話や古老の話など証明が難しいけど伝えられてきた生の情報をお寺であつめて、まとめて共有し、また次の世代に伝えていく。

例えば、千葉の九十九里には元禄時代にたてられた18基の石碑があります。それぞれが「千人塚」「百人塚」「津波塚」など呼ばれていて、その里には「浪切不舛」とよばれる古刹があります。この石碑は元禄の大津波後にたてられたらしく、これは当時の人たちからのメッセージなのです。その大津波でたすかった当時の人の古文書にはそれには「大なる地震押し返して揺るとき、かならず大津波と心得て、家財捨てて早く岡へ逃げ去るべし。(略)高きところはたすかる」と記されており、この文書も石碑同様先人からのメッセージなのです。しかし、今回の震災までは「百人塚」「千人塚」も存在も明らかでしたが、その伝承を知っている人も少なく、知っていても「ここまではこないだろう。昔の人がすこし大げさに言っているんだ」くらいに認識していたそうです。このような事象は全国にあり、その情報の多くを持っているのは地域の寺院なのです。

・集まった情報を整理することで、専門的な分科会ができます。「地域の歴史が得意なグループ」や「昔話を聞くのが好きなグループ」、「フィールドワークが好きなグループ」、「古文書が好きなグループ」などなど。分科会がそのままカルチャーセンターとなり、人の幅がひろがっていきます。

・地域住民から積極的に情報をあつめ、まとめ、積極的に公開提供することで地域に根ざした相互補助の関係を樹立する。

郷土情報ライブラリー「Lotus Station」		39 才	女性
NO.178	P4	同じ趣味の会／会場提供／地域ネットワーク	
			⇒ジャンルへ

その先に

情報ステーションとして機能すると、その先にもっと多くのことができるようになります。

お寺の多くは防犯上、夜など門戸を堅く閉ざしていると思いますが、人が交流し、多くの人を受け入れる事に対応できるようになれば、震災時、シェルターとして帰宅困難者や負傷者を受け入れる事が出来るようになるのではないのでしょうか。コンビニエンスストアより多いお寺だからこそできる働きであります。

ただ、人の交流が盛んになると、上記のようなメリット以外に防犯上のデメリットが発生します。寺宝の盗難や火の不始末による火災などです。火災に関しては、出入りする人やまわりの人たちが注意したり、防火建物にする以外にさける方法がありませんが、盗難に関しては少なくとも人の交流がデメリットになるばかりではありません。

盗難の被害は無住のお寺や秘仏に多く見られます。それは、管理する人がいないことや、所有者や僧侶が現状を正確に把握していない為におこっているのです。まずは、専門家に依頼するまえに、それぞれのお寺で現状を正確に把握し適切に対処することが大事です。

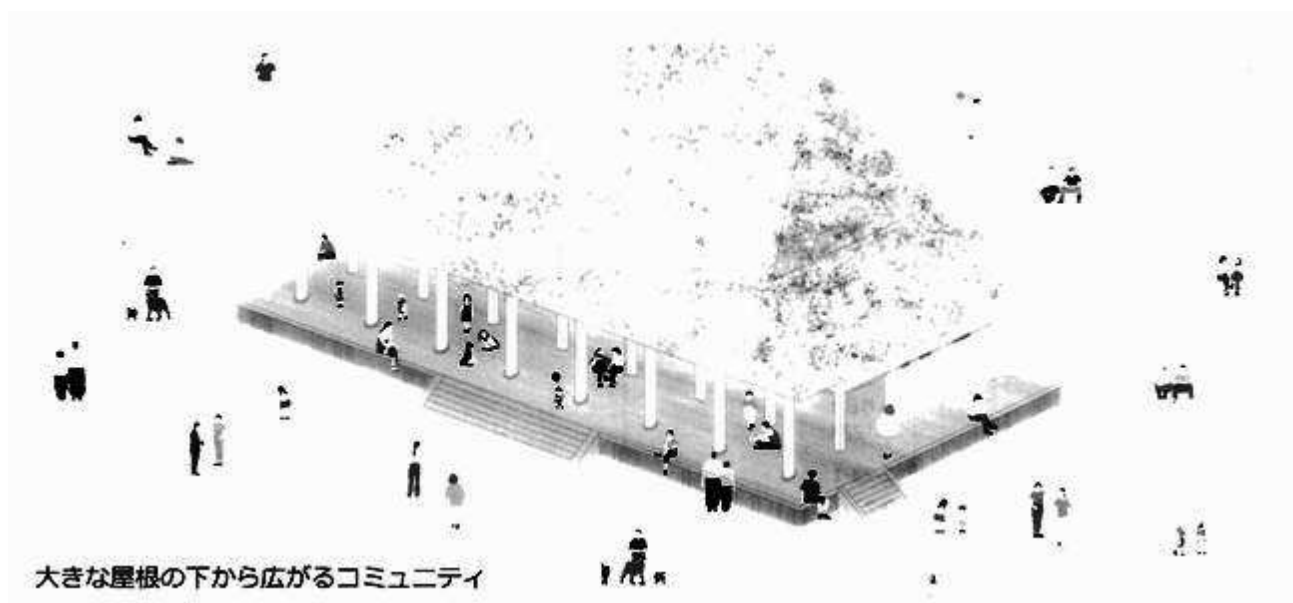
たとえば

- ・仏像は何体いらっしゃるのか。大きさは？おもさは？
- ・安定した自立は確保されているのか？
- ・損傷がどれくらいなのか。持ち上げたとたんバラバラになってしまいそうなのか？
- ・安置されている場所の状況は？ などなど。

そのためには多くの人材が必要になりますが、情報ステーションとしてお寺が機能すれば、人材の確保も容易になり寺宝の状況を多くの人と共有することも可能になります。情報の共有は情報流出するというマイナスの側面とともに、監視する眼が増えるというプラスの側面ももっています。

人の交流は、地域情報を次世代に伝えていくとともに、お寺の歴史も伝えていくことになるのではないのでしょうか。

大きな屋根の下から広がるコミュニティ		34 才	男性
NO.179	P1	勉強会／公園化／本格経営	
			⇒ジャンルへ



お寺はその尊厳なイメージから、現代では行事の時以外は少し敷居の高い場所になっています。
また観光地として、地域の人のためというよりは、観光客のための庭や建物を鑑賞する場所になっています。

ここでは地域の人たちが気軽に立ち寄れて、楽しく時間を過ごすことで、地域に対してここからコミュニティが生まれるような3つのアイデアを提案します。

①お寺を公園にする。

- ・大きな屋根面を緑や花で覆うことで、地域の優しいシンボルとなります。
- ・本堂の建具を開放することで、地域の大きな緑側となります。
- ・敷地全体を緑の公園にして、誰でも入りやすい明るい雰囲気をつくります。

②精進料理のお弁当

- ・食の安全や健康志向などから、精進料理のお弁当をお寺で作ったり、買ったりできるようにします。
- ・精進料理のお弁当をお寺の公園・緑側の好きなところで食べられるようにすることで、楽しい、ゆっくりとした時間を過ごします。

③ネットワークで全国につながるお弁当レシピ

- ・全国各地にあるお寺の、その地域独自の精進料理のレシピをインターネットを使ってネットワーク化します。
- ・地域色豊かな、楽しいお弁当のネットワークをつくります。

行けば、ご縁と笑顔がある		41 才	女性
NO.180	P1	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

地域社会のためのお寺の活用アイデア

(1) タイトル「行けば、ご縁と笑顔がある」

概要「目標は、お寺は、誰でも立ち寄り受け入れてくれる場所として認識してもらう。目的は、1年後、地域の皆さんで行事をよりいいものに作り替え、自分達の手で『わくわくカレンダー』を創り、継続していく」



(2) アイデアのコンセプト「全国のお寺どこでも、どのお坊さんでも低予算ででき、お坊さんも楽しめる」



参考資料の留意点

- 日付、費用、内容、名称等は、自由に変更可能
- 初めは馴染みがある行事から行っていき、お寺に慣れて頂く
- お寺の仕事や自分に差し支えない範囲で行う
- もし可能であれば、行事に「説法」の時間を取り入れる
- お寺やスタッフの方は、「笑顔」と「元気な挨拶」で迎える
- 別紙のカレンダーは、インターネットから無料ダウンロードのため、自分達で作成できる

行けば、ご縁と笑顔がある		41 才	女性
NO.180	P2	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

通年

クリーン・アップ(清掃活動)

第3土曜日 毎月1回。掃除は作務(さむ)の一つで「塵を払い、垢を除く」ことで心(自己)も磨くことにつながる

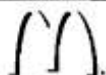
- お寺の役割: 行事の主催。作務(さむ)に関する説法を説く
- 費用: 無料
- 用意するもの
 - ほうき
 - ちりとり
 - トング
 - ごみ袋
- 必要なこと: 出勤の記録、管理



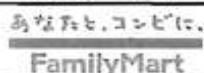
【協力企業】

お近くの店舗もしくは企業の CRS 担当まで、直接お問い合わせ願います。企業によっては、清掃終了後、飲み物を提供して頂ける場合もあるかも。

マクドナルド



ファミリーマート



ドコモ



スターバックス



JT



アルミ缶の値段

アルミ缶



100円/1g

- 洗う必要はありません。
- 缶の形は丸、缶のままでも潰しても結構です。

《重さの目安》

45Lのゴミ袋に一杯詰めたとして

・丸缶の状態で 約1.5kg

・潰した状態で 約0.5kg

※スチール缶は買取出来ませんが、無料回収致します。



アルミ缶のタブだけを集めると何かもらえるってホント？

「アルミ缶のタブ(とって)を集めると車輪やがもらえるという話がありますか、どこへ持参したらいいですか？」という問い合わせがありますが、当協会では、そのような事業には関係していません。下記の理由により、タブだけを集めるような事は賛成していません。

理由①タブを無様に取り外そうとするとケガをする恐れがあります。

理由②アルミは重量で取り扱われるので、タブだけを集めるより「アルミ缶丸ごと」集めたほうが何十倍もリサイクル価値があります。

理由③タブだけを集めるのは、協会、コンビニから、コダレ様になります。

タブを知らずに「アルミ缶丸ごと」リサイクルした方が安全で公平です。もし、知り合いにタブだけを集めている方がいたら、アルミ缶そのものをリサイクルするようすすめてみてください。



出所: アルミ缶 リサイクル協会

レンタル・サイクル(観光用)

毎日 お寺の駐車場を利用し、地元の自治体へ協力し、観光へ貢献する。また、観光客も自然と来てくれる
または土日



- お寺の役割: 駐車場の提供
- 費用: 無料もしくは有料(自治体による)
- 用意するもの
 - なし

行けば、ご縁と笑顔がある

41才

女性

NO.180

P3

修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

通年

お取り寄せ会

第2土曜日

毎月1回。ネットから皆の人気の高いお取り寄せを取り寄せ、皆でワイワイ楽しく頂く。家族のみでは送料がかかる、食べきれない、けど、食べたいという要望を満たす



- お寺の役割: 行事の主催。場所の提供
- 費用: 有料(実費を参加者人数で割り勘)
- 用意するもの
 - PC
 - お茶
 - 紙皿、紙コップ(持参でもOK)

音楽活動の支援

練習日

コーラス、演奏、バンドをされる方に練習の場を提供



- お寺の役割: 場所の提供
- 費用: 有料(1時間 1,000円)
- 用意するもの
 - なし

ご縁掲示板

毎日掲示

お寺の掲示板の一部を利用し、下記を通じて、物を大切にし、ご縁を結ぶ



- お寺の役割: 掲示板の提供
- 費用: 無料もしくは有料(1枚 50円)
- 用意するもの
 - 掲示板

※責任は、当事者間で取る

例



- ①使用可能な不用品を譲る
 - 本、ベビーカー、三輪車、おもちゃ、色鉛筆
- ②有料で機械を貸す
 - 草刈り機、枝切りバサミ、自転車の空気入れ
- ③実労働
 - 子守り、草刈り、雪かき、お掃除、買い物
- ④教える
 - 書道、茶道、フラワーアレンジメント、ギター

行けば、ご縁と笑顔がある

41才

女性

NO.180

P4

修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

1月

七草がゆ

7日

一年の無病息災を願って食べる。御節料理で疲れた胃を休める



- お寺の役割: 行事の主催。会場の提供
- 費用: 有料(材料費+水道代 50~100円)
— お茶碗、箸は、エコ推進のため持参
- 用意するもの
— 下記の材料
— 調理なべ(参加者の家庭から借りる等)
— 割り箸(忘れた方用。参加者からの寄付)
— 台所スポンジ(参加者からの寄付)

材料(4人分)

米	1合(180ml)
七草	適量
塩	少々
白ごま	適量
黒ごま	適量

作り方

1. 米はといで、水900mlとともに土鍋に入れて、沸騰したら弱火にし30~40分ほど炊く。途中ふきこぼれそうになったら、ふたをずらして蒸気を逃がす。
2. 七草は細かく刻む。
3. おかゆが炊きあがる5分前に、塩少々をふり入れて七草全体に混ぜる。器に盛って白ごま、黒ごまをふる。



セリ



ナズナ



ゴギョウ



ハコベラ



ホトケノザ



スズナ



スズシロ

出所: キッコーマン株式会社

成人の日

第2月曜日 大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます



- お寺の役割: 着付けの場所として提供(美容室は狭いのと、着付けは広い場所が必要なため)
- 費用: 有料(人件費+会場代 500~1,000円)
— 着付けのみ。着付けに必要なものは持参
- 用意するもの
— 着付けができる方
— タオル(雨・雪だった場合に濡れた箇所を拭うため)

行けば、ご縁と笑顔がある

41 才

女性

NO.180

P5

修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

2 月

豆まき

3 日

春が来る季節の変わり目に豆を撒いて邪気を追い払い、無病息災を願う風習



- お寺の役割: 行事の主催。会場の提供
- 費用: 無料(毎年無料で行っていると思われるため)
- 用意するもの
 - 鬼のお面
 - 福豆
 - みかん
 - 袴(着衣しなくても OK)

恵方巻き

3 日

節分の夜にその年の恵方に向かって目を閉じて一言も喋らず、願い事を思い浮かべながら太巻きを丸かじり(丸かぶり)するのが習わし



- お寺の役割: 行事の主催。会場の提供
- 費用: 有料(材料費＋水道代 50～100 円)
- 用意するもの
 - 下記の材料(参加者に具を一部分づつ調理、持参してもらい、お寺では巻くのみ)
 - 巻きすも持参
 - 濡れタオル(お手吹き用)

材料(2人分)

ご飯(温かいもの)	2カップ
かんぴょう	約50cm
生しいたけ	3枚
卵焼き(市販)	80g
かに風味かまぼこ	3本
きゅうり	1/2本
焼きたまご	2枚
(A)	
酢	大さじ1と1/3
砂糖	小さじ2
塩	少々
(B)	
キッコーマン本つゆ	大さじ2
水	大さじ4

作り方

1. ご飯に(A)の合わせ酢を加え混ぜる。
2. かんぴょうは塩少々(分量外)をまぶしてもみ、水洗いし、2等分して熱湯で5分ゆでる。
3. 生しいたけは軸を切る。
4. なべにごし気きった(2)、(3)、(B)を入れて中火で煮て味を含ませる。生しいたけは薄切りにし、かんぴょうとともにごし気させる。
5. 卵焼きは1cm角の棒状に切る。
6. きゅうりは縦半分に切り、さらに縦4～6つ切りにする。
7. 巻きすにのりをおき、(1)を平らに広げる。のりの手前1cm、奥3cmは、ご飯を広げず、残しておく。
8. ご飯の中央に、しいたけ、かに風味かまぼこ、かんぴょう、卵焼き、きゅうりの順に並べる。
9. 具が動かないように指でかるく押さえながら、巻きすごとくまわりと巻く。

2012 年の恵方の方向は、おおよそ北北西(北微西。北北西やや右)正確には壬



出典: キッコーマン株式会社

行けば、ご縁と笑顔がある		41 才	女性
NO.180	P6	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

3 月

ひな祭り

3 日

赤ちゃん・子どもの健やかな成長と厄除けを願う行事

※2 月、節分、立春を過ぎた大安、友引に飾り、3 月 3 日夕方から片付け



- お寺の役割: 行事の主催。会場の提供(各家にある雛人形をまとめて飾る場として提供)
- 費用: 有料(ひなあられ代 50~100 円+甘酒 100 円)
- 用意するもの
 - 雛人形(もし、お寺にあればそちらを飾る)
 - ひなあられ
 - 甘酒

【Q&A】

- 左大臣が右で、右大臣が左なのはなぜ？
雛人形は、お内裏様とお雛様に対して、それ以下の段にいる人たちが向き合った設定になっています。つまり、お内裏様、お雛様以外の人たちは実際と左右が逆になっているのです。
- 白い顔の人と赤い顔の人がいるのはなぜ？
位の高い貴族は、男性でも化粧をしていたので、白い顔をしています。泣き上戸の顔が白いのは、お化粧をしているからではなく、顔色が悪いため。
- お雛様は何歳？
お雛様のお顔は、18 歳のときの顔で作られています。最近人気のある木目込み人形の雛人形は、赤ちゃんや子どもの顔で作られているので、雰囲気はかなり違いますね。
- お内裏様が持っているものは何？
お内裏様が手に持っているものは「笏(しゃく)」と言い、朝廷の式次第を書いた台本のことです。
- お道具は何を意味しているの？
鏡台や茶道具、重箱などのお道具は、結納の品です。余談ですが、雛人形にはお道具や飾り物が多く、しもうときにわからなくなってしまうことも多いので、飾る前に収納時の写真を撮っておくと、片付けるときにどれがどの箱なのかわかるのでおすすめです。
- 雛人形の雛壇が赤い理由は？
赤は血の色。神社の鳥居が赤いのと同じく、魔よけの意味があります。そのため、雛人形の雛壇には赤い毛氈を敷くのです。
- 立ち雛はなぜお道具がないの？
お道具や飾りのたくさんあるお雛様と比べて、お道具がない立ち雛。これは、お内裏様とお雛様が表を歩いている設定のためです。

出所: All About 田中 梨香さん

行けば、ご縁と笑顔がある

41才

女性

NO.180

P7

修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

3月

東日本大震災供養のための写経

11日

または土・日

東日本大震災の犠牲者を供養するため、般若心経を写経する



- お寺の役割: 行事の主催。会場の提供
- 費用: 無料もしくは有料(500～1,000円)
郵送料(山形県へ送付する場合のみ)
- 用意するもの
 - 左の見本(BA)
 - 筆(筆ペンでも代用可能)
 - 墨
 - 紙
 - 机
 - 座布団
 - 封筒(山形県へ送付する場合のみ)

【一萬の祈り】

2011年10月9日、計1万2,463枚の写経を山形県の月山の経塚へ山伏らによって埋設しました。2012年も9月か10月に実施予定です。写経にご協力頂ける場合は、写経の郵送先を教示致します。また、お坊さんや参加者の方々が写経を動行し、月山の頂上まで運んで頂くことも可能です。(宿坊は用意させて頂きませんが、交通費、宿泊費等全て自費となります。お布施等で集められてもよろしいかと思います)。なかなかお寺から離れられないお坊さんにとって、出かける機会となり、他のお坊さんとものご縁も結ばれるきっかけになれば幸いです。ちなみに、月山は映画「おくりびと」の舞台になったところでもあり、「死と再生の聖なる山」と崇められています。

月山山頂に震災の犠牲者供養の経塚建立

山形新聞

Yamagata News Online

2011年10月09日 21:51

東日本大震災の犠牲者を供養しようと、庄内と内陸にまたがる月山(1984メートル)山頂に9日、経塚が建立された。全国各地や海外から寄せられた1万枚を超える般若心経の写経を、それぞれに込められた思いとともに霊峰の頂に収めた。

出羽三山の主峰月山は古来、死者の霊が集まる場所とされている。犠牲者を供養するとともに、震災の教訓を後世に伝えようと、羽黒山伏らで実行委員会(星野文雄委員長)を組織し、5月から写経を募り始めた。海外の26カ国からも約3800枚が寄せられ、先月中旬に目標の1万枚を突破。計1万2463枚が集まり、山伏たちが動行で一枚一枚を読み上げた。

この日朝、実行委員会のメンバーら約20人が手分けして写経を背負い、鶴岡市側の合目を出発。午前11時ごろ山頂に到着した一行は、月山神社裏に設けられた塚に写経を埋め、建立祭を行った。澄み渡る青空の下、山伏たちが一心に祝詞を唱え、犠牲者の冥福と被災地の一日も早い復興を祈っていた。星野委員長は「犠牲者の魂が集まる場所で、供養とともに復興祈願への思いを発信していくことが重要だと思う」と経塚への思いを語っていた。



完成した経塚の前で、震災犠牲者の冥福や被災地の復興を祈る山伏たち。月山山頂



出所:「山形新聞」、映画「おくりびと」



行けば、ご縁と笑顔がある

41才

女性

NO.180

P8

修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

4月

子ども110番

入学式後の
中旬

児童等が助けを求めることができる民間協力の拠点「子ども110番」の人や場所(施設)の把握

子ども110番のいえ

助けを求めたことがあったときは
ここに助けを求めましょう



小平市立
小中協同会
小中協



- お寺の役割: 行事の主催。「子ども110番」への参加により地域の安全に貢献。登録は、各自治体、最寄りの警察署にご相談下さい
- 費用: ステッカーは無料配布(※地域で定着しているマークを使用)
- 用意するもの
— 「子ども110番」の地図があれば、それを配布。なければ独自に作成(コピーは学校へ依頼)
- 協力者: 学校、PTA、警察、駅、タクシー、「子ども110番」のいえの方

小学生6年生が入園・入学した子供を連れて、「子ども110番」の家、お店、駅、タクシー、お寺を巡り、人や場所(施設)を把握

【例】

平成19年(2007年)7月

東丘小学校 安心・安全マップ

図	説 明
①	メジロ千代子D3-D7 2号車 3号車 4号車 5号車 7号車 8号車 9号車 10号車
②	バーベキュー
③	公園メジロ
④	東丘A32-A36 スチールハウス
⑤	ローレルコートあかしやの庄
⑥	東丘1-10
⑦	東丘11-12
⑧	東丘メジロシンデレラ (1-4番線)
⑨	東丘メジロシンデレラ (5-7番線)
⑩	公園C1-C30



出所: 沼中市新千原町

⇒ ジャンルへ

行けば、ご縁と笑顔がある

41才

女性

NO.180

P10

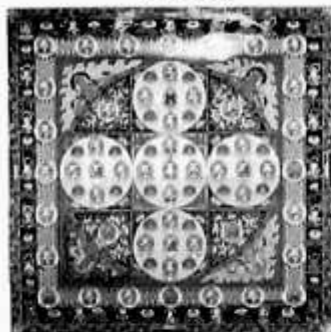
修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

6月

曼荼羅(まんだら)づくり

仏教の世界観を表現した絵画「曼荼羅」を自分で作成することにより、仏教への理解を促す。給食の牛乳瓶のふたの裏を利用し、仏様の画像を貼るか梵字を書く。子供は、夏休みの自由課題として提出できる



※金剛界曼荼羅(あくまでも例です)



牛乳瓶のふたで作成するためエコ

■ お寺の役割: 行事の主催。曼荼羅の配置図と説明

■ 費用: 無料(できれば)

■ 用意するもの

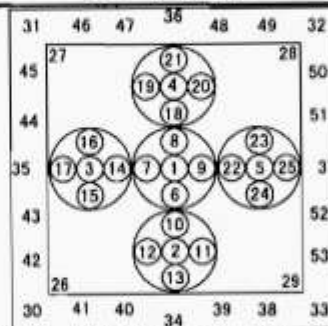
- 給食の牛乳瓶のふた
- 各仏様の画像
- のり
- 下図のような配置図
- 背景のための厚紙もしくは画用紙。自由に絵を描いてもらう
- 梵字の場合は、筆、墨が必要

少ない(4~8)場合



1人で作成可能

多い(53)場合



5つの円、外側、背景の絵など、作成パーツ分けて、クラスみんなで作成

五仏	十六大菩薩	内の四供養菩薩	賢劫十六尊
1 大日	10 金剛薩埵	26 金剛嬉	38 弥勒
2 阿閼	11 金剛王	27 金剛鬘	39 不空見
3 宝生	12 金剛愛	28 金剛歌	40 滅惡趣
4 阿弥陀	13 金剛喜	29 金剛舞	41 除蓋闍
5 不空成就	14 金剛宝	30 金剛香	42 善象
四波羅蜜	15 金剛光	31 金剛華	43 大精進
6 薩埵金剛女	16 金剛幢	32 金剛燈	44 虚空蔵
7 宝金剛女	17 金剛笑	33 金剛塗	45 智幢
8 法金剛女	18 金剛法	34 金剛鉤	46 無量光
9 業金剛女	19 金剛利	35 金剛索	47 月光
	20 金剛因	36 金剛鐺	48 賢護
	21 金剛語	37 金剛鈴	49 光網
	22 金剛業		50 金剛藏
	23 金剛護		51 無尽慧
	24 金剛牙		52 弁積
	25 金剛拳		53 普賢

出所: 金剛界曼荼羅 / <http://www.igoch.co.jp/html/igmethod/new/mandala/kongo/index.htm>

行けば、ご縁と笑顔がある		41 才	女性
NO.180	P11	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

7 月

石文(いしぶみ)

土・日

石文(いしぶみ)とは、人が言葉を持たなかったころ、自分の想いを相手に伝えるために、石を渡した。もらった人は、その石で、相手の感情を読み取る。親子、友達、初めてあった人などで手軽に楽しめる






映画「おくりびと」

出所:映画「おくりびと」

- お寺の役割: 行事の主催。相手を想う大切さを説く
- 費用: 無料
- 用意するもの
 - 石
- 必要なこと: 石がある所への移動(川、山、公園等)

※図書館で映画「おくりびと」の DVD を借り、図書館や区・市民館でご覧になるか、プロジェクターを借りられれば、お寺での上映後に実行されることが望ましい



ロンドン・オリンピック観戦

7 月 27 日～
8 月 12 日

ロンドン・オリンピックが開催される。なでしこジャパンを皆で楽しんで応援しよう!




- お寺の役割: 行事の主催。会場とテレビの提供
- 費用: 無料
- 用意するもの
 - テレビ
- 必要なこと: お知らせ

スポーツ観戦

試合開催日

野球、サッカーの日本シリーズを皆で楽しんで応援しよう!




- お寺の役割: 行事の主催。会場とテレビの提供
- 費用: 無料
- 用意するもの
 - テレビ
- 必要なこと: お知らせ

⇒ジャンルへ

家紋

家紋から自分のルーツを知る。お墓の家紋を調べるために、お墓参りすることを促し、お墓参りの作法を知り、先祖に想いを寄せることの大切さに気づいてもらう



■ 必要なこと: 自分のお墓の家紋を調べる

およそ2万点あり、家系・血統・家柄・地位といった自分の出自を表すために、平安時代頃から使われてきた紋章のこと。読み書きができない人でも一目で見分けることのできるため、衣服や調度品など、生活の様々な場面で取り入れられてきた。現代なら大きな会社のロゴマーク



行けば、ご縁と笑顔がある		41 才	女性
NO.180	P13	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力	
			⇒ジャンルへ

8 月

お盆のためお休み

15 日

本業が忙しいと思われるため、お休み

※旧暦、新暦で 7 月の地方もあります。適宜、ご調整ください。

時間的な余裕がありましたら・・・

お盆の風習

土・日

地元の風習のやり方をまとめた用紙を配布もしくは掲示版に掲示



「精霊馬」(しょうりょううま)

故人の靈魂がこの世とあの世を行き来するための乗り物

- お寺の役割: 先祖供養の大切さを説く
- 費用: 無料
- 用意するもの
 - 地元の風習のやり方をまとめた用紙の作成

釜蓋朔日



1 日を釜蓋朔日(かまがたついたち)といい、地獄の釜の蓋が開く日であり一般的に 1 日からお盆である。この日を境に墓参などして、ご先祖様等をお迎えし始める。地域によっては山や川より里へ通じる道の草刈りをするが、これは故人が山や川に居るという文化に則り、その彼岸からお還りになる故人が通りやすいように行う。また、地域によっては言い伝えて『地獄の釜の開く時期は、池や川などの水源にはむやみに近付いてはならない』というものもある

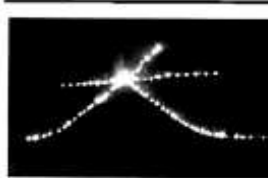
出所: ウィキペディア

迎え火



13 日夕刻の野火を迎え火(むかえび)と呼ぶ。以後、精霊棚の故人へ色々なお供え物をする。地方によっては、「留守参り」をするところもある。留守参りとは、故人がいない墓に行き掃除などをすることをいう。御招霊など大がかりな迎え火も行われる

送り火



16 日の野火を送り火(おくりび)と呼ぶ。京都の五山送り火が有名である。15 日に送り火を行うところも多い

初盆・新盆



人が亡くなり 49 日法要が終わってから次に迎える最初のお盆を特に初盆(はつぼん)または新盆(しんぼん、にいぼん、あらぼん)と呼び、特に厚く供養する風習がある。これも地方によって異なるが、初盆の家の人は門口や仏壇、お墓に白一色の盆提灯を立てたり、初盆の家の人にそういった提灯を贈ったりして特別の儀礼を行ない、また初盆以外の時には、模様のある盆提灯やお墓には白と赤の色が入った提灯を立てたりする

9 月

防災訓練

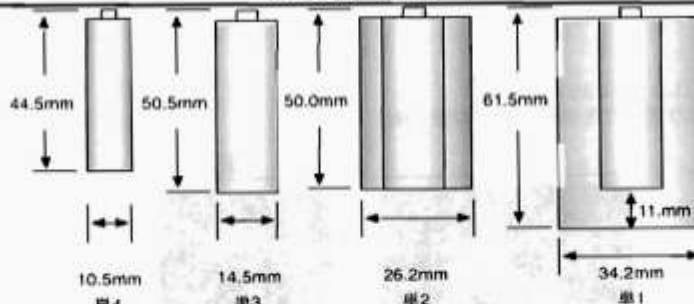
1 日 大震災についての認識を深め、対処する心構えを準備する。今回は、非常用電池の作り方を学ぶ
または土・日



※あくまでも「緊急用のアイデア」です

- お寺の役割: 行事の主催。大震災への実用的な備えを教える
- 費用: 無料もしくは有料(コピー代など実費のみ)
- 用意するもの
 - 単 3 乾電池(参加者の持参)
 - A4 用紙(チラシでも印刷されていても OK)
 - 1 円玉 8 枚、アルミホイル、パチンコ玉
 - はさみ
 - 作成手順を記載した用紙

乾電池のサイズ



A4 用紙



A4 用紙は 297×210 なので二つ折りにして、1 円玉の大きさ(20 ミリ)だけずらして四つ折りにし、はみ出た分を切り落とすと紙の幅は 42.5 ミリになる。これを 2 枚分巻くとだいたい単 2 電池と同じサイズになる。

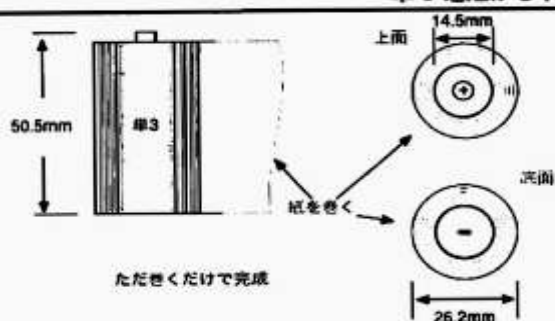
なお、あまりいい加減に巻いたり、実際の単 2 電池の直径(26.2 ミリ)より太くなってしまうと懐中電灯などだと取り出せなくなるので注意。また、巻き始めを電池にセロテープで固定してしまうと後から電池が抜けなくなりますので固定しないように。(スペーサーは使い回せるため)

A4 用紙は 297×210 なので縦長に四つ折りにすると幅が 52.5 ミリになる。

単 3 電池の下に(別に上でも良いが)パチンコ玉を挟んだ状態で紙(5 枚分)を適当に巻き付けると緊急仕様の単 1 電池のできあがり。

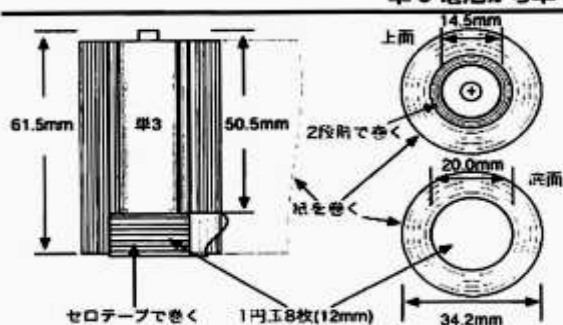
紙幅が若干狭い方が電極に干渉しないので良い。逆に紙がはみ出ていると電極が正しく接触しないなどの問題が出る。

単 3 電池から単 2 電池を作る方法



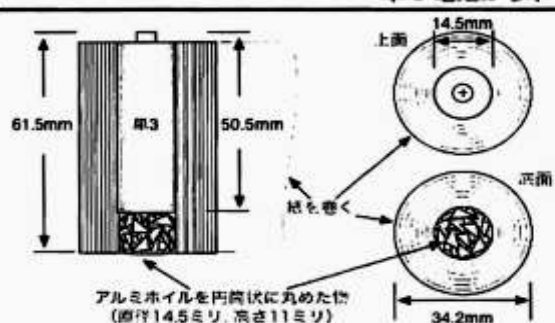
単 3 と単 2 は長さが(ほぼ)同じなので、紙などを巻いて 14.5mm を 26.2mm にまで太らせればよい。
巻き方は各自で工夫するように

単 3 電池から単 1 電池を作る方法①



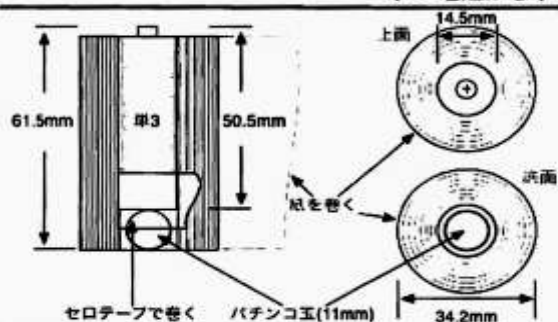
1 円玉を 8 枚(12mm)をセロテープなどで固定し、紙などを巻いて 14.5mm を 34.2mm にまで太らせればよい。
巻き方は各自で工夫するように
※なおこれは貨幣損壊には該当しない

単 3 電池から単 1 電池を作る方法②



アルミホイルを円筒状(電池と同じ太さ、高さ 11 ミリ)に固く丸めてゲタにし、電池と共に紙などを巻いて 14.5 ミリを 34.2 ミリにまで太らせればよい。
巻き方は各自で工夫するように

単 3 電池から単 1 電池を作る方法③



パチンコ玉(11mm)をセロテープなどで固定し、紙などを巻いて 14.5mm を 34.2mm にまで太らせればよい。
巻き方は各自で工夫するように

行けば、ご縁と笑顔がある

41 才

女性

NO.180

P16

修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

10 月

終活(しゅうかつ)

いつでも 「人生の終わりのための活動」の略。人生の最期を自分の望むように準備することで、例えば葬儀の
または土・日 内容やお墓のことを事前に決めておく、遺産相続を円滑に進められるための計画を立てておく



- お寺の役割: 行事の主催。終活を通じて、死や人生を見つめなおす機会を提供
- 費用: 無料もしくは有料(テキスト代など実費のみ)
- 用意するもの
— テキストやパンフレット(葬儀、お墓、遺産相続、仏壇)
- 協力者: 知り合いの葬儀屋さん、墓石屋さん、司法書士、お仏壇のはせがわ等

【終活の本】

遺言・葬儀・相続の
すべてがわかる本



いざ、というときのために知っておきたい大切なことが図解を見て簡単に理解できる！「終活」を始めたい方にも最適!!

おひとりさまの終活



自分らしい老後と最後の準備

葬式は必要!



最期の儀式に迷う日本人のために

わたしの葬式自分のお墓



よりよく今を生きるために、人生の最後を考える終活マニュアル

【お仏壇のはせがわ】

はせがわ 祈り・供養・感謝

0120-558-594

365日24時間対応致します。

※サービスは、現在 1 都 7 県(東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県、群馬県、栃木県、山梨県)にお住まいの方に限らせていただいております。

お仏壇・お墓についてのお問い合わせ 受付時間 10:00～18:00 不定休

東日本 **0120-11-7676** 西日本 **0120-76-3976**
フリーコール フリーコール

お葬式についてのお問い合わせ・ご相談 受付時間 24時間 365日

0120-558-594 ここは こくよう
フリーコール 東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県、群馬県、栃木県、山梨県にお住まいの方に限らせて頂いております。

出所: お仏壇のはせがわ(<http://sougi.kuyou.com/>)

行けば、ご縁と笑顔がある

41 才

女性

NO.180

P17

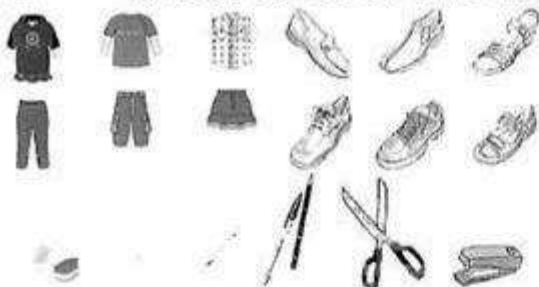
修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／一般年中行事／セレモニー／土地を貸す／仏教年中行事／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力

[⇒ジャンルへ](#)

11 月

エコ交換

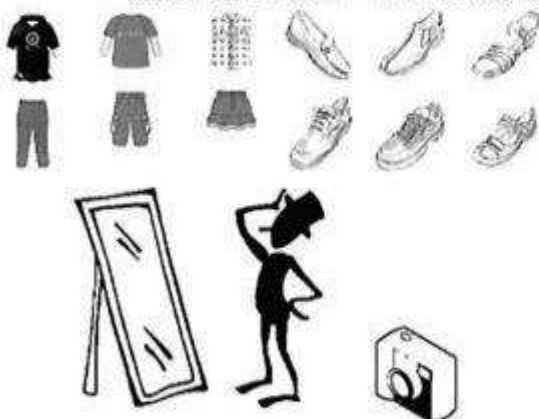
土・日 物々交換。リサイクルし、「もったいない」精神を育む



- お寺の役割: 行事の主催。場所の提供
- 費用: 無料
- 用意するもの
 - まだ使用可能な品物(洋服、靴、傘、文房具、CD、ゲーム、台所用品、タオル等、持ち帰るものに限定)
- 必要なこと: お知らせ

Re・コーディネート(リユース(Reuse・再使用)の「リ」)

土・日 タンスの肥やしになっている洋服やエコ交換で交換した服や靴などを洋服販売の方にコーディネート提案してもらい、リユース(再使用)する



- お寺の役割: 行事の主催。場所の提供
- 費用: 無料もしくは有料(洋服販売の方への謝礼)
- 用意するもの
 - タンスの肥やしになっている洋服
 - エコ交換で交換した服や靴
 - 鏡(ない場合は、携帯のカメラ撮影で確認)
 - 携帯もしくはデジカメ
- 必要なこと: 洋服販売の方(デパートや商店街の方)

12 月

クリーン・アップ(清掃活動)の慰労会

第3土曜日 毎月1回行っているクリーン・アップの方々の交流を持ち、皆勤者には景品を贈呈



- お寺の役割: 場所の提供、作務(さむ)に関する説法を説く
- 費用: 有料(飲食代など実費のみ)
- 用意するもの
 - 景品(区・市役所など、もしくは参加企業から寄付してもらう)
- 必要なこと: 出勤の記録、管理

宗教と医療の連携について			78才	女性
NO.182	P1	展示会		
				⇒ジャンルへ

(1) 宗教と医療の連携について

現在の日本の医療技術は大きく進歩してきた。そのお陰もあって、難治性の病気が進行性のがん以外の病気は治る。しかし、その治るがんも3人に一人はがんで死ぬ国民病と言われている。しかし、医療制度の変化もあり、入院期間は短縮されて通院や在宅治療に移る。病気は医者が担当するが、告知された直後から終わるまでの、病む人の心の痛みに対応してくれる相手が病院の精神科医か臨床心理士であり、その分野に宗教者の存在が見えないのもさびしい。こんにちのような経済主導の社会になるまでの日本には、地域やコミュニティの中心に神社やお寺があり、人間同士助け合い、自然とも他の生き物とも繋がっていた。高度成長による急速な都市化などで多様な人間関係も共同体も崩れて、今では孤立無縁社会と言われるようになった。年間3万人の自殺者があるのも異常な社会であろう。全国に8万近くあるお寺の多くが、葬式仏教と言われているそうだが、勿論仏事も大切だが、従来地域のお寺さんが担っていた「心の問題」——生死の苦悩を越える。とか無常であること、などの普遍的な仏教の教えに地域のひとが気軽に接することができるように門を開けて係わってもらいたい。高齢化社会の中、孤独や不安な高齢者のケアにも役立つ。

地域医療も充実してきて、現在も診療所は全国に約10万弱あるそうだが、お寺が8万、僧侶が約20万人、臨床医が約25万人——とか。全国的には数の上では潜在能力は十分だが、地域格差とか、いろいろ問題はあろうが、宗派を超えて、地域住民と好い関係ができれば、在宅医療に係わる医師とか訪問看護師との連携も可能となると思う。

2011年3月11日、東日本大震災は、自然災害に加えて、原発と言う科学技術の災害が重なって未曾有の大惨事になった。死者、行方不明者合わせて1万9000人余。家族を失い、家も失い、このような悲惨な状況下では医療者だけでは対応できない。心の問題特に死の問題は、宗教界の協力無しでは支えきれない。被災地では僧侶、牧師、神主が共に連携して援助に当たったと聞く。今回のような不条理な大災難を機に、これまでの社会の在り方、我々の生き方、なども問い直さなければならない。

日本の医療現場である一般病院やホスピスや緩和病棟でも僧衣のお坊さんの姿は見かけない。欧米では院内に教会が有り、専門の牧師チャプレンが常駐し患者に寄り添い、穏やかな旅立ちを支援する。日本では死をタブーにしてきたからか、僧侶が出入りすることを病院も患者もこれを受け入れない習慣があるらしい。地域での絆ができれば、信頼するお坊さんに支えられて、生を最後まで充実することもできるであろう。それぞれの意識改革で持続可能な共生社会も可能となるのでは・・・。と思う・

宗教と医療の連携について		78 才	女性
NO.182	P2	展示会	
			⇒ジャンルへ

今回私が宗教と医療を関連つけたその理由は、私は、がん・ピアサポーターとして、サロンや地域のがん拠点病院でがん患者さんに希望する医療情報を調べて伝えたり、医療者には言えない精神的な苦痛や悩みの相談に、同じがんを経験した仲間として、患者さんの心に添い、ひたすら傾聴することなどで対応しています。そのなかで、特に困るのが、「若年性の進行がん」で、もう治療法も無い末期患者さんの訴え「生きるとは、或いは死とは、どういうことですか。なぜ僕が今死ななければならないのか」の類の質問です。哲学・宗教に疎い普通のおばあさんであるわたしの役目ではなく、この問題こそ、「お坊さんの役」です。死の恐怖、喪失感、孤独などの心のケアには宗教者の援助が必要です。

此の度の貴ご提案につき、実際に実行可能な事柄について、僭越ながら記します。

- お寺の事情が最優先は勿論の条件ですが、月に1～2回でも、一般に開放して頂き本堂の仏様の慈悲のまなざしの中で、お坊様のお話を聞いたり、集まった者同士が話し合うなど、非日常の聖なる空間で過ごすひとときは、厳しい社会生活のなかでのこころを癒す場となるでしょう。
- 地域の文化的行事・例えば小規模のコンサートや、住民による手作りの作品展、や趣味的な美術展などに寺域を貸して頂く。
- 子供たちも参加できるような行事も出てくることも予想できる。

あくまでも、お寺側の負担にならないように、催事の責任は住民のボランティアなどにより運営されることを守る。

そのうちに、そのお寺さんの仏教的行事への参加や、日蓮宗なら、法華経の経典の説明なども所望するように発展するかもしれない。小規模地域だから、プライバシーの問題はあるかもしれないが、リスクは改善することで解決し、地域は変わらと思う。

お寺で GON		66 才	男性
NO.183	P1	修行／相談窓口／ボランティア支援	
			⇒ジャンルへ

㊦「お寺でGON」の企画のねらい

①日頃、お寺に縁のない人にも呼び掛けたいアイデアを提案をします。

お寺の存在は、お寺と檀家だけのものではないということを初めに訴えたく思います。「お寺でGON」のタイトルは、お寺で鐘を突く意味あいからヒントをえて、お寺に来ると何か良いことがあるよ、といった企画です。

②まずお寺は、一般の人たちに対して、もっともっと親しみ易い存在でなければならぬといけません。現実にはこんな例があります。

「当寺は、檀家以外の入場はお断り致します」という立て札を目にするのです。果たして、このお寺は一般世間さまとどういう関わり方をしているのだろうか、不思議でなりません。

③そのために、お寺は、もっともっと開放的であらねばと考えます。それでは何をすれば良いのかという提案を、下記に具体的にプニンングしてみました。

これが実現化すれば、どんなにかお寺のイメージも変わり、地域社会との結びつきも強まるのではないかと自負いたします。穏やかで幸せな社会が大きく広まることを願ってのことです。

㊦「お寺でGON」の具体的な実施アイデア（イベントを中心）

A)『お寺で知恵くらべ』（月に1回開催／毎回テーマが変わる）

例) 第1回「究極の発電力を創造する」

（既存のエネルギーにとらわれないアイデアを）

…定員30名程度、参加費有料

*アイデアの著作権はお寺と参加者に *講師：住職、専門家

B)『お寺で健康』（月に1回、週末に2泊3日）

例) 第1回「お寺で不眠解消」健康シリーズの第一弾。

天井が高く、部屋も広い。静かで落ち着いた睡眠環境を活用する。

早寝早起き、掃除、座禅、写経などを体験。食事は精進料理を食する。

…定員15名程度、参加費有料

*講師：住職／協力：病院

お寺で GON		66 才	男性
NO.183	P2	修行／相談窓口／ボランティア支援	
			⇒ジャンルへ

C) 『お寺で身の上相談』（週に2回程度）

例）浮気、離婚、子育て、借金、介護、近所付き合いなど身近な悩みごと、困りごとの相談に応じる

…定員5名程度、各1時間、参加費有料

講師：住職、僧侶

D) 『お寺で冠婚葬祭の常識』（月に1回）

知らない恥じをかく冠婚葬祭のアレコレを解説する。

例）通夜、葬儀、法事、婚約、結婚式など。

…定員20名程度、参加費無料

講師：住職、専門家

E) 『お寺と地域のトークトーク』（2か月に1回）

例）「商店街活性化の妙案を探る」大討論会

第1回「お客さんが喜ぶこととは」

参加者／お寺、商店街会員、消費者

…定員30名程度、参加費（お茶代程度）

F) 『お寺をオフィスに』（月～金、午前9：00～16：00）

①都心のオフィスの机で仕事をする発想を変えてみる。お寺に來ると不思議と心が落ち着き、いろいろなアイデアが浮かぶ（？）。企画を練るには最高の環境ではないか。

②疲れたら、遠慮することなく畳みの上に寝転ぶのもよし、お経を唱えるのもよし。

③ストレスのない新鮮な職場環境に、癒されること必至（？）。

*パソコン持参で自由に働いて（休んで）もらう。

…定員5名×4組程度 使用料有料

G) 『お寺で講演会』（月1回）

例）「町工場のすごい力」

「お父さんのファッション」

「就活に勝つ」

「お線香の話」

「お経の話」

「八百屋さんの話」「肉屋さんの話」「魚屋さんの話」

「お茶屋さんの話」

「介護の話」

「風呂敷の効用」

…定員50名、参加費有料（お茶代程度）

地元密着にした講演テーマでコミュニケーションを図る。

講師：町工場社長、専門家、住職、商店街のお店の社長など

お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト		不明	不明
NO.184	P1	境内・伽藍の開放／公園化／その他	
			⇒ジャンルへ

お寺も子どもたちも地域の宝もの お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト

- 1.はじめに(P1)
- 2.子どもたちをお寺に再び呼び込むために(P1)
- 3.お寺が子どもの「遊び・文化・体験」の場として有利な面(P2)
- 4.子ども文化団体「子ども劇場・おやこ劇場」とは(P2)
- 5.お寺と「子ども劇場」のコラボレーションで子どもたちに未来を(P3)
- 6.提案(P4)
- 添付資料①②

「お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト」

1.はじめに

日本人は古より、お寺という場を、仏教寺院としてのみ扱うのではなく、公民館・美術館・展示場・学習施設等、文化の薫り高い、しかし、非常に身近なイベント会場として利用してきた歴史があります。精神性に裏打ちされた正しく宗教的な施設として、地域住人の心のよりどころとなるとともに、それは「人と人」「人と仏」「生者と死者」がつながりを求めて集う場として広く開放されていたからでありましょう。

特に地域の子どもにとっては、境内が遊びの場となっていたことのみならず、寺子屋のような教育機関として、また、封建時代には身分制度を超えられる可能性がある希望の場として子どもにとって文化・教育の場としていかに大きな役割を果たしてきたのかは枚挙に暇がありません。昔話（民話）にも、お坊さんと小僧さんの話がどれだけの数があるのでしょうか。

子どもたちが「お寺」という場に「日常的」に親しみ、利用することからはじめるのが、地域のコミュニティーの核としてお寺が位置づき活性化することになる近道であると考えます。「お寺も子どもたちも地域の宝もの」が私たちの大事にしたいフレーズなのです。

お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト			不明	不明
NO.184	P2	境内・伽藍の開放／公園化／その他		
				⇒ジャンルへ

2. 子どもたちをお寺に再び呼び込むために

地域で活動する子ども関係団体と手を結ぶのが何より効果的です。子ども関係の市民団体は、「育児・子育て」の手助けをする「子育て支援団体」（＝子どもを保護する）、教えたり・引き出したりする「社会教育団体・スポーツ団体」（＝子どもを外側から引っ張りあげる）などのほかに、「遊び・文化・体験」を軸に活動する「文化団体」（＝子どもの内側からのエネルギーを高める）があります。目に見えてわかりやすい「支援」「教育」は学校・行政・公民館を巻き込み幅広く市民活動がなされておりますが、「子どもの文化状況」に関して支援するところがいかに少ないのが現状です。子どもの健やかな地域での成長を願い、その文化支援を積極的に行うのも、お寺のなす大事な役割のひとつではないでしょうか。例えば、教育機関として機能した、「寺子屋」は、行政が担う「学校」（＝義務教育）としてすでにお寺の手から離れています。「駆け込み寺」といわれた保護施設機能も、保健所や福祉施設が担っています。確かに公園などは場としては地域に存在しますが、遊具がそろっていれば安心して遊ぶことのできる場となり得るのでしょうか。そこに子どもが異年齢の集団として育つ場となり得るのでしょうか。地域の人々に見守られる場であり、精神的に安定した「管理者」が存在するお寺という場こそ、子どもたちとその保護者に求められる「遊び・文化・体験」の場、足りえるのではないのでしょうか。期待は高まります。

3. お寺が子どもの「遊び・文化・体験」の場として有利な面

お寺は子どもたち（その保護者も含め）にとっても魅力が一杯です。箇条書きにしてみます。

- ・ なにより広い、周りに迷惑がかからない
 - ・ 自然が一杯であることが多い（緑・水・庭などなど・・・）
 - ・ 響きがいい大空間の本堂は新鮮な感動、天井の高い開放感と応用性
 - ・ トイレも駐車場も申し分なし
 - ・ 歴史を感じられる上に、地域のステータスの場
 - ・ 不審者が入るような心配がない安心の場
- などなど。

具体的にこんな声を聞いています。

「かつて境内では子どもたちが木に登り、秋は落ち葉に埋もれ、雨の日は探検と称して本堂の床下にもぐり、くもの巣だらけになったと親世代から聞き、うらやましく思っています。ときには悪戯をして和尚さんに叱られ、あるときは仏様のお下がりのお菓子をいただく、優しさに包まれた安心安全な子供たちにとっても聖域だったのですね。」と・・・

お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト			不明	不明
NO.184	P3	境内・伽藍の開放／公園化／その他		
				⇒ジャンルへ

4. 子ども文化団体「子ども劇場・おやこ劇場」とは

一方、地域で活動する子どもの文化団体である「子ども劇場・おやこ劇場」では、少子化とともに真の意味での地域に回帰する流れが全国的に生じています。

「子ども劇場・おやこ劇場」は1966年福岡市において大学生・母親が協力して活動していた地域の自主的な「子ども会」として成立しました。児童劇団など文化芸術のプロと協力し、会員を集め「例会」と称して舞台芸術の公演を定期的に行うにいたります。以降、全国に同様な組織が「子ども劇場」「おやこ劇場」として生まれました。新潟県内では「子ども文化の生活協同組合」のイメージが強い。(新潟県では現在、新潟県内12組織およそ2,300人の会員。まきおやこ劇場は1993年に設立し、角田山妙光寺を拠点のひとつとして地域で活動しています。)

2011年6月現在で全国の「子ども劇場・おやこ劇場」の数は北海道から九州まで552団体あります。

全国的な運動体として、「子ども劇場おやこ劇場全国フォーラム」がありますが、そのポイントとして、①子どもとその文化状況に関心のある地域に根ざした自主的な組織 ②舞台芸術鑑賞を活動のひとつの軸に置く ③「生の体験」主義に貫かれており、活動のキーワードが“子ども”“地域”“舞台芸術”“文化権”を掲げて全国的に展開しています。(支部組織ではなく、それぞれ独立した運営体です。以下、「子ども劇場」と省略)

この「子ども劇場」では、人手とノウハウがあっても、拠点となる活動場所を持っておりません。公的な施設(公民館・市民会館など)を利用することも多いのですが、逆に公的な施設は制約が多く、管理が事務的で「血が通う」という面で使いにくいのです。一例をあげると、催しのあと出演者の方たちと食事を取りながらの交流会・懇談会などは定番ですが、公的施設ではいつもその会場に困っています。お寺の台所を貸していただければ、若いお母さんたちがわいわい楽しみながら子供たちや、出演の役者さんのお食事が作れます。お寺の設備としての不利な点である、音響・照明設備が充実していないという面はありますが、そこには「子ども劇場」は経験、ノウハウはもとより、何よりも若くて元気でこういう活動が大好きというお母さんお父さんたちがいます。設備の不足は会員の力で調達しきる能力は高いのです。「子ども劇場」の活動には行政の補助金が出ることもありますが、その活動自体は宗教活動ではないので会場がお寺でも問題はありませぬ。むしろより地域密着で喜ばれるほどです。お寺にとっては一切の経費負担無しで、多くの方が集まりご縁作りにもなるのではないのでしょうか。

お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト			不明	不明
NO.184	P4	境内・伽藍の開放／公園化／その他		
				⇒ジャンルへ

5. お寺と「子ども劇場」のコラボレーションで子どもたちに未来を

1) 境内から子供たちの声が聞こえなくなった「お寺」

- ・かつて境内は子供たちの遊び場だった。

しばらく前までお寺の境内は地域の子供たちの遊び場として賑やかでした。大人になっても変わることの少ない境内は、懐かしい思い出の詰まった場所だと聞きます。その境内から今子供たちの声は聞こえて来ません。

- ・ご住職からは「近頃お寺に来る方が高齢者ばかりで、活気もなくなりお寺の将来が心配だ。子供が少ないのもわかるが、なんとか子供たちや若い親世代に気軽に来てもらえないものか」とお聞きしました。

2) 地域の子供たちの育成に取り組む「子ども劇場」

- ・「子ども劇場・おやこ劇場」は地域で親子が共に育つ活動をする全国組織。
- ・熱心なお父さんお母さん、そして、青年・若者の手で支えられています。
- ・企画・運営のノウハウと人材はあるが、活動資金と会場に困っています。

3) 15年に及ぶ「まきおやこ劇場」と「角田山妙光寺」の協働モデル

- ・プロの劇団や音楽家を招いての舞台鑑賞

「子ども劇場・おやこ劇場」の真髄は優れた生のお芝居や音楽を、どんな地域に居る子どもたちにでも届けること。本堂や大広間、板敷きの広い院庭テラスを利用して演劇、コンサート、人形劇、芸能など数多くの公演を妙光寺で実現させてもらっています。都会のように観劇ホールがないこの地域の子どもたちにとって、本物に触れる貴重な場となっています。

- ・自然あふれる境内で「お花見会」や「きもだめし大会」境内に住む「ムササビの観察会」など、四季を通して気楽に参加できる遊びを企画し、子どもたちに大好評です。

- ・うっそうと茂る境内の裏山雑木林での「森林体験」

地元の森林組合の指導のもと、下草刈りや間伐を子どもたちと行い、森を守る大切さを学習し、間伐した木や竹で秘密基地作りなどの大掛かりな遊びも展開。行政からの補助金が出たり、注目度の高い活動です。

- ・子どもたちの自由発表会

今、学校では授業数確保のために学芸会や文化祭などの行事が縮小、削減されています。子どもたちが勉強以外の得意分野で輝ける場として、本堂での朗読発表会や院庭での HipHop ダンス発表会などを行い、家族や地域の人たちに喜んでもらっています。

お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト			不明	不明
NO.184	P5	境内・伽藍の開放／公園化／その他		
				⇒ジャンルへ

4) 続く “ご縁の輪”

- ・若いお父さんお母さんたちにとってもお寺は遠い存在！？

最近の家庭は核家族ですから、お墓参りは行ってもお寺に入ることはほとんどありません。行きやすい催しがあれば興味をもってお寺に入るきっかけになります。若い親世代が来れば当然小さな子どもたちにも繋がっていきます。

- ・ご住職が身近になった。

催しでご住職の説明があったり、なにげなく質問したり言葉を交わすことで、ご住職がとても身近になりました。「お寺って誰が来てもいい所だって始めて知りました」なんて言葉もたくさんあります。

- ・檀家さんも歓迎

お寺をお借りするだけでなく、ご縁ができてお寺の行事で茶店を開かせてもらったり、お墓参りに『紙で蓮の花作り体験』等、子供が楽しめる企画を出して、お参りの檀家さんにとっても喜ばれました。私たちも収益が活動資金になって助かります。

- ・お寺で結婚式

長年に亘るこうしたコラボレーションが続くうちに、ご主人が亡くなったまきおやこ劇場の会員さんがご住職に法要をお願いし、境内墓地にお墓も求めました。7年後、その娘さんが結婚することになり、「お父さんに花嫁姿を見てもらいたい」という思いから、お寺の本堂で挙式、新緑のお庭で手作りの披露宴をさせていただくご縁もできました。おとなも子ども集い、まるで「子ども劇場」のイベントそのままのものとなりました。

6. 提案

以上、「まきおやこ劇場」と「角田山妙光寺」の近年のコラボレーションをモデルに箇条書きにしてみました。これと同じような場を全国の「子ども劇場」は求めています。ただし、今現在は、公的施設にのみ目が行ってしまっているのが現状です。

そこで、地域の「お寺」の場の提供と地域の「子ども劇場」の人とノウハウで、お寺に活気を溢れさせる「お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト」をモデル事業として提案、積極広報していきたいと考えます。

お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト			不明	不明
NO.184	P6	境内・伽藍の開放／公園化／その他		
				⇒ジャンルへ

具体的には・・・

●子ども劇場の「例会」に会場を提供

子ども劇場では会員の親子が定期的にプロの舞台を観賞する「例会」が年に5～8回あります。例会の経費は全て子ども劇場の会費から捻出され、出演する劇団との交渉や契約も一年前には決まります。この上演会場として、お寺を提供してもらいます。

ただし「例会」の場合は子ども劇場の会員しか入場できませんので檀家さんには声をかけられません。

しかし今までお寺に来たことも無かった一般の人々が親子でたくさんやって来るのでお寺自体を外に広げるにはまたとない機会となります。

●お寺を会場にした様々な活動を共に創り合う

「例会」以外にも一般チケット売りの舞台公演や、子どもたちの体験活動の場としてお寺をお借りします。この場合は会員限定ではありませんので、どなたにでも参加してもらうことが出来ます。

企画・運営・財政は主に子ども劇場で行いますが、お寺にチラシを置いたり、寺報に載せたりと広報していただき、檀家さんたちにもどんどん参加してもらい、地域の人たちと檀家さん、大人も子どもも一緒になって楽しめる場をお寺に作っていきます。

その際にお寺と子ども劇場の共催という形を取れば、お寺の一行事として扱うこともでき、ご住職のお話を組み込んだりすることで檀家さんからも喜ばれます。

当日までの流れ

①子ども劇場の事務局とご住職の事前打ち合わせ（3ヶ月前くらいまでに）

- ・当日の使用時間と使用場所、制約事項等の確認をする

当日は上演や活動開始の時間よりかなり早くから仕込み等が始まります。また会場が本堂だとしても別に控室が必要だったり、台所を使用させてもらったりもしますので、法要等と重ならないように事前に打ち合わせをおこないます。また舞台を作る際の釘禁止、ガムテープ禁止なども確認し合います。会場使用料などの規定がある場合はそれも伝えます。

②当日の運営

- ・基本的にはすべて子ども劇場のスタッフで行いますが、設備品の使用等に関しご協力をいただいたり、ご住職にご挨拶をお願いしたりすることもあります。
- ・最後の掃除まで終わらせ、現状復帰させ終了となります。

※全国の「子ども劇場・おやこ劇場」の情報については添付資料②の子ども劇場おやこ劇場全国フォーラムまで。





お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト		不明	不明
NO.184	P9	境内・伽藍の開放／公園化／その他	
			⇒ジャンルへ

※資料② 子ども劇場おやこ劇場全国フォーラム

<http://www.soft-unique.co.jp/cgi-bin/gekijo/gekijo.cgi>

子ども劇場おやこ劇場全国フォーラム発足に当たって

1966年6月、福岡において、子どもの文化を豊かにしようとする地域のおとなたちによって最初の「子ども劇場」が発足しました。地域の特性を生かした「鑑賞例会活動」と「自主活動」を2本柱とするこの運動は全国的に広がりを見せ、子ども劇場・おやこ劇場と称した同様の団体が次々と誕生しました。それぞれの団体は独立したものでしたが、鑑賞例会活動の円滑な実現のための共同を軸に1974年に「子ども劇場全国連絡会」が発足、「NPO法」の成立にあわせ、1998年にはNPO法人を取得し、「特定非営利活動法人子ども劇場全国センター」となりました。この間、運動の方向性をめぐり、全国的に相当数の子ども劇場・おやこ劇場、また、その地方組織が全国センターに非加盟、また後に脱会をし、結果、非加盟の団体が多数になると言う状態になりました。全国センターは鑑賞例会のセンター機能を2002年に事実上閉鎖したので、鑑賞例会・鑑賞活動を継続したい全国の多数の子ども劇場・おやこ劇場、また、その地方組織が鑑賞活動の実務のため全国センターと別に結集、「2003企画・調整・実施全国連絡会」を結成しました。2004年からは「子ども劇場企画実行委員会」として恒常的な組織となりました。その活動は、鑑賞例会・鑑賞活動の実務に限る共同作業でしたが、全国的に結集する場は他にないこともあり、自然に運動交流の場としても期待されるようになりましたが、それぞれの運動の方向性は大きく異なったため、2009年に「子ども劇場企画実行委員会」が、共通に運動交流を行うことが出来るように全国交流会を呼びかけました。その結果、“子ども”“地域”“舞台芸術”“文化権”を守り促進する団体が子ども劇場・おやこ劇場であるということが参加団体間の共通認識として得られました。これに基づき、恒常的な運動交流の場として2010年に「子ども劇場おやこ劇場全国フォーラム」を発足し、今日に至ります。

お寺を子どもの声で賑やかにするプロジェクト		不明	不明
NO.184	P10	境内・伽藍の開放／公園化／その他	
			⇒ジャンルへ

子ども劇場おやこ劇場全国フォーラム規約

＜目的＞ この会は、子ども劇場おやこ劇場全国フォーラムとよび、“子ども”“地域”“舞台芸術”“文化権”を守り促進する団体である子ども劇場・おやこ劇場の全国的な交流と活動を通じ、すべての子どもを視野に入れて地域に根差した「子ども劇場運動」の発展とのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすことができる環境づくりをすすめます。

＜活動＞

1. 全国の子ども劇場・おやこ劇場の運動（子ども劇場運動）の交流
2. 子どもと文化に関する活動の学習およびサポート活動
3. 子どもと文化に関する現状の分析・各種情報の収集・発信
4. 子どもと文化に関する政策研究・提言
5. その他、目的に沿う活動

＜会員・運営＞

1. この会は、“子ども”“地域”“舞台芸術”“文化権”を守り促進する団体である子ども劇場・おやこ劇場、および賛同する個人・団体で会員を構成します。
2. 会員の種別は以下のとおりとします。
 - ・正会員 この会の目的に賛同し活動を推進する子ども劇場・おやこ劇場都道府県組織
 - ・賛助会員 この会の目的に賛同し、様々な形で活動を支援する個人・団体
3. 会員の代表者による会議を定例的に持ち、ここで学習・交流・情報交換・打ち合わせ等を行います。また活動方針・課題・予算・規約の改廃を行います。
4. この会を円滑に運営するために若干名の役員をおき本部会議を構成します。また代表は事務局の実務および会の運営のまとめ役を担います。

＜活動年度＞

この会の会計年度および活動年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。

＜財政＞ この会の経費は会員による会費と寄付金・助成金・補助金等からなり、年度末には監査を受けます。会員の分担金額は別途定めます。

＜附則＞ 2011年3月11日に発生した未曾有の災害である東日本大震災で被災した、子ども劇場とその地方で生活したり非難を余儀なくされる子どもたちのために、東日本大震災対策本部を設置し、当面の活動をこの支援活動に傾注するものとする。

2010年 9月26日施行
 2010年 11月15日一部改正
 2011年 3月27日附則施行

その一
要約「寺の一部分に図書室を作って頂き、地域の皆さんに利用して頂く事です。」

避地の町村には図書館の無い所や、有っても遠方で利用しづらい地区が沢山あります。その様な所で寺院内に図書室を作って頂き、地域の皆さんに利用していただく場を、提供して頂きたいのです。

本は、地区の方々の不用のものや、寺や僧侶の皆さんの不用品を集め、用にあてるのです。当然、不足のジャンルも出てくると思います。

その様な本は全国的に古本のチェーン店「ブックオフ」を利用していたらいいと思います。どの店でも百円均一のコーナーが有り、なかなかの良い本も並んでいます。一般の古書店でも均一コーナーが有り、それ等を利用して頂ければいいと思います。

なお、収蔵書の三分の一ほどは、子供向けの絵本や児童書、それに赤ちゃん向けの料理・育児などの本や雑誌も用意して頂ければいいと思います。

図書が貸し出しなどの管理はボランティアの方や利用者の自主管理をお願いすると思っています。

いずれにせよ、実験的にまずは実施されてほしい。提案させて頂きました。

曾侶の方の趣味を利用した教室をと思っています。
 時に、無趣味の方の参加出来る「漢字教室」の場を
 設けて頂ければと思っています。

「漢字教室」は、雑誌「漢字王」や「漢字百選」など、市販で
 売っている漢字クロスワードを利用したもので、それ等の本をテキ
 ストとして、特定の日には集まって頂き、皆さんと共に
 解答を考えるサークルの場を提供して頂きたいです。
 テキストに使う漢字クロスワードなどは五百円前後で毎月売
 られていますので皆さん、同一のものを購入して頂き、暇な時に
 考え、不明な所を皆さんが集まったら時に埋めて行くといった
 方法でやって頂き、解答用のハガキは十枚ほど雑誌に
 綴じられています。そして各自が送って頂ければ、いろいろ
 な賞品や現金、商品券が抽選で当たるといった楽しみが有リ
 ます。クロスワードの問題も初歩から超難問まで有ります。
 し、同時に、自選でもパズルを作る事をやってゆけば、
 いつ迄も続けられるサークルではないかと思っております。
 特に高齢者の方には良い趣味となり、ボケ防止の
 効果も有ると思っています。
 「漢字教室」を寺院内に作って頂き、地域の方々の
 交流の場とされてはと思ひ、提案させて頂きました。

その三

要約

「古衣料のリサイクル品を寺内の一部に置かれ、特定の日に皆様に利用して頂く場の提供をお願いしたいのです」

私の住む市では、月に二度ほど資源ゴミの回収があり、さすがに山積みにはされ棄てられる衣料が目につきます。中には新品も有ります。その様な状態ですから、古衣料の寄贈を地区の皆さんや、寺院の発行される機関紙や雑誌などで皆様のうらにお願ひすれば、沢山集まるのではないかと考えています。その中の良品も展示し、例えば十枚綴りのチケットを三百円とか五百円で買って頂き、一点が三十円、五十円で手に入れば、大変喜ばれると思います。まず、収入は、アルバイトの方の給金とし、又ボランティアの方の食事代などに使って頂き、残ったお金で地域の為に例えば年末に餅搗き大会に使う頂くとか方法はいろいろ考えられます。

皆さんの協力の結果を公表されれば、一つの輪となり、寺の存在も大きく映るのではないかと思います。提案いたします。

その他に、《災害時、帰宅困難者の休憩の場の提供です。その様な場である事も、ポスターなどで明示し、周知されれば、万一の場合に役立つのではないかと考えています。一つでも活用して頂ければ幸いです。

要約

「なでしこ寺」を造ってください。

「あじさい寺」「ぼたん寺」など 日本各地に苑の寺として知られた所が有りますが、「なでしこの寺」は聞いた事がありません。

それに「なでしこの名は聞いて知っているが、どんな花か知らない」そんな声も多く耳にします。

そこで花やガーデニング好きな住民さんの寺に境内の一角でも良いので「なでしこを群生させ地域の人人が見学に来られる様」育成させて頂きたいのです。出来れば一県に一寺以上を願っています。

これか今回の私の提案です。その他に「薬草の寺」や「香草の寺」なども良いのではと思っています。



イメージ図

タイトル

まちをつなぐ

オープンテンプル

概要

お寺の特徴……

① コンビニの数より多く存在する。

② 小さなお庭がある。

③ 昔から学びの場として寺小屋を利用していた。

筆の点を生かして、遊覧の子供達が空いている敷地部分にミニ水田やミニ菜園等を作って(学校の授業の1.かんとして)普段ふれることのない農業体験をしたり、町会の人達でお花を植えたり盆栽をする等園芸ができる場にしたら良いと考えます。

ミニ水田、ミニ菜園、園芸場としてお寺を利用する利点として

① お寺に足を運ぶ機会が少ない年代の人々がお寺に集う。

② 身近な場所で農業体験ができ、食の大切さを学ぶ事ができる。

(収穫した食材を使って自分達で料理をし、食の機会も作れはなお望ましいです。)

③ 都会では植木はちでしか楽しめない園芸を、お寺の敷地でできることで、年配の方も趣味と実益をかねる事ができ、お寺自体も楽しくなる。

④ お寺が老若男女でにぎわい、世代を超えたコミュニケーションができる。等、お寺も活性化し、地域の人々も楽しめて一石二鳥にも三鳥にもなると考えます。(

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P1	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

1. はじめに

今回の「地域社会のためのお寺の活用アイディア募集」というコンペにあたり、アイディアの募集とあったが、実際にそれらを活用しようとした時にアイディアだけでは不十分と考え、このような形で応募させていただいた。

地域にしても、お寺にしても、そのあり方には種々様々な形態がある。その為、地域やお寺の特性を十分に考慮に入れなければ、様々なアイディアも十分に活用しきれないと考えられる。そこで様々なアイディアを十分に活用するための前提として、地域やお寺のあり方やその分類について、論じさせていただき、その後「地域社会のためのお寺の活用アイディア」を列挙させていただく。

2. 地域社会のためのお寺活用について

1) 現状

現在、日本の社会は、総人口うち65歳以上の占める割合が7～14%を占める高齢化社会をさらに越え、その割合が21%を越える超高齢化社会となっている。また、その歪な人口構成を正すための対策も遅々として進まず、その割合は、これからも増加の一途を辿ると考えられる。また、一方で日本は少子社会でもある。少子社会とは、高齢者人口（65歳以上人口）よりも子どもの数が少なくなった社会と定義され、日本は1997年より少子社会になっている。また、2005年には、日本の総人口が戦後初めて自然減少した。

また、個人主義を中心にした社会の発展は、生活の上で他者に頼らなくても生きていける便利な社会を生み出した反面、他者に頼ることで生まれる「つながり」を軽視する生活スタイルを生み出した。

このような人口構成の異常、個人主義中心の社会の発展は、都市や田舎といった地域社会そのものの、あるいは、それぞれの人が拠り所としている家族、あるいは様々な人間関係にも多大な影響を及ぼしている。即ち無縁社会という言葉に表されるような、人と人とのつながりの希薄化、あるいはつながりそのものの欠如である。

3月11日に起きた東日本大震災により、日本全国で絆という言葉が大きくクローズアップされた。しかし、逆に考えれば、それまでは絆がまったく気にされない社会だったともいえるのではないだろうか。

そのような、つながりの希薄化の実例を上げれば、日本において60%近くを占める核家族世帯、隣に誰が住んでいるかも分からないマンション・アパートの生活、ニート・引きこもりと呼ばれる人々の増加、限界集落と呼ばれる地域の増加などのように、枚挙にいとまがない。

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P2	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

そもそも、つながりとは仏教においては「縁起」のことであり、人間の本质、社会の本质であると説くほど重要なものなのである。しかし、今の社会ではそのつながりが欠如し、まるで一人だけでも生きていけるかのような錯覚を、与えているのである。

つながりの欠如・希薄化は間違いなく、日本の社会に悪い影響を与えている。例えば、年間自殺者数3万人という異常事態が毎年のように続く社会や、孤独死なる現象が現れ、無縁社会と呼ばれるようになっていく社会の現状、生活困窮者の増加、結婚してもすぐに離婚してしまう夫婦、幼児虐待、高齢者虐待と、様々な社会問題が起きているが、これらの多くは人と人とのつながりの希薄化・欠如が原因であり、遠因となっている。

現在の日本社会を一言で表すなら、本来欠くことのできない、人と人とのつながりが欠けてしまった社会なのである。

多くの地域社会では、上記に上げたような問題を抱えつつも、それぞれの地域の活性化を重要な課題として認識し、様々な取り組みを実行している。ではそのように様々な取り組みられる地域活性化とは、いったい何なのであろうか。前述したつながりの欠如した現代社会をふまえて表せば、地域活性化系とは、つながりを再度認識し、より強固に結び直したり、新たなつながりを結ぶことにある。その為に、地域活性化の名の下に、対外・対内に向けて様々な活動・イベントが催されているのだ。

さて、地域活性化とは、このように意図され、行われるわけだが、一口に地域活性化といっても、その地域が抱えている課題・問題は千差万別である。人の多い都市部もあれば、限界集落と呼ばれるような地域もある。農業や漁業を主要産業にしている地域、工場の多い工業地帯等々。その地域地域によって生活スタイル、人とのつながり方、風習、慣習、伝統と様々な要因によって、生まれてくる課題や問題も全く異なるものになる。

そこで次章では、まず、全体的な視点から地域社会とそこのお寺について、を論じさせていただく。次いで、具体的なお寺活用のアイデアをリストアップし、最後にまとめを書いていく。

2) 地域社会とお寺の分析

一言に地域社会といっても前節で述べたように、その場所ごとに生活スタイル、産業構造、習慣、風習、そして抱えている課題や問題は様々である。また、その中にあるお寺に関しても、檀家寺、祈祷寺、あるいは観光寺の違いや、檀家の数、その地域の中での立場など様々である。そのため、日本各地にある全てのお寺に適用でき、かつ有効に使えるようなお寺の活用方法などというものは存在しない。

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P3	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

そこで、必要となってくるのは、その地域の状況を十分に理解し、お寺の持っている資産・潜在力をきちんと把握することである。その二つが十分に理解できたなら、自ずとその地域が抱えている問題が見えてくるだろうし、その問題が起きている原因も見えてくるだろう。そして、同時に、その問題に対してお寺が持っている潜在力をいかに使えば効果的なのが見えてくる。そこまで分かれば、あとは実際に、行動を起こせばよいのである。

以上のことをふまえた上で、本章では地域社会、お寺について、私なりの分析・分類を行っていく。

・地域社会の分析と分類

まず、地域社会の分析であるが、地域社会は大きく都市部と農村部に分けることができよう。東京や大阪といった都市部と私が住んでいる熊野地方では、その生活スタイルも必要とするものも、全く異なる。さらに、都市部、農村部それぞれの中においてもお店や商店が集まる商業地区なのか、住居の多い居住地区なのか、田んぼや畑の多い農業地区なのか、工場の多い工業地区なのか、あるいはオフィス街、繁華街、また学校といったように、その場所や建物の機能によって地域社会を分類できる。以上は、場所や施設、建物の観点からおこなった地域社会の分析である。

続いては、人口、あるいは人口構成である。

その地域には何人の人が住んでいるのか。そして、その内、男女の比率はどのくらいなのか、あるいは、子どもはどれくらいの割合で、大人はどれくらい、老人はどれくらいなのか。このようなことも十分に把握しておかなければならない。

年代や男女の割合と同時に大切なことが、それぞれの人がついている職業である。学生であるか、仕事をしているか、仕事をしていないのか。仕事をしている場合にはさらに詳しく知る必要があるであろう。職業はもちろん、できるならば職業形態もふまえて、どのような仕事をしている人が、どのくらいの割合でその地域にいるのか、これらも分析する内容に含まれる。

以上は、人という観点からおこなった地域社会の分析である。

最後に、時間の流れからみた地域社会の分析である。

どのような地域であれ、そこに人がおり生活や仕事を行っている地域には、時間の経過による大小様々なサイクルが存在する。例えば、一日のサイクル、1ヶ月のサイクル、一年のサイクル。その他にも、伊勢神宮で行われる20年ごとの式年遷宮のような、その地域独特のサイクルも存在するだろう。このサイクルを把握することも地域を分析する上で大変重要なことである。例えば政治家は選挙期間中、通勤時間に駅に立って街頭演説をする事が多い。これはそこに住む人々の一日のサイクルを把握しており、その時間、その場所に人が多く集まることを知っているからである。

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P4	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

その地域の中で一日のサイクルはどのように動いているのか、あるいは一ヶ月のサイクルの中で行われる行事や集まりのようなものはあるのか、あるいは一年ごとのサイクルで行われる行事や催し物は何なのか、そして、その中で人々はどのように動いているのか、しっかり把握されなければならない。

以上が、時間のながれという観点からの地域の分析である。

最後に社会全体・地域固有の動勢、流行、ニーズといったものも、常に考慮に入れておかなければいけない。今社会が何を求めているのか、また、地域の人々が興味を持つものは何なのか、それらは社会の動きと共に、常に変化し続けている。上記の場所・人・時間の分析をふまえた上で、社会の動勢の把握も、地域社会を分析するさい、重要なポイントとなるであろう

・お寺の分析と分類

次にお寺の分析について述べていく。

お寺にどれほどの潜在力があるのか。これはお寺で生まれ、そこで育った人ほど分かりにくいのではないだろうか。お寺やその周辺が日常になりすぎていて、何が特別なのか気づけないのだ。地域社会のためのお寺活用といわれても、お寺の何が地域社会の役に立つのか気づけなくなってしまうのだ。そこで、地域社会の分析と同様、お寺自身についての分析も必要になってくる。

さて、お寺というものを考えた時、まず大きく、施設の側面と人のつながりという側面に分けることができよう。

施設の側面から見たお寺の潜在力の分析とは、文字通り、建物や周辺状況について把握することである。設備はどのようなものがあるのか。本堂の広さ、本堂内部の配置、本堂以外の部屋はどれくらいあり、どんな配置か、水回りはどうなっているか。また、境内についても、広さ、諸堂の有無、植えられている木や花は何で季節によってどう変化するか、石畳なのか芝生なのか、この他にも気づいたことは何でも分析・分類の対象となるであろう。お寺そのものの以外にも、お寺の立地状況、周りにどのくらい建物があるのか、お寺までのアクセス情報、お寺周辺の道路事情等々、地域社会の中でお寺がどのような位置にあるのかも重要な分析・分類の項目となる。以上が施設の側面からのお寺の分析・分類である。

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P5	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

次いで、お寺を中心とした人のつながりという側面からの分析である。お寺を地域社会のために役立てようとする時、この人のつながりこそが、最重要のポイントとなるのではないだろうか。何となれば、どんな活動、集まりも人によって行われるものであり、人のつながり無くしては成立しないのであるから。さて、その人とのつながりであるが、お寺という組織は人とのつながりという点において、他の商店や会社のような組織にはない大きなアドバンテージを持っている。それは、つながりの深さである。お店や会社におけるつながりとは、基本的には物の売買を通してのお客さんと組織・お店というつながりである。そのため、そのつながりの深浅は、組織内部の社員や店主のそれぞれの接客態度や資質による。しかし、お寺の場合のつながりは、その人の生老病死、それぞれの人生の岐路に深く関わることを前提としており、おのずからお寺と人とのつながりが深いものとなりやすく、家族ぐるみでつながることも稀ではない。これこそが、他にはないお寺のアドバンテージであり、地域社会に役立つなにかの活動をする際の強力な武器となる。

では、お寺と人とのつながりというものを分析するとどうなるであろうか。先ず大きく、①お寺を信仰の対象とする檀家・信者、②お寺を生活の場とする寺族や僧侶同士、そして、③その他の出入りの業者や観光客、散歩に立ち寄る人等に分けられる。このうち、なんらかの活動をする際に、最も力になってくれるのは①、②に属する人たちとのつながりであろう。それでは、以下よりそれぞれの分類について細かく述べていく。

先ず、①お寺を信仰の対象とする檀家・信者に属する人たちについてである。この分類に属する人たちは、お寺という組織を日常的に支えてくれている人たちでもあり、お寺自身にとっても最も重要な人たちである。であるから、檀家・信者について、できる限り詳細な情報を得ておくことは、何を置いても最優先されなくてはならない。そして、同時にその情報は常に更新し続けていかなければならない。人は時間の経過と共に、常に変化していくものであり、抱えている悩みや苦しみ、問題や課題も常に変化しているのだから。そこで役に立つのが、昨今言われるようになった現在帳であろう。現在帳を作ること、檀家・信者の動勢を視覚化し、きちんと把握しておく。そして、その変化を常時更新することで、最新の情報として管理しておく。これがきちんと行われているなら、お寺と檀家・信者とのつながりは、自然に太く、深いものとなり、お互いがお互いの存在を身近に感じることだろう。現在帳の作成は地域社会に役立つお寺を考える際にも、強力な武器となるのだ。

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P6	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

そこで現在帳を作る上で、書かれるべきである情報の項目例も以下に列挙しておく。

【現在帳項目例】

氏名、住所、電話、fax、お寺から家までの地図、家族構成（同居人、親戚等）、誕生日、学校、学歴、仕事、職歴、過去帳的項目（故人、年齢、法号、祥月命日、葬儀日時、法話内容、場所）、お見舞い・法事・葬儀の記録（月日、法事の内容、法話内容、備考）、人生相談の記録（月日、内容、指導内容、結果、備考）

以上、上げた項目は、あくまで必要最低限と考えられるものである。その他、その人について気づいたことがあれば何でも記録しておくべきだ。その情報の積み重ねこそが、実際に活動する時の大きな力となる。また、何度も書くが、これらの情報は常に更新を続けなくてはならない。それこそがお寺と人とのつながりの強化であり、深化なのである。

次いで、②お寺を生活の場とする寺族や僧侶同士のつながりについてである。この分類に属する人とのつながりは、①の分類の人たちとは別の側面で、大きな力となる。①に属する人たちが、お寺から見て対外的な側面が強いのに対して、②に属する人たちは対内的側面が強いのだ。では、具体的に②に属する人たちとはどのような人たちであろうか。まず上げられるのは、お寺に住んでいる住職とその家族、そして、その親戚たちである。場合によってはつながりの深くなった檀家・信者がこの分類に入ることもある。これらの人たちこそが、お寺が何か活動をおこなう際の中核となる。次いで、僧侶同士のつながりである。同じ地域に住む同業者、隣町のお寺さん、同じ県内のお寺さん、あるいは、大学や修行場で苦楽をともにした旧友。このような同業者のつながりも、同業者であるがゆえに、様々な悩みや困難を共有でき、助け合っていくことができる大切なつながりである。以上のように、①に属する人たちがお寺で行う活動の対象になることが多いのに比べて、②に属する人たちは様々な活動を行う時に頼もしいバックアップとなることが多いのだ。

最後は、③その他である。この分類に属する人たちとしては、様々な活動に際して初めてお寺に来る人や観光客、散歩に立ち寄る人、出入りの業者等があげられる。これらの人たちは、①、②に属する人たちに比べて、お寺とのつながりが薄い、あるいは全く無いことが特徴となる。その為、宣伝・広告等を何も行わなかった場合、もっともつながりが作りにくい人たちである。しかし、その困難を乗り越えることができたなら、地域にとっても、お寺にとっても非常に大きな可能性となる。であるから、地域社会の活性化のため、お寺が対外的な活動をおこなう際には、広告・宣伝にも気を使い、この分類に属する人たちにも、十分気を配る必要がある。

以上、お寺の持つ資産・潜在力ということについて、人とのつながりという側面からの分析をおこなった。

次章では、具体的なお寺活用のアイデアを列挙していく。

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P7	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

3. お寺活用アイデア

1) お寺活用アイデアについて

本章では、お寺を地域活性化のために利用するための様々な活動・イベントについての具体的なアイデアを列挙していく。それぞれのアイデアには、そのアイデアの概要、目的、期待される効果、おおよその期間、対象となる人々の年代を記してあるので、実際に活動される際には参考にされたい。

なお、これらアイデアはあくまで、活動・イベントの核にしかすぎない。場合によっては他のアイデアと組み合わせたり、内容をアレンジしたりすることも十分にできるので、前章のような分析に基づいた各地域やお寺の状況・状態に合わせ、それぞれのアイデアを自由にアレンジしていただきたい。

2) お寺活用アイデア一覧

1 【お寺でコンサート】

概要：本堂を使用しておこなう様々な楽器によるコンサート。

例…クラシック、民族舞踊、ジャズ等のコンサート

目的：お寺という場に親しみを持ってもらう。

効果：本堂という通常とは違う雰囲気の中で音楽を聴いてもらうことで、一般のコンサートホールやライブハウスにはない独特な空気を作り出すことができ、新鮮な体験を味わってもらうことができる。これにより、会場のお寺に従来までの近寄りがたい、や敷居が高いといったイメージを変え、より地域の中に密着したものに変わることができる。また、演奏家側にも通常とは違う場所でのコンサートに、お寺への親しみ、演奏家自身の新しいイメージを生み出すことができる。

期間：半日、御会式、お施餓鬼等の法要の後の数時間

対象：全年齢

2 【学習塾】

概要：本堂、あるいは客間等を使用した学習塾。形態として受験を目標にした形態、学校での授業の補習を目標にした形態が考えられる。

目的：勉強を教えていく過程で、学校、通常の塾では軽視されがちな、倫理道德、モラル等も指導する。また、子ども、学生といった若い世代に、お寺に親しんでもらう。

効果：子どもの成長の中にお寺の存在を加えることができる。また、お寺を支えていく信徒青年団へと繋げていくこともできる。

期間：1年～

対象：10～20代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P8	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

3【図書館、図書スペースの設置】

概要：本堂、あるいはお寺内の一室、一面に図書ブースを作る。そして、仏教書、一般書等を並べた本棚を設置し、本の閲覧・貸出を自由に行う。また、その一部として閲覧・自習スペースを設けることも考えられる。

目的：檀家、一般地域住民の知識向上。知的好奇心の発育。また、お寺に足を向ける理由にもなる。

効果：身近にあるお寺に、簡単に閲覧することができる本があることにより、それまで本を読まなかったような人にも手に取ってもらいやすくなり、また本を読むことにより知識の向上を図ることができる。仏教書のみならず、一般書を置くことで、新たな興味を持ってもらえる。さらに設置する本に漫画、絵本、ライトノベルのような子ども向けの本も含めることで、子どもにまで対象を広げることができる。

期間：無期限

対象：全年齢

4【お茶会・カフェスペース・喫茶ブース・ラウンジ・オープンテラス】

概要：本堂、境内を使い、お茶会を開く。あるいは常設型のカフェ・喫茶スペースを設置する。

目的：人の集まりやすい場所、集まりたい場所を、本堂、境内を開放して設置し、様々な人を集める。そして、お茶と共にゆっくりした時間と参加者同士の交流・会話を楽しんでもらう。

効果：お茶と共にまじわされる会話により、コミュニティ内部のつながりの強化が考えられる。また雑談等の中から地域社会内部の様々な情報を得ることもできる。

期間：無期限

対象：20～50代

5【放課後の遊び場】

概要：小学校、中学校、高校の授業終了後の遊び場、勉強の場所として境内を開放する。

目的：安全な境内を遊び場とすることで、親や子どもが安心して遊べる場を提供する。

効果：子ども達に仏教に基づく倫理道徳を学ばせることができる。子ども同士の、学校を越えてのつながりができる。子どもの成長過程にお寺が関わるきっかけとなり、よりモラルの高い青少年育成に繋がる。

期間：無期限

対象：10～20代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P9	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

6 【カルチャースクール】

概要：お寺の持つ人脈を生かし、様々な文化・教養を持つ人を講師に定期的なカルチャースクール、講習会を行う。

例…茶道、華道、ビジネスマナー、地域の歴史、パソコン教室、ヨガ、英会話、写真講座、囲碁、将棋、書道等

目的：お寺の人脈を地域に住む人々と繋げ、それぞれの人に有意義に活用してもらう。

効果：お寺の、これまでとは違った側面を見せることができる。様々な文化を学ぶことに対して、移動や資金の面であきらめていた人々に、敷居を低くして参加してもらうことで、新しい事を学ぶ満足感を得てもらうことができる。

期間：3ヶ月～1年

対象：20～70代

7 【修行会・修行道場】

概要：短期間、短時間で簡易的な修行体験を行う。

修行例…勤行、唱題行、写経、作務、水行、

目的：癒しというような心の安心が求められることが多かった昨今、修行を通して、心に平安、平穏を取り戻してもらい、それからの日々の生活の助けとしてもらう。

普段なじみのない仏教とその実践に触れてもらうことで、仏教に興味を持ってもらい、また、仏教が日々の生活に役立つことを感じてもらう。

効果：それぞれの生活の中に仏教とその実践を取り入れるきっかけとなり、心安らかに日々を送るきっかけとなる。お寺、僧侶とのつながりができることで、それからの法事や葬式、お寺での行事への取り組み方も変化してくる。

期間：1日～1週間

対象：20代～

8 【朗読会・読み聞かせ会】

概要：本の朗読会、また、幼児、小学生対象の読み聞かせ会を本堂でおこなう。

目的：知育、知識向上。普段本に接することが少ない人に物語の面白さ、楽しさに触れてもらう。また、普段本を読む人にも、耳から物語を聞くという新しい体験を経験してもらう。

効果：物語の内容、面白さが耳から直接伝わることで、それまで本に接することが少なかった人も、本を読むきっかけとなる。ひいては知的好奇心の増進、知識の向上にも繋がる。

期間：半日

対象：全年齢

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P10	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

9【写経・写仏・仏像制作の会】

概要：お経を自らの手で書き上げる写経や、仏の絵を書く写仏、また彫刻刀で自ら仏を作る仏像制作等の行為を、本堂という場で行う。

目的：写経、写仏、仏像制作を通して、自らと向き合い、乱れた心を整え、心の平安を取り戻す。

効果：お経や仏像と真剣に向き合うことで、それまでとは違った見方が、お経や仏像に対してできるようになる。よりお経、仏像を身近なものとして感じられるようになる。

期間：半日～1日

対象：20代～

10【アマチュア趣味人の展示会、各人の趣味紹介】

概要：お寺を展示会場と見立て、様々なアマチュア趣味人の展示会を行う。また同時に展示を行った本人による講習会、体験会等を行う。

発表・展示例…写真、絵、陶芸、アロマテラピー、書道、詩、活け花、水墨画、彫刻等

目的：同好の志の交流。その趣味に興味を持っている人には、より詳しく知ってもらえる場となる。また、全く知らなかった人にも興味を持ってもらう。地域社会内の趣味を通したつながり作り。

効果：色々な人の色々な趣味を展示・発表する場を提供することで、発表者は刺激と向上心を得られ、見に来てくれる人には、自分の知らなかった趣味との出会いとなる。趣味を紹介することで、お互い同士をより深く知り合える。

期間：1日～1週間

対象：10代後半～

11【田舎暮らし移住支援・移住体験】

概要：田舎に暮らしてみたい、農家になりたいといった人を対象にした、衣食住から人付き合い、田舎暮らしのノウハウまで含めた移住支援。あるいは、田舎暮らし、農家体験。

目的：田舎暮らしをしたいが、不安だという人に、様々なサポートを行うことで、より長く、安心して田舎に移住してもらい、その地域の活性化に繋げる。

効果：閉塞感の強い農村部に他の地域から人を迎えることで、新しい変化をもたらす。田舎移住を考えている人には、安心感を与え新しい一歩を踏み出す後押しになる。同時に迎える側も、それまでのマンネリ化した生活から、新しいつながりを育て、成長させる生活に変化し、日々の生活に意欲が生まれメリハリを与え、より生き甲斐のある生活になる。

期間：半年～数年

対象：30～60代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P11	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

12【農業体験】

概要：檀家、あるいはお寺周辺の農家と協力して、それまで農業体験をしたことがない人々に畑を耕す、種を植える、収穫する等の農業体験をしてもらう。

目的：普段食べている野菜や果物がどのように収穫されるのか体験してもらう。食べ物のありがたさの再確認。いただきますの心を取り戻す。

効果：食べ物の大切さを再認識できる。

期間：半日～1日

対象：10～60代

13【お葬式セミナー・臨終行儀・エンディングノート作成】

概要：お葬式そのものの意味や読まれるお経の内容、祭壇に飾られる様々なものの意味をセミナー、講習会の形で説明する会。また、実際にお葬式を体験する体験型セミナー、講習会。その一環として自分自身の死に対しての終活支援（エンディングノートの作成等）を行う。

目的：お葬式やそれに付随する様々な儀式の意義、必要性、大切さを理解させる。避けることのできない死について、きちんと考える時間を持つ。

効果：普段考えることのない死について、考えるきっかけとなる。死を実感、体験することで周囲に対する優しさ、思いやりが生まれるまた自分自身の生活においても、死を意識することでメリハリが生まれてくる。

期間：半日～1日

対象：20～60代

14【スポーツチャンバラ】

概要：境内を開放して行うスポーツチャンバラ。あるいは新聞紙等を丸めて作った紙製刀によるチャンバラごっこ。

目的：スポーツ振興。子ども達の体力・健康の増進。子ども同士のつながりを広げ、深める。

効果：外で走り回って遊ぶ子どもが少なくなった昨今、チャンバラという単純ながらも、熱中できるスポーツを通して体力の増強、健康の促進を図れる。また団体戦形式で遊ぶことで、子ども同士のコミュニケーションが深まる。

期間：1時間～半日

対象：10代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P12	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

15 【町内清掃】

概要：お寺周辺、あるいは地域全体の清掃作業を地域住民と共に定期的に行う。

目的：周辺地域をきれいに保つ。また同じ作業を共同して行うことで地域社会の中での人と人のつながりを再確認する。

効果：町がきれいに維持されることで、そこに住む人の意識も健康に保たれる。またそれらを自分の手で行うことで地域社会への愛着、周辺住民との深いつながりを感じることができる。

期間：無期限

対象：全年齢

16 【手製お守り作り】

概要：参加者自身に一からお守りを作ってもらい、その場で参加者と一緒にお経を唱え、ご祈祷をしてお守りを以て帰ってもらう。

目的：普段持つお守りにより愛着を持ってもらう。自分が持つお守りにはお経が読まれていることを自覚してもらう。

効果：普段何気なく買ったりするお守りを、一から自分の手で作ることで、お守り、ひいてはご祈祷をする仏さまにより親しみ、愛着が持てるようになる。そして、お守りの加護をより感じられることで、日々の生活に安心を感じられる。

期間：1時間～半日

対象：20～70代

17 【タイムカプセル】

概要：境内の一面に、希望者の記念品などを入れたタイムカプセルを埋め、石碑、記念碑を立てて数年後～十数年後に開封する。

目的：子どもの頃の思い出、夢を、境内に保存することで、その周辺地域への愛着を持たせる。また、その地域に対して、タイムカプセルを何年後かに開封するというつながりを持つってもらう。

効果：タイムカプセルというつながりを持つことで、成長過程において地域に対して愛着、親しみを持つことができる。実際にタイムカプセルを開封した時に、子どもの時のつながりを再度結べたり、過去とのつながりを結び直すことができる。

期間：数年～十数年

対象：10代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P13	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

18 【職業紹介・講習、体験】

概要：それぞれが就いている職業の紹介。あるいはその職業技術で生活に役立つものを講習形式で教えてもらう。

目的：互いの職業理解。より深いコミュニケーション。

効果：それぞれが就いている仕事について理解することで、お互いの理解が深まり、より深いコミュニケーションを行える。また自分が就いている仕事を他者に紹介することで、自分自身もそれまで気づかなかった新たな側面を発見できる。講習を聞いた側は専門家から学べるので知識向上にも繋がる。

期間：半日～一日

対象：30～60代

19 【精進料理、郷土料理教室】

概要：精進料理、あるいはその地域に伝わる郷土料理を教わる料理教室。

目的：精進料理教室を通して仏教の精神を学ぶ。郷土料理教室を通して、その地方の歴史や伝統を学び継承していく。参加者同士の交流。

効果：精進料理を学ぶことで、普段の食も変化していき、食、ひいては健康に対する意識を変えることができる。

伝統料理に触れることで、郷土愛、地元への愛着を生み、また先人から学ぶということを通じてコミュニティのつながり強化になる。

期間：半日～一日

対象：20～30代

20 【瞑想】

概要：ヴィパッサナー瞑想、マインドフルネス瞑想法、チベット仏教の瞑想法等を本堂のような清浄な空間で行う。

目的：瞑想を行うことで、日常生活で見過ごしている様々な気づきを得て、心の平静を取り戻す。

効果：心に平静、安心が戻ることで、日々積み重なる様々なストレスの軽減になる。

期間：1時間～一日

対象：10～60代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P14	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

2 1 【朝夕の声かけ活動】

概要：朝夕の通学時間に、お寺の前や周辺で通学中の学生達に声かけを行う。

目的：地域の安全向上。学生のモラル向上と同時に、学生達とのつながりを結ぶ。

効果：大人の目が子供に向けられていることをしっかりと形で表すことで周辺地域の安全性が上昇し、学生、またその親たちも安心して生活できる。大人達の目がきちんと自分（学生）に向いていることを自覚し、支えられている、繋がっているという安心感と同時に学生自身のモラル向上になる。

期間：毎日

対象：学生全般

2 2 【ペットパーク・広場】

概要：境内の一部を解放し、ペットを自由に遊ばせることのできるフリースペースにする。

目的：ペットの運動場。飼い主同士の交流。

効果：ペットの運動不足解消。飼い主同士がコミュニケーションを取ることで、様々な情報交換ができ、地域のつながり強化にもなる。子どもにも開放することで、ペットと触れ合える場にもなる。

期間：毎日

対象：10～60代

2 3 【墓地ガーデニング】

概要：各家の墓地区画それぞれにプランター等を置いてガーデニングが可能なようにし、希望する家庭には自由にガーデニングを行ってもらう。また、お寺側は、ガーデニングの管理のバックアップや、共同して使える資器材の管理を行う。

目的：お墓に定期的に通ってもらう。ガーデニングを通して、土いじり、自然とのふれ合いを体験してもらう。

効果：お墓に定期的に通うことによって、家族のつながりの強化になる。また、お墓でも生花やお菓子をお供えすることが規制されている昨今、お墓を飾る彩りとなる。

期間：1年

対象：20～70代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P15	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

24【境内ガーデニングスペース】

概要：境内の一区画をガーデニングスペースとして、開放し希望者に自由にガーデニングをしてもらう。あるいはお寺側が指揮しガーデニングスペースを管理し、ガーデニングスペースの花が見頃の時期には人を集め観覧会、散歩会等を行う。

目的：共同作業を通しての地域社会のつながり強化。景観美化。花と接することによる癒しの体験。

効果：マンションやアパート住まいで庭を持ってない人でも気軽にガーデニングを楽しむことができる。また花の生長に合わせて様々な作業を行わなければいけないため定期的にガーデニングスペースにて作業を行う必要があり、様々な人と接する機会にもなる。

地域社会の景観に彩りを添える一助にも成る。

期間：1年

対象：20～70代

25【フリーマーケット、物産展】

概要：本堂、境内を開放し、フリーマーケットや物産展等の会場とする。

目的：地域社会の活性化。様々な物品を、必要のない人から必要のある人へ結びつける場。

効果：様々な人が色々な物を持ち寄り、売り買いすることで地域全体に活気が広がる。地域社会のつながりが強化される。

まだまだ使える物の有効活用ができる。もったいないという精神が育成される。

期間：半日～1日

対象：10～60代

26【境内散歩の会、森林浴】

概要：ある程度境内が広い場合は境内内をゆっくり歩行による瞑想を意識しつつ散歩する。また地域内に自然公園や遊歩道がある場合でも、同じようにその中を、歩行による瞑想を意識しつつ散歩を行う。

目的：散歩による地域の自然の再認識。散歩による癒し・リラクゼーション。

効果：散歩をしながらの交流で参加者同士の親交が深まる。また、いつもは通り過ぎるだけの風景を、ゆっくり散歩をしながら眺めることで違った視点で見ることができ、気づきのきっかけになる。地域のことを知ることで、その地域への愛着が増す。

期間：1時間～半日

対象：20代～60代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P16	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

27【異業種交流会】

概要：お寺周辺の地域で、様々な職業に就いている人たちを集め交流会を行う。

目的：お互いの職業について理解を深める。他者の職業を知ること、その人のことをより詳しく知り、つながりを深める。

効果：異業種間で交流を深めることで様々な視点、価値観を得ることができ、参加者それぞれがスキルアップを図れる。地域の人たちと交流することで、地域の理解が進み、より愛着がわく。

期間：1時間～半日

対象：20～40代

28【仏教に基づく生活講座】

概要：仏教経済学、少欲知足、地産地消、自給自足など仏教に基づく生活を実践するための講習会。

目的：生活のスタイルを見直すきっかけ。エコロジー等が盛んに言われる現代において、仏教的見地から見た自然に優しい循環型の生活を紹介する。

効果：仏教の教理を学ぶと同時に、その実践方法として環境負荷の少ない生活スタイルを学ぶことができる。自分の生活がいかに人や自然とのつながりの上で成り立っているのか、再確認ができ、過度な欲望を抑え、自然に自然や社会に優しい生活へと変化できる。

期間：1時間～半日

対象：20～40代

29【断食体験】

概要：きちんと計画され、管理された断食を行うことで、身体に負担が少ない形で内部から身体がきれいになることを実践する。

目的：身体を内部からきれいにする。食に対する欲望を制御、我慢することを通して精神修養をはかる。食のありがたさの再認識。

効果：身体が中身からきれいになることを実感すると同時に、普段の食生活がいかに自分自身の身体に汚れを与えているのかを感じることができる。食べ物のありがたさ、それを用意してくれる全ての人に対する感謝の心がおきる。

期間：1日～10数日

対象：20～40代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35才	男性
NO.189	P17	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

30【人材スキルマッチング】

概要：あるスキルを持つ人と、そのスキルを必要としている人たちをマッチングさせる、登録制のシステムをお寺で管理運営する。マッチングの際、お金を介在させないというシステムの組み方も考えられる。

目的：人と人との交流の促進。お金依存型社会からの脱却。

効果：人に頼り、頼られるという関係が自然にでき、地域社会のつながりをより実感できる。同じ地域に住む他人がどんな職業に就いているのか知るきっかけになる。

期間：半日～数日

対象：20～70代

31【家系図作り】

概要：家系図を作るための様式・テンプレートを用意し、家族参加のワーク形式、あるいは、それを渡し帰宅後それぞれに作業をしてもらう形で、各家庭の家系図を自分で作ってもらい、自分のルーツ、家族のルーツを理解してもらう。

目的：自分自身のルーツを知る。家族のつながりの再確認。先祖の大切さの再確認。

効果：両親はもちろん祖父母やその父母を家系図という図にしてまとめることで、自分が一人で生きているのではなく、つながりの中で生きていることを実感できる。家族間で会話を促進するきっかけとなる。法事やお盆に対する意識も変化し、より積極的になる。

期間：半日～1日

対象：10～30代

32【目標実現のための誓いと実現過程報告の会】

概要：目標実現のためのワークグループを作り、を本堂等にメンバーを集め、定期的な会を実施する。具体的な内容は、ある一定の期間を定め、その日までに叶えたい目標を発表し、その実現のためにこれからどのようなスケジュールを行っていくのかを皆の前で発表しあう。そして、その期間までの間に定期的にメンバーが集まり目標達成までどれだけ進んでいるのかを発表しあう。聞いている方は、発表の中で気づいた問題点を指摘したり、より有効なアドバイスをを行い、発表者の目標実現までをしっかり見守っていく。そして、最終的に定められた期日までに目標を実現していく、というもの。

目的：各人の目標を実現することで、より充実した人生を歩んでもらう。目標を複数の人とで共有することで目標実現の可能性を高める。

効果：一人では諦めてしまう目標でも、他人と共有することで高いモチベーションを維持でき目標実現につながる。また目標実現に向けて前向きに日々を送ることができるため、生活そのものの質も向上し、ひいては地域社会全体の活性化にもつながる。

期間：1年間～5年間

対象：20～40代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P18	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

33 【家族・友人への手紙のすすめ】

概要：遠くに離れて暮らしている家族や友人に季節の便りや手紙を定期的を送ることをすすめる。その為の手紙のテンプレート作成や配布、皆で集まり手紙を書く会のような集まりをお寺で行う。

目的：進学や仕事等で家族の元を離れることになった家族や、遠くにいる友人とのつながりの維持。地域の情報の発信。

効果：地域から離れてしまった人でも、手紙や便りをもらうことで、その地域のことを思い出す。また、遠く離れていても自分は一人ではない、ちゃんとつながりがあるんだと自覚することができる。

期間：1時間～半日

対象：10～70代

34 【お寺・地域の新聞の発行】

概要：地域に関連するニュースを発行し、道の駅、観光スポット等に置かせてもらう。また元々その地域に住んでいた人などにも郵送し、地域のことに関心を持ってもらう。記事内容等は地域に住んでいる人たちにお願いし書いてもらう。

目的：地域の情報の発信。地域とのつながりが疎遠になってしまった人に、再度地域に関心を持ってもらう。地域の魅力の再発見。

効果：地域に住んでいる人ならではの情報を発信することで、その地域の魅力が広まる。その地域を離れてしまった人にも、地域の変化を伝え、郷愁を呼び起こし地域に関心を持つようになる。その地域の人たちが自ら新聞を作ることで、当たり前のことや日常だったものに新たな気づきを得ることができる。

期間：1ヶ月～数ヶ月おきに定期的

対象：全年齢

35 【作務衣・着物・浴衣作り】

概要：作務衣や着物、浴衣を自分の手で作る集まり。その会場として本堂やお寺の一室を開放する。

目的：同じ作業を一緒にすることによる交流。伝統文化の継承。服作りを通してリサイクル、「もったいない」の精神を感じる。

効果：服作りを一緒に行うことで交流が深まり、参加者同士のつながりが深まる。作務衣や着物、浴衣を自作することで、それらを着る機会が少ない人にも興味を持ってもらえる。着なくなった着物を再利用することでリサイクルの実践になり、また、それを残してくれた人たちとのつながりを実感する機会にもなる。

期間：1時間～半日の会を定期的に

対象：10～40代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P19	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

36 【マイお経本作り】

概要：白紙のお経本、あるいはルーズリーフのようなお経本を使い、自分で写経をしたお経本を作る会を定期的に行う。その際、お経の意味や仏教の思想の解説等を行うのも良い。

目的：お経本作りを通して、その内容や仏教思想の勉強を行う。お経、あるいはそれを読むことに親しみを持ってもらう。

効果：自分でお経本を作り、それを持って法事や行事に出ることでお経を読む時の気持ちや法事や行事にのぞむ姿勢がより積極的になる。また、定期的に集まりを行うことで、参加者の交流が深まる。

期間：1時間～半日の会を定期的に。

対象：30～70代

37 【昔語りの会】

概要：その地域に長い間住んでいた年配の方に昔、その地域でどんなことがあったのかお話ししてもらう。数人で座談会のような形でおこなってもよい。できるだけ年配の方々が自然に話せるような場を作る工夫が必要。

目的：地域の歴史を知ることによる、地域とのつながり強化。年配の方が持つ潜在力の発揮。年配の方と若い世代の橋渡し。

効果：地域の歴史をじかに聞くことにより、自分たちの住む地域により愛着が湧く。それまで接することの少なかった年配の方と接することで、新しいつながりが生まれ、地域が活性化するきっかけとなる。。

期間：1時間～半日

対象：10～80代

38 【自分の戒名を考えよう】

概要：自分の死後、つけられる戒名を自分で考える会、あつまり。年一回のように定期的におこない、自分の人生を振り返る機会にしてもよい。

目的：戒名の本来の意味を理解する。死を身近に考えることによって生を充実させる。

効果：自ら戒名をつけることで戒名に関心を持つようになる。自分の死後を考えることで、死の準備、心構えが養われる。また、死の実感、生の実感にもつながり、日々の生活を瑞々しく輝かせる。

期間：1時間～半日

対象：40～80代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35才	男性
NO.189	P20	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

39【アナログゲーム交流会】

概要：将棋や囲碁、麻雀、あるいはモノポリーのようなボードゲームのようなアナログゲーム遊ぶ会、あつまりを本堂、お寺の一部屋等を使い開く。

目的：ゲームを通して人と人との交流をはかる。伝統的な遊びの継承。

効果：顔を合わせてゲームをすることで交流が深まり、地域社会のつながりの強化になる。子どもも参加させることで、老人から子どもへ遊び文化の継承がおこなわれる。また、デジタルなゲームしか知らない子どもにとっては、新鮮な面白さとなる。

期間：半日～1日、定期的に

対象：10～70代

40【無人市場】

概要：境内の一画に無人市場用のスペース、売り場を設置し、お寺で管理する。

目的：新鮮な野菜の流通。農家が収穫した野菜等の売り場確保。

効果：定期的に無人市を開くことで、周辺の人々の食生活の向上に役立つ。また農家にとっても売り場が増えるので、やる気と共に生活の質も向上する。

期間：毎日、週一回、のように定期的におこなう。

対象：30～70代

41【中学・高校・大学の部活・サークル対象の精神修養】

概要：中学・高校の部活（運動部系など）や大学の運動部系サークルを対象に唱題行や読経、寒行、水行などをおこなわせ、精神修養の一環とする。

目的：学生の精神修養。

効果：精神修養、修行体験を通して規律・規範を守るということを覚え、モラル向上になる。厳しい修行をやり遂げたという経験は、学生達が困難に出会った時の大きな力になる。

期間：半日～一週間

対象：10～20代

42【中学・高校の部活と連動した活動】

概要：中学・高校の部活の発表・活動の場としてお寺の境内、本堂を開放する。それぞれの企画はできるだけ学生たち主導でおこなう。

例…茶道部のお茶会・野点、美術部・写真部・書道部などの展示会、演劇・演奏会など

目的：学生にとっての新しい表現の場所としてお寺を提供する。

効果：学生たちが自ら企画を考え、それを実行するために協力し合うことで学校での活動だけではできない経験ができる。

期間：半日～2、3日

対象：10～20代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P21	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

4 3 【仏前結婚式の紹介、体験セミナー、お見合い仲介、婚活支援】

概要：お寺でおこなう仏前結婚式を紹介するセミナー、あるいは実際に体験できる体験会をおこなう。また、その一環としてお寺の人脈を使ったお見合いの仲介や、婚活パーティーのような婚活支援もできればなおよい。

目的：若者達の結婚の支援。

効果：結婚支援を積極的におこなうことで、少子化対策となる。また、地域の中で新たなつながりが生まれるきっかけとなる。

期間：半日～1日

対象：20～30代

4 4 【仏像パー、カフェ】

概要：お寺の雰囲気を取り入れた空間を作り、様々な仏像を展示し、お酒やお茶を提供する。店舗を構える場合とお寺の中を利用する場合とが考えられる。お坊さんならではのお説教や法話をメニューに加えるのもよい。

目的：地域交流ができる場の提供。様々な仏像の展示、鑑賞。

効果：お酒やお茶を交えて交流することで、つながりがより深くなる。穏やかな空間で様々な仏像を鑑賞することで、心の平安、安らぎが得られる。

期間：店舗型の場合、毎日。お寺の一画を利用の場合は、週一回や月一回のように定期的に。

対象：20～70代

4 5 【法要荘厳への参加、その為の練習会】

概要：花祭りやお施餓鬼、御会式などの季節ごと、節目ごとの法要に際して、法要荘厳（散華、楽、太鼓、稚児行列など）をやってもらうメンバーを集め、定期的に練習会をおこなう。そして、法要本番にも法要荘厳として参加してもらう。

目的：伝統行事の継承と振興。それぞれの行事の意味を理解する。

効果：お寺が催す伝統行事に積極的に参加することで、その意味や歴史を知り、伝統行事の継承に役立つ。同じ目標に向かう仲間ができることで地域内の交流が活発になる。

期間：1時間～半日程度の練習会を、週一回、あるいは月一回といった間隔で定期的に。

対象：20～50代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P22	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

4 6 【映画、ビデオ上映会】

概要：本堂にてプロジェクター、スクリーンを使い映画の上映会をおこなう。娯楽としての映画鑑賞だけでなく、ドキュメンタリーなどの映画を上映し、知識向上を目的とすることも考えられる。

目的：娯楽提供。知識向上。

効果：映画館がないような地域では、地域の人々にとっての娯楽になる。趣味嗜好が似た人々が集まるので、その人達の交流の場となりやすい。

期間：1 時間～3 時間

対象：1 0～7 0 代

4 7 【送迎、循環バス運行】

概要：お寺や地域内での行事に際して、マイクロバスやハイエース等の大型車両にて送り迎えをおこなう。

あるいは、お寺が中心となり、地域の人々にメンバーとなってもらい乗り合いバス・車を相互に利用し合う集まりを作る。そして、遠出をするために車を利用したい人と、お寺で手が空いている人が運転手をするか、メンバー内で運転できる人をマッチングさせる。また運行情報を電話、ネット等で連絡することで、相乗りしたい人も見つける。

目的：地域内外での移動が困難な人への移動支援。高齢者への定期的な声かけ。

効果：運転が困難になりなかなか外に出なくなった人も移動手段があることによって生活にメリハリができる。このシステムを利用してくれる人たちとは定期的に会うことになるので、それぞれに自然に声かけができ、体調が悪くなった場合にすぐに対応できる。また、孤独死などを防ぐこともできる。

期間：毎日

対象：運転手…2 0～5 0 代、利用者…6 0～9 0 代

4 8 【ハンモックで昼寝会】

概要：折りたたみ式ハンモック、簡易式ハンモックなどを、仕切をした境内（芝生などを敷くことができればなお良い）の一面などに設置して、自然を感じながらリラックスしてもらう昼寝会のようなものをおこなう。

目的：自然と親しむ中で、心の平安、安定を得る。ゆったり流れる時間を体験する。癒しの体感。

効果：ハンモックでのんびりする体験を通して、生活リズムをリセットすることができ、それ以後の仕事や生活への活力を生み出す。

期間：半日～1 日

対象：2 0～6 0 代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P23	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

49【親子会】

概要：親と子が心おきなく遊べる場として本堂、あるいは境内を開放する。あるいは親と子が協力して行う作業や遊びをイベントとして企画する。

目的：親と子のつながり強化。子を持つ親同士の交流。子ども同士の交流。

効果：遊びや作業を親と子が一緒におこなうことにより、親子のつながりがさらに強化される。また、親同士が子どもに関する様々な悩みを共有することで、育児の助けにもなる。

期間：1時間～1日。定期的におこなう。

対象：子どもとその親

50【夏祭り、正月等での境内開放、実行委員会方式での運営】

概要：お寺の境内を開放して、季節のお祭りや農作物の収穫祭、正月の初詣など人を集めるイベントをおこなう。その際には実行委員会を立ち上げ、できるだけ地域の人々に運営から関わってもらう。

目的：様々なイベント・お祭りに地域の人々に主体的に参加してもらう。地域の人々の交流活性化。

効果：自分たちでイベント・お祭りを運営することにより、地域への愛着が生まれる。また、日々の生活にもメリハリが生まれ、モチベーション向上にもなる。

期間：実行委員会として1年間、定期的にあつまる。イベント・お祭り自体は1～3日程度。

対象：20～60代

コンサート 学習塾 図書館 カフェ 遊び場ほか			35 才	男性
NO.189	P24	修行／同じ趣味の会／勉強会／真剣な話し合い／僧侶が必須／交流が目的の会／セレモニー／境内・伽藍の開放／土地を貸す／展示会／本格経営／情報発信／紹介所／ボランティア支援／地域ネットワーク／僧侶の努力		
				⇒ジャンルへ

4. まとめ

地域の活性化とは、そこに住む人々の人生がより良いものとなり、笑顔が絶えず、日々の生活が充実していることを目標とするべきである。主役はあくまで地域の人々の生活でなければならない。そして、地域社会のために行われるお寺の活用も同様でなければならない。

昨今、地域活性化とは、沢山の人や物をその地域に集めること、あるいは地域の物を売ってお金を儲けることであるというような印象が強い。しかし、物やお金といったものは、あくまでもその地域に住む人々の生活をより良く向上させ、幸せに生活するための手段に過ぎない。しかし、物やお金を求めすぎることが、その地域に住む住民の幸せを、逆に奪ってしまうことがたびたびある。

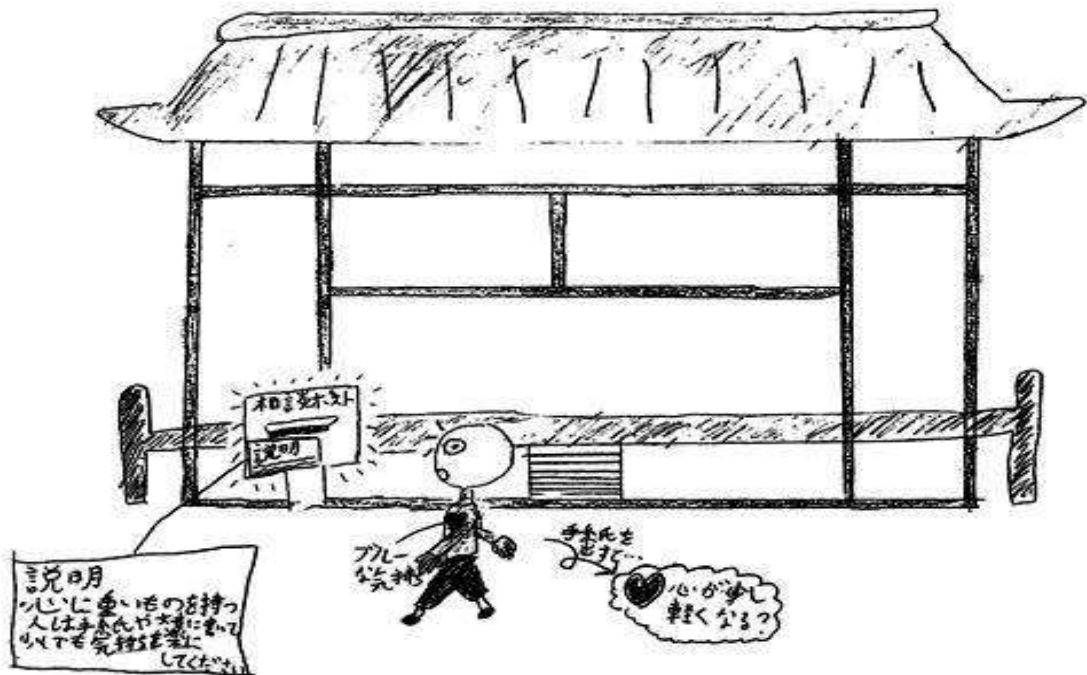
良質な地域住民の生活や人生の幸福には、何を置いても人それぞれのつながりが重要となってくる。人を人たらしめているのは、他の存在（この場合の存在とは、人に限らず、動物や植物、情報や知識も含まれる）とのつながりなのである。人が、今の状態から別の状態に変化する原因は、他の存在とのつながりの中にしかない。今の状態から幸せな状態になれるのは、良いつながりがあるからである。今の状態から悪い状態になってしまうのは、悪いつながりがあるからなのである。

地域社会のためのお寺活用を考える時も、当然このつながりの重要性を無視することはできない。地域をより良く活性化させようと思うのなら、良いつながりを重視した活動をしていかなければならないのである。先に挙げたアイディアのリストについても、人と人とのつながりという視点から、活動を行われなければ全く意味をなさないのである。その点では、つながりの重要性を最も理解しているお寺・お坊さんは色々な活動・イベントを行う上では最適なのである。

それらをふまえた上で、地域社会・お寺の分析・分類をしっかりとこない、現状を十分に把握し、リストアップしたそれぞれのアイディアを、分析・分類にもとづきアレンジしていただき、自由に活用してもらいたい。

悩みや困った事を
直接顔を見て、うちあけるのは苦手な人が
たくさんいると思う。
それに、
お寺に もともと かかわりのある人は
住職と話しやすかったり
出入りがしやすいけど
とっかかりが難しい人が多いと思う。
でも文章や手紙なら心を素直に
開くことができるのではないかと思います。
心に重いものを持った人が寺の前を通る時に、
書いてみようかなあ? と思えるために、
相談ポストの設置を考えました。

アイデアの概要



【タイトル】

お寺にある荒地を耕して皆で畑にしよう

【動機】

誰もが携帯を持ち通信手段が発達して便利な時代になりました。

子供達は家の中でゲームを相手に遊ぶようになり外で遊ぶ子供を見る事が少なくなりました。

時代の流れでしょうか・・・便利な時代になった裏側には間接コミュニケーションは取れても顔を見て話をする直接コミュニケーションが少なくなったような気がします。

地域とのコミュニケーションをお寺の畑を通して行い、色々な人との出会い、縁を持つことが出来れば、そこで「顔を見て話をする」直接コミュニケーションの場として活用できるのではないかと思います提案する事にしました。

【提案】

畑にする場所・・・お寺の敷地内にある荒地

最初からきれいな畑の土地からではなく、荒地から開墾して畑作りをスタートする。

土に触れる機会が少ないので土に触れ体を動かしーからの物づくりを行う。

開墾方法 ……地域への募集をかける

スタートの開墾は地域への募集をかけスタートの開墾から参加してもらう。

募集対象 地域の人、檀家

募集年齢 小さな子供からお年寄りまで(年齢は問わず)

具体的には、地域のコミュニティ広場、保育園、幼稚園、小中学校、高校、檀家で募集をかける。

畑の先生 ……実際に畑を作っている地域の方、檀家の方

沢山の知恵をもらう為、先生を何人かお願いする。

【種まき、収穫の資料】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
じゃがいも			種まき				収穫		種まき			収穫
玉ねぎ							収穫		種まき			
ニンジン			収穫						種まき			
さつまいも					種まき					収穫		
大根	収穫								種まき			
白鳳	収穫								種まき			
キャベツ									種まき			収穫
きゅうり			種まき				収穫					
トマト			種まき				収穫					

畑をこんな事に活用したい！！

【まずは勉強から】

私は畑を作った経験がなくまずは種まきから収穫までの勉強をしました。
畑は以外に奥が深く簡単に畑を作る事は出来ないという感想をもちました。

【畑づくりの計画】

一年を通して開墾から種まき、そして収穫、さらにコミュニケーションを!!計画したく私なりに計画を立ててみました
まずは素人なので無理の無いところから計画を下記のように立てました。

- 1月 畑づくりに参加してくれる方を募集
- 2月～4月 開墾、畑の土作り
- 5月 さつまいもの苗うえ
- 9・10月 大根、白菜、じゃがいも、玉ねぎ、ニンジン、キャベツの種まき さつまいもの収穫
- 1月 大根、白菜の収穫

【コミュニケーション計画】

寒修行を行った後、収穫した野菜で豚汁を作り皆で会食をする

開墾から畑作りでコミュニケーションが多くもてるのですが更にお寺らしいコミュニケーションを持ちたく

1月の収穫祭と合わせて寒修行の体験を考えました。

寒修行は私も毎年参加していますが、参加してみると寒修行の良さがよくわかり是非色々な方に経験
してもらいたく計画をしました。

【実現に向かって】

お寺には実際に雑草が茂っている100㎡の荒地があります。その場所を住職にお願いして畑として利用させて
いただけないか、近い将来お願いを考えております。

地域は田舎で全く交流がないという訳ではないのですが、コミュニケーションの場が少ない為、出会いも、縁も
昔に比べて随分少なくなりました。

畑を一から作ることによってより多くの人と縁を結んでもらい、色んな人が交流できる場所にできたらと思います。

そして子供達にこの地域が`多くの縁でつながり助け合いの精神``人に対する優しさ`を肌で感じて成長して
もらいたいと願っています。

防災拠点 女性会議 人生相談 国際貢献 寺子屋ほか		55 才	男性
NO.192	P2	勉強会／真剣な話し合い／相談窓口／まつり型イベント／ボランティア支援	
			⇒ジャンルへ

事業名 : 国際貢献体験塾

趣 旨 :
 ・ラオスの学校建設等への次世代僧侶候補や檀信徒の子弟を二国境を越えて派遣する。
 ・6～10歳の子ども達に「感謝」「我慢」「自立」「友情」などの体験をさせる。
 ・費用は熊本の「人吉市」のようには造れる。

事業名 : 寺院を利用したボランティア体験塾システム

趣 旨 : 寺院を利用して、様々なボランティアの体験や実施の受け入れや支援を行う。被災地のお寺等を利用してのボランティア受け入れや宿泊、食事は、被災地の内容や安全対策、医療体制等マニュアルやシステムを防災会議等を通して宗門で作成し、ある程度基準を満たすボランティア受け入れ寺院に人や金銭の支援を行い地域復興の礎となる寺院利用。

事業名 : 寺子屋「文化体験塾」

趣 旨 : 地方の田舎ではお寺だけが地域コミュニティの場である場合が多々見かけられる。塾や文化教室などのない地域は時として退屈であり人々が文化や歴史に触れる経験を奪っている。
 そんな地域の体験や文化、ちょっとした習い事の「場」を作り提供し多くの地域住民が集えたら良い、習字、茶道、華道、和洋裁縫刺繍、絵画、行儀作法、料理など、住職や寺庭、檀家や近所のボランティア等得意な人を招き趣味と交流の場を提供出来ればと思う。広がれば参加者が次々アイデアを出しもっともっと広がりを見せ、地域の力が地域の活性化を図ると思う。

ポイント: お寺の敷居を低くすること

地域の出来るだけ沢山の人を巻き込んだ事業とすること

近隣他寺（日蓮宗以外も含む）との連携や交互開催なども面白い

施餓鬼や写経などは日蓮宗他寺とも連携や交互開催なども面白い

防災拠点	女性会議	人生相談	国際貢献	寺子屋ほか	55才	男性
NO.192	P3	勉強会／真剣な話し合い／相談窓口／まつり型イベント／ボランティア支援				
						⇒ジャンルへ

事業名 : お母さんの駆け込み寺「子育てほっとルーム」

趣 旨 : 民生委員、児童委員をしていると時々感じるのだが、核家族化が進む中で、子育ての苦手な、相談相手を持たない母親が増えている。時として不幸な事故も新聞やマスコミをにぎわしている。

当寺でも副住職夫妻を中心に連紹寺C A F Eとキッズルームを定期的に開催し同世代の子を持つ夫婦の交流の場やお茶の飲みの場を提供しているが、とても良いことである。

町の真ん中ならいざ知らず、地方の田舎ではお寺だけが地域コミュニティの場である場合が多々見かけられる。そんな中子育てが苦手なお母さん、悩みを持つお母さん、少しの息抜きをしたいお母さん達のため、お寺がその場を提供出来たら素晴らしいと思う。

もちろんお寺自体がそれを行うには負担が大きいですが、月に1～2回子育てを終えたお母さんやお婆さんが若いお母さんや赤ちゃんと過ごす場や時間を提供し心配ごと、悩み、愚痴でも話せる場があれば良いと思う。地域の児童委員さんやボランティアを巻き込んで「場」を作り提供し多くの地域住民が集えたら良い、お父さんの日や不登校児童の日、親子の料理教室、行儀作法、座禅や修養道場へのきっかけとなればと思う。

ポイント: お寺の敷居を低くする

地域の出来るだけ沢山の人を巻き込んだ事業とする
お寺以外の支援者を沢山募る
無理のない範囲から始めていく

防災拠点 女性会議 人生相談 国際貢献 寺子屋ほか			55才	男性
NO.192	P4	勉強会／真剣な話し合い／相談窓口／まつり型イベント／ボランティア支援		
				⇒ジャンルへ

事業名 : 「いのりんびっく」IN 連紹寺

日時 : 2012年～13年

場所 : 島根県出雲市連紹寺境内

趣旨 : 2011年度島根県でいのりんびっく「いのちだんだんフェスタ」が開催された。出雲市連紹寺も飲食部門の担当で20名近いスタッフで出かけた。当日打上げの席でスタッフが言い出したのは「出雲」で「連紹寺」で開催しようとの意見でした。

予算やスタッフから決して大きな事は出来ないがお寺の規模にあった独自の「いのりんびっく」を開催したい。

連紹寺では18年前、ちょうどオウム真理教事件、地下鉄サリン事件等、若者がおかしな宗教に惑わされたり行き場所を探し求めている時、青年会を立ち上げ檀家や地域の青少年の居場所作りを始めました。

現在も沢山の事業の中、檀家、信徒を始めその友人やボーイスカウト関係者やOB、国際交流グループ関係者、男女共同参画関係者、四方綱引き参加チームの地域の小学生、中学生、高校生、清掃奉仕の中学校バスケット部員、手芸関係、子育て関係等々本当に様々な人がお寺を訪れてくれます。

18回を数える夏祭りでも催し物は地域のエンターテイメントの皆さん（吹奏楽・合唱・手品・神楽・太鼓・トランペット、ダンスチームなど）をお呼びし交流を続けています。

今、お寺には何にも代え難い人材のネットワークが出来ています。そんな人・仲間達と一度命の尊さやありがたさ、大切さを語り合うと共に震災や津波、水害等で大変な思いをしている人たちにも思いをはせる時間を持ちたい。

他のお寺にもきっと様々な人的交流や人材、素材が有ると思います。私たちが寺院単位で行う小さな小さな「いのりんびっく」の

スタートを切ることで全国に「ミニミニいのりんびっくの輪」を広げていきたい。そして日蓮宗の三つの想い「心」「社会」「人」を育てていくため、自分たちで出来るさまざまな交流のスタートとしたい

防災拠点 女性会議 人生相談 国際貢献 寺子屋ほか		55 才	男性
NO.192	P5	勉強会／真剣な話し合い／相談窓口／まつり型イベント／ボランティア支援	
			⇒ジャンルへ

「いのりんびっく」IN 連紹寺 (案)

対 象 : 日蓮宗会員・出雲近辺日蓮宗寺院・中高校生・一般市民・留学生・
担 当 : 飲食スペースの開設 (連紹寺檀信徒・近隣寺院・出雲の台所スタッフ・その他)

スタッフ: 連紹寺檀信徒・近隣協力寺院・ボランティア (中高校生・近隣住民・檀信徒友人・一般) 他

予 算 : ◆未定・チケットにて販売

内 容 : ◆法要・法話・講演会 (東北の被災地より)
◆展示
・パネル展示 他寺活動・日蓮宗 (宗門より)・いのりんびっく資
・写真展示 他寺活動・日蓮宗 (宗門より)・いのりんびっく資
・その他展示 連紹寺活動 (写真・刺繍など作品展示・他)
◆模擬店 (食べ物:トレイ:マイ箸)
たこ焼き・焼きそば・焼きトウモロコシ・おでん・カレー・ポッ
プコーン・ラーメン・串焼き・おにぎり・綿がし・揚げ物・そば・
うどん・その他
◆模擬店 (飲み物:紙コップ:マイグラス)
ジュース・ビール (生・ギネス樽)・カクテル (バーテンダー協
会) お茶・水は無料
◆ゲーム
風船釣り・輪なげ・スーパーボールすくい・射的・型抜き・フィ
ッティング・キャンディーのつかみ取り・
◆イベント
・ステージイベント・歌 (参加者全員)・タイムサービス・抽選
会・
・一人一針 (平和と平安を祈って参加者から一針ずつ戴く)
・震災者へのメッセージボード作成
・夢書き込みボードの設置・護摩木に祈りを書きもやす
◆募金及び寄付
震災被災者のための寄付 (いのちの共有・感謝・お裾分け)

1 円挨拶どころ		66 才	女性
NO.199	P1	境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

① 1 円挨拶どころ
 赤子から老人に至るまで、午後一
 時から午後一時まで、一月もって挨拶
 に行き、世間話をする
 縁

乳幼児、児童の時間預かり		不明	不明
NO.201	P1	同じ趣味の会／境内・伽藍の開放／土地を貸す／公園化 一般年中行事／情報発信	
			⇒ジャンルへ

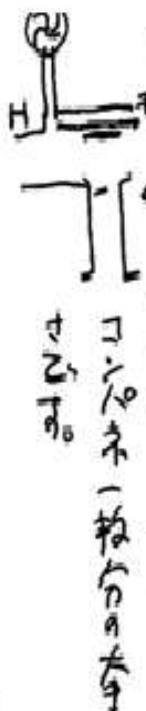
地域社会のための、お寺の活用アイディア

家内は元保育師。寺内で役立つ仕事を探そう。乳幼児、児童の時間預かりを実施。一時間〇〇円から、四、五日何回、何年もの例もあり。入園まで預り、母、祖父母、若い母と子のグループの集いがあり、接触あつて、遊ぶ所など（又はお茶会と食事）そこで境内開放し、毎春秋深いいころ、焼芋大会と昼食会実施。本堂でお昼寝。フリマ、演芸会も以前はしたことあり。カルタ大会も。

知名度も、お寺の姿勢を力に、
こまめな取り組みは今も実施

丁字路つまり当り、ガードレールに
掘き板を伝導と行事を有板と

す。第一報停止しますから



地元新聞に不要本と其の
文庫、新刊、コミック絵本
つづいてハガキ月一返信で

地元の作家ギャラリーとして活用		25 才	女性
NO.204	P1	展示会	
			⇒ジャンルへ

☆活性化アイデア

- ・ 地元の作家ギャラリーとして活用
 - 作家の作った作品（イラスト、布雑貨、陶器等）
 - をイベントのようにして展示・販売したりする

[illegible]

和 輪 話

(みつわ)

- お寺様のイメージでは、葬儀・精神修行・静寂・神経を常に
はうておかなければならない様な気がします。今の時代
パソコン・携帯電話でメール・又少子化のため老人との接点か
ありません。お寺の境内は安全です。ぜひ、お坊さんの
協力を得て、地域で年齢・男女・関係なく、何でも
得意な事がある人、困ったことある事を聞いてくれる人を
境内でお店を開いたりしてはどうですか。
- ◎大きな声、人の前で話しが出来る人、人の場合、
お経を大きな声でやり、そのように人が何人か集まり
コミュニケーションが出来る。リウウクスさせる。
コミュニケーションが出来る様になつてくると地域の
色々な集まりが出来、広がってくると思っています。
- ◎お寺さんの活用が広がってくると思っています。

バザー		もちつき大会	焼きいも	映画大会	演奏会	56才	男性
NO.207		P1		展示会／一般年中行事／仏教年中行事			
							⇒ジャンルへ

＜活性化アイデア＞

お寺の境内を活用して、

バザー・もちつき大会・

枯れ葉（落ち葉）清掃と



焼きいも（地域消防団と協力）

屋外映画大会・小・中学校

演奏会（ブラスバンド等）

① 活性化アイデア

- ・老人は別にして、青少年・壮年の者にとって「お寺」は具体的な活動が見えないので近寄りがたい。
- ・青少年にとって魅力ある「お寺」とは何か？……行ってみたい！
見てみたいから「和尚」の話も時には聞いてみたい……青少年をひきつける
「音楽会」「餅つき大会」「白蓮さまと元寇映画会・紙しばい」etc
- ・まず行動(やって)してみる事で次にやるべき魅力あるものが見えて来るのではないかと思う



 のおにぎり、おむすび、いなり寿司(α日、
 豚汁、大根T(α日、炊き芋の日……など。

月1回位(土、日とか) 誰でも参加して
参拜できる果て(金庫で)

- 放課後の寄り所、寺子屋。
- 土曜祝も交代でボランティア等が活動。
- 相談(就労、他対応)に集まる。
- フリーマーケット、物の交換、物を活かす会。
- 乳児から幼児預り遊び所。

人來の時、何気なく世間話して
(心で) お互に、恨み相諍し
(おれ女に限り、明かすに)
たつた。

、今の淋しい、荒れた心にも温かくなる所
 して、心の中にあるものを、智慧を
 心の中にある笑顔で集めるように感じている。

若い世代に道徳を 社会人に安らぎを

どちらの寺院でも
実施していただけると
思います。

今、社会は「心の時代」であり、経済的な厳しさなどから心の余裕を失ってしまっている方がたくさんいます。それと同時にお金はあるけれども心が満たされてないという方もいます。不安の多い世の中で育つ、こいく子供達の教育も改めなければいけないと思います。

このような人々を救うには、法話を聞く機会を設けるのが良いと思います。仏の悟りを聞き、自分の抱えている問題の答えを導き出せば、心を平に生活できると思います。そして教育において何が正しくて何が間違っているかわかる。そうこそ子供達に仏の真理を教えるべきだと思っています。話の後には皆で汁粉粥などを食べつつ会話を交わせば人々との繋がりも生まれ、地域の輪も広がるのではないでしょうか。

お寺でお店		15才	男性
NO.218	P1	まつり型イベント	
			⇒ジャンルへ

活性化アイデア

「お寺でお店」

寺院のたてものの一部を無料(もしくは少額の確)で1日〜1週間単位で貸し出し、借り手は、そのスペースでお店(雑貨屋、レストラン)などを開くことができる。

利点

- ・寺院でやるのが場所がとておあがりやすい。
- ・これからお店を出したい人のためとして利用することができる。
- ・多くの人々が寺院に定期的に訪れやすくなる。

法律相談等

法律相談、家事相談、消費者相談等

を寺院でやるとよいと思います

お寺なら心を開くことができるとも知
れませんか

お客様の希望によっては住職も話を
きいてあげると良いでしょう

他人には相談しづらい悩みごと、困り
ごとは多いと思います

女性のお客様には女性の担当者をつ
けるのも良いでしょう

役所や弁護士、司法書士、行政書士の事
務所などはちよとひとりではいきづら
いものです

お寺でアドバイスしてもらえたら助か
ります

「朝のおつとめ」による集い

月に何回かでもいいので、午前6時とか7時ぐらいで、信徒の皆さん、また宗派を問わずごく一般の人たちをまじえて読経する。朝の勤行をするといったことを菩提寺、僕の近くの寺院でもやって頂きたいと思っています。またその後に茶話会を開いて人々の交流を深めたり、心の悩みや相談があれば、のってもらうような場を作って頂ければ尚良いです。励み合いながら頑張っていける心を養う、そんな活動拠点となってほしいです。僕は京都の日蓮宗本山の寺で毎日朝参りしているところ、び月一回程参加させてもらっています。読経するのは心にもいい効果があると実感します。

寺市ネットワーク構想		不明	不明
NO.221	P1	土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

寺市ネットワーク構想は“まちづくり”のための新流通機構。
まちづくりのために、地域とお寺が手を取り合って“ひと”“もの”“情報”の流通させていこうという仕組みです。

はじめに

寺市ネットワーク構想は
“まちづくり”のための新しい流通システム構想。
“まちづくり”のために、
地域とお寺が手を取り合って
“ひと”“もの”“情報”を流通させていこうという仕組みです。

“笑顔のともなったコミュニケーション”
“ワクワク感・連帯感を地域で分かち合う体験”こそが、
豊かな地域コミュニティを育てます。

この、“体験”を伴ったコミュニティの基盤が無ければ、
防災／介護／教育など
地域コミュニティでしか解決できない課題に
対応することはできません。

私たちは、
地域の人が時には出店し、時には買い物に出かける
フリーマーケット型の地域物産市、“寺市”を開催し、
笑顔と笑顔が出会う、地域コミュニティの拠点を作ろうと考えています。

そして更に、
この寺市をネットワーク化し、各地域の物産・ひと・情報を流通させ、
それぞれの地域の魅力を笑顔に乗せて、
血の通ったコミュニケーションを、全国に広げようと考えています。

寺市ネットワーク構想		不明	不明
NO.221	P2	土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

Contents



1. 寺市とは何か？
2. 寺市の開催概要
3. 寺市コーディネーターの役割
4. 寺市を開催する地域のメリット
5. なぜお寺が舞台なのか？
6. 寺市のネットワーク化による相乗効果
7. 寺市ネットワーク事務局の役割
8. 役割とメリット
9. 100ヶ寺で36万人に笑顔を提供する！
10. モデルケース開催までのステップ
11. 100ヶ寺達成の道のり

1. 寺市とは何か？

土の香りが残るおいしい野菜を作った近所の農家
 その土地ならではの製法で作った自慢の味噌を作っているおばあちゃん
 土地に惚れ込んで移住してきた陶芸家
 最近開業したレストランの若夫婦etc

そんな地域の人々が、
 開催を心待ちにしている寺市は、
 単なる地域物産市ではありません。

寺市は、
 地域情報がクリップされる掲示板であり、
 地域の伝統文化を継承する教室であり、
 地域の良さを再発見する双眼鏡。

そして、
 ついつい笑顔になってしまう
 笑顔と笑顔と出会うコミュニケーションの場です。

寺市ネットワーク構想		不明	不明
NO.221	P3	土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

2. 寺市の運営概要

フリーマーケットスタイルの 地域物産市



〇〇寺 寺市実行委員会が主催
(寺院とNPOなどの共催が望ましい)



寺市ネットワーク構想		不明	不明
NO.221	P4	土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

寺市の運営概要

主催／運営	〇〇寺 寺市実行委員会（まちづくりNPONGOと寺院の共催が望ましい）
会場	地域のお寺の境内
開催日	月1以上の定期開催が基本
出店者（地域）	寺市コーディネーター（主催寺院の僧侶など）が承認した地域の個人、事業者
出店者（地域外）	他地域の寺市コーディネーターが承認した地域の個人、事業者
出店スタイル	フリーマーケットスタイル。基本的に自己完結型の出店。電源・水道は提供。
出店費用	実行委員会の定めるところによる。
スタッフ	寺院関係者（寺族、檀家）、まちづくりNPONGOのスタッフ、公募ボランティア
告知方法	地元メディア（回覧板・掲示板・タウン誌）、出店者にチラシを提供、地元の口コミ等
出店例	土の香りが残るおいしい野菜を作った近所の農家／家の不要品を出品するお母さんと子供／土地に惚れ込んで移住してきた陶芸家／最近開業したレストランの若夫婦etc
出店者の商品	野菜、地域の伝統的な食品、工芸品、レストランのケータリング、リサイクル品など

3. 寺市コーディネーターとは？

寺市コーディネーターになるには？

事務局が行う、「寺市ノウハウ講習」を受講して頂き、修了者を寺市コーディネーターに認定する。（基本は開催寺院の僧侶）

開催意義の共有／開催ノウハウの習得／関連する法令の学習

役割

①地域の魅力を引き出す出店者の発掘・認定（太鼓判）

基本的に、寺市コーディネーターが寺市の実施意義に照らして、出店者を認定する。

素晴らしい出店者を発掘できれば寺市が盛り上がり、地域も盛り上がります。

②他地域の寺市のサポート

近隣の寺院で寺市が開催される際や、初めて寺市を開催する寺院にサポートスタッフとして参加頂きます

③広報活動

地域メディアの担当者とパイプをつくり、寺市の広報活動を行います

ポータルサイト、ソーシャルメディアから情報発信

寺市ネットワーク構想		不明	不明
NO.221	P5	土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

4. 寺市を開催する地域のメリット

寺市が地域に与える影響

- ①参加型のイベントだから世代を超えて共働き、ワクワク感・連帯感を分かち合える
地域コミュニティの活性化には受け身でない自発的なワクワク感・連帯感が必須
- ②地域の魅力の再発見につながる。さらなる、地域への誇りを醸成。
周知された特産品ばかりが、地域の魅力とは限りません。
寺市コーディネーターがアンテナとなり、地域の魅力の発掘・再発見を行っています。
- ③行政に頼らない継続性のある街づくりが可能
行政任せになっているイベントは、様々な理由から持続性がありません。
自分たちに必要な街づくりは、自分たちが自律的に行うべきです。
- ④お寺が盛り上がることは地域にとってとても大切なこと
お寺は、地域のヘそのようなもの。ヨーロッパのカテドラルのように、街のヘそに活気があると
その街全体に活気が伝わり、安心感も広がります。
地域の子供たちが、幼い頃からお寺に親しみ、利己的でない仏教の教えにふれる機会を得ることが
地域社会にとっても非常に大切なことです。

5. なぜお寺が舞台なのか？

お寺でなくてはならない理由

お寺は誰でも知っている地域のランドマーク
 子供の頃から知っている安心できる場所（信頼感）
 「いいことをする場所」と感じる人が多い。利己的な気持ちになりにくい。
 血の通ったコミュニティの土台がある（檀家、近隣の人々、住職や寺族の知り合い）
 公共性が高い場所であるが、無機質でない（公民館と違い、あったかい場所）
 行政が主導するイベントのように脈絡無い理由による中止等がない
 境内や、駐車場など広いスペースがある

寺市ネットワーク構想			不明	不明
NO.221	P6	土地を貸す		
				⇒ジャンルへ

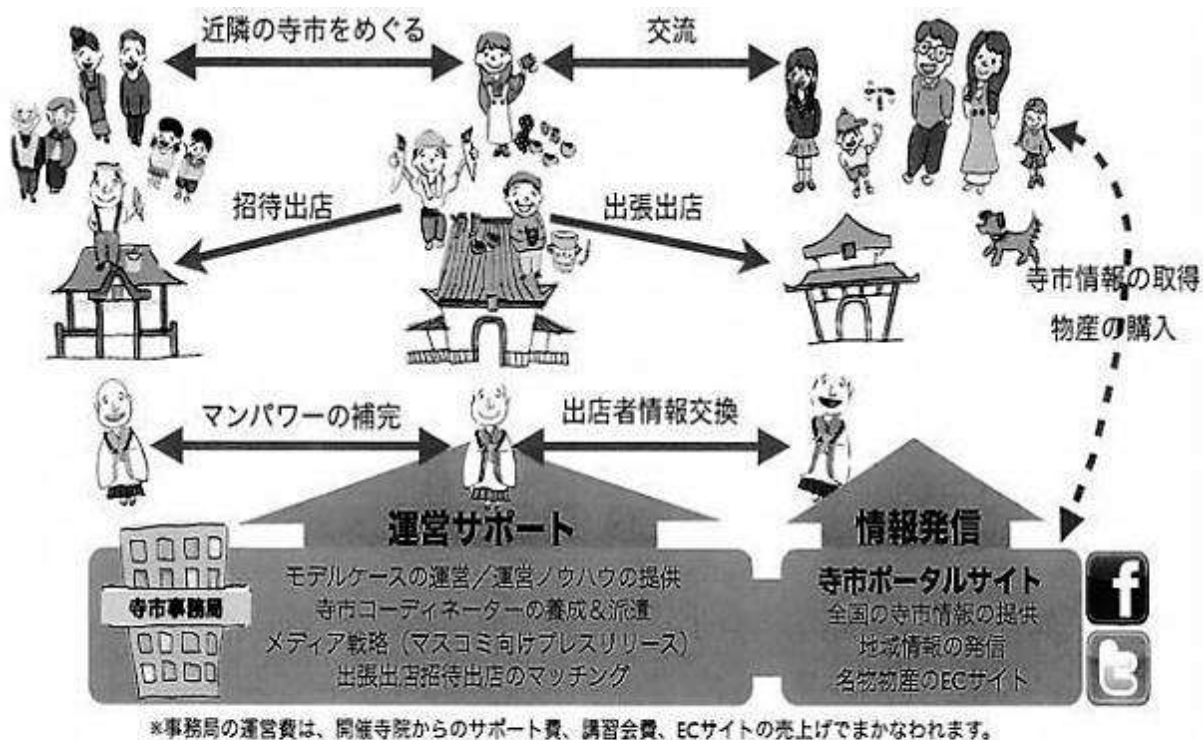
6. 寺市のネットワーク化による相乗効果

寺市のネットワーク化によるメリット

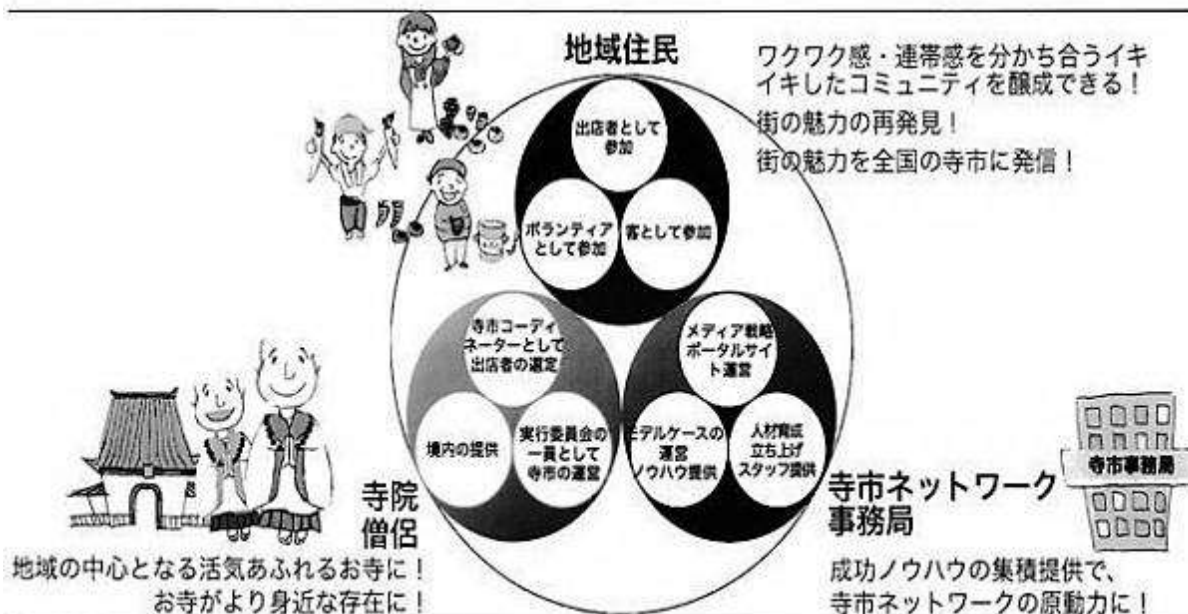
- ①ノウハウの集積／共有
事務局が主催するモデルケース、他寺院のケースを参考によりよい寺市を追求できる
- ②寺院におけるマンパワー不足の解消
開催寺院同士の相互協力関係でマンパワー不足を解消
寺市コーディネーターを事務局から派遣
- ②我が街のイチ押し物産を全国の寺市に出品できる。人的交流も期待
地元一次産業・地場産業の活性化
- ③広報活動によるメリットの共有
新聞・TV・雑誌などへの積極的プレスリリース
各地の開催寺院で寺市情報誌を配布
ポータルサイト、ソーシャルメディアからの情報発信
- ④寺市ネットワークの基盤を使ったイベント開催が容易になる
音楽・ヨガ・映画・落語などなど 講師・出演者の交渉を事務局がまとめて行える

7. 寺市ネットワーク事務局の仕事

- ①モデルケースの企画運営
千葉房総の2寺院と東京都内の2寺院でモデルケースの実施
- ②ノウハウの集積／マニュアル作成
- ③開催寺院サポート／各寺市の立ち上げ支援
講習会等でノウハウの提供／人的支援（寺市コーディネーターの派遣）
- ④他地域の寺市から招待出店する場合のマッチング
例）房総半島のとれたて鮮魚が、移動魚屋店として都内の寺市に出店
- ⑤ポータルサイトの運営
寺市の最新情報や、ECサイトを含んだ寺市情報ポータルサイトを運営
- ⑥メディア戦略／広報支援
新聞テレビ雑誌などに積極的なプレスリリース
ポータルサイト、ソーシャルメディアから情報発信／チラシポスター等の広告制作



8. 寺市のネットワーク それぞれの役割とメリット



寺市ネットワーク構想		不明	不明
NO.221	P8	土地を貸す	
			⇒ジャンルへ

9. 100ヶ寺、年間のべ36万人に笑顔を提供する寺市ネットワーク 経済効果も大

寺市が生み出す笑顔の試算

想像してみましょう。

1回あたりの参加者（主催者+スタッフ+出店者+来場者）＝100人
 その家族も、出店者の商品に触れるとして、参加者100人×その家族（3人）＝300人
 1回開催あたり300人×年12回＝のべ3600人

更に、全国100ヶ寺のネットワークとなれば、
 3600人×100ヶ寺＝のべ36万人もの笑顔のネットワークを生み出すことが可能です。

この時、お寺には、地域のあらゆる情報が集まり
 本当の意味での“街の駅”となっているでしょう。

地域住民は、この街の駅を地域資産として更なる活用を考案することが可能です。

10. モデルケース開催までのステップ 2012年秋開催予定

- 1.千葉、東京、神奈川から4件ほど開催寺院を開拓（事務局）
- 2.寺市コーディネーターを10名ほど認定（事務局）
- 3.寺市コーディネーターが中心となり開催寺市への出店者を募る
- 4.地域外の出店者と開催寺院をマッチング（事務局）
- 5.開催ノウハウを開催寺院にレクチャー（事務局）
- 6.広報活動（事務局）
 - 寺子屋ブッダの寺市プロジェクトページから告知
 - 各種ソーシャルメディアから告知
 - チラシ、ポスターのフォーマット作成
 - プレスリリース 新聞、テレビ（ローカル含む）雑誌
- 広報活動（開催寺院）
 - チラシ、ポスターの配布掲示
 - ボランティアの募集
 - 地域情報紙に掲載依頼
 - ※ 無料チケットを出展者から買い上げて配布

寺市ネットワーク構想			不明	不明
NO.221	P9	土地を貸す		
				⇒ジャンルへ

7.実施

寺市コーディネーターの派遣／ノウハウの提供

お寺の地元ボランティア募集

8.結果報告

寺市情報誌 月間てらいちの配布（開催寺院に置かせてもらう）

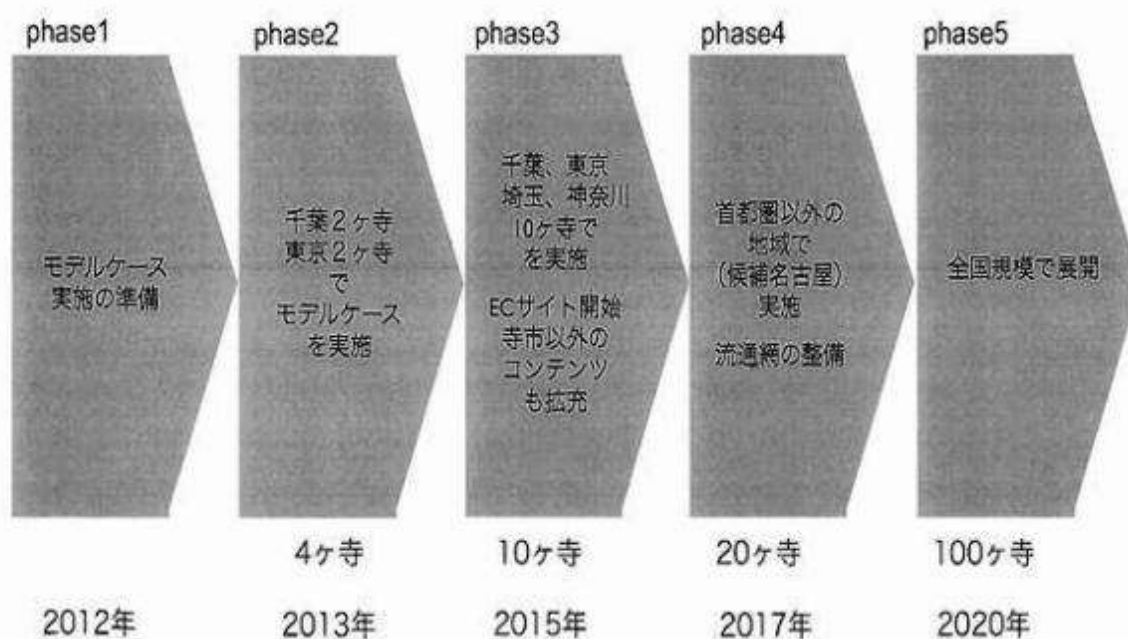
寺市プロジェクトのサイトから報告

プレスリリース

9.寺市ネットワークを使ったその他イベント企画、企画サポート

映画上映、音楽、ヨガ、盆踊りライブ、落語

11. 寺市ネットワーク 100ヶ寺達成への道のり



お寺は、心のコミュニティー		67 才	男性
NO.222	P1	同じ趣味の会／セレモニー／境内・伽藍の開放	
			⇒ジャンルへ

「お寺は、心のコミュニティー」

- ① お寺は一般的に檀徒を、中心の行事で、活動しており、此の点の工夫が、必要である
- ② お寺と観光との結びつき、
- ③ お寺の歴史を掘り出す
- ④ お寺に、まつわる祭りの企画
- ⑤ お寺に、集まった人を、飽きさせない
- ⑥ お寺に、日常的にお茶を飲み、お話しができ、聞いてあげる場所
- ⑦ 縁日、少なくとも月に1回
- ⑧ 動物の供養を、盛大におこなう
- ⑨ 信仰により集まり
- ⑩ お上人の徳、人気
- ⑪ 子供たちを集める工夫「親も参加する」
- ⑫ お寺のキャラクターを作る
- ⑬ お寺の「ご本尊」以外の、者で人を集める
- ⑭ お寺の、周り歴史から考える
- ⑮ お寺の、者に見て又触れる「例、仏像」
- ⑯ お寺と、他のお寺とのジョイント。イベント
- ⑰ お寺として、宗派をこえての、考え方も必要ではないか

* ここで紹介いたします。長野県 駒ヶ根市赤穂、日蓮宗大法寺「ご本尊、以外の者で人集め」檀徒が、約 250 軒と小さなお寺であります。特に取り立てて、話題性のあるお寺ではありませんでした。本堂の右側奥に小さな、朱色の祠がりましたが、誰しもが気にはしていましたが、取り立てて如何することもなく今日まで着ました。お上人に聞きましたら、長野県では珍しい「最上稲荷大明神」とのことで、お寺御興し、町御興しに一役かていただきたく、バスを仕立てて、岡山県最上稲荷へお参りに行ってまいりました。今年の春4月に、大々的にお祭りを、企画して準備をしてまいりました。

イ・・・朱の昇旗の奉納、320 本

ロ・・・油揚げの奉納

ハ・・・駄菓子、オモチヤ、宝投げ、爆弾菓子の実演、「お寺の世話人が準備」

ニ・・・大法寺餃子

ホ・・・大法寺飯頭「10 円飯頭」

ヘ・・・大法寺お上人による、法話

ト・・・大法寺、祈禱

チ・・・狐の、「着る、ぐるみ」

リ・・・豚汁、甘酒

多くを、計画、準備しておりましたが、東日本大災害の為、延期となり、平成 23 年 10 月に、規模を縮小して、開催いたしました。「最上稲荷大明神」を中心とした。人とのコミュニティーの場として、お寺を盛り上げて生きたい、上記に箇条書きしました内容は、どこのお寺でも考えられると思います。